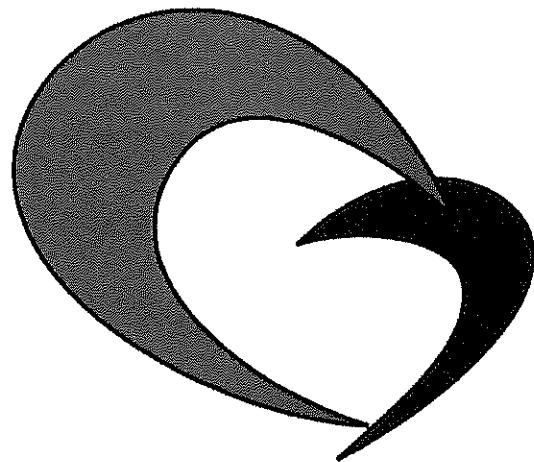


平成 28 年度
事業報告書



《理念》
共生 協働 自律

社会福祉法人 大館市社会福祉事業団

目次

平成 28 年度 大館市社会福祉事業団 本部 事業報告	1
平成 28 年度 大館市養護老人ホーム成章園 事業報告	10
平成 28 年度 大館市特別養護老人ホームつくし苑 事業報告	21
平成 28 年度 大館市デイサービスセンター大滝 事業報告	54
平成 28 年度 大館市社会福祉事業団ホームヘルパーステーション 事業報告.....	59
平成 28 年度 指定居宅介護支援事業所おおたき 事業報告	63
平成 28 年度 大館市地域包括支援センターおおたき 事業報告.....	67
平成 28 年度 大館市ケアハウスほうとう 事業報告.....	73
平成 28 年度 大館市立老人福祉センター 事業報告	85
平成 28 年度 大館市ふれあいセンターやまびこ 事業報告	88
平成 28 年度 年間事業報告（成章保育ルーム森のおうち）	91
平成 28 年度 大館市へき地保育所 事業報告	94
平成 28 年度 年間事業報告（二井田保育所）	95
平成 28 年度 年間事業報告（真中保育所）	97
平成 28 年度 年間事業報告（下川沿保育所）	100
平成 28 年度 年間事業報告（沼館保育所）	102
平成 28 年度 年間事業報告（花岡保育所）	103
平成 28 年度 年間事業報告（矢立保育所）	105
平成 28 年度 年間事業報告（長木保育所）	107

平成 28 年度 大館市社会福祉事業団 本部 事業報告

平成 28 年度は、「社会福祉法」の一部改正に伴う定款の変更、評議員選任・解任委員会の設置、理事及び評議員定数の改定、新評議員の選任、社会福祉充実残額の試算、財務諸表等電子開示システムの試行運用データ登録など、必要な準備を滞りなく進めることができた。

特に役員・評議員の選任については、同じく一部改正となった「社会福祉事業団の設立及び運営の基準」に則り、市とも協議を重ねたうえで選任を行うなど、組織体制のガバナンス強化に努めている。

地域における公益的な取り組みの一つとして、新年度からの事業開始を計画していた配食サービスについては、市担当課に相談しながらその準備を進めてきた。施設における食事提供のノウハウを十分に活用して、在宅で配食サービスを受けられる方の健康状態に適した食事を提供しながら、在宅生活の充実に貢献できるよう事業を推進していきたい。

職員の採用においては、福祉のみならずほとんどの業種で中途採用が見込めない状況であることから、新卒者の採用確保を重点に複数回の採用試験を実施するなどして必要人数を採用することができた。施設実習や事業所見学の受入を積極的に行なったことで、法人や施設の理解を得られ、就職先として選んでいただけたことに繋がったのではないかと評価している。今後は、当法人が実施している就業に関する情報を様々なツールを活用し、広く公開することも含め多角的に求人活動を進めたい。

本部管轄の部会・委員会については、これまで管理職を中心に活動を推進してきたが、その基盤が整い一定の成果を出すことができた。次年度からは係長・主任など現場の指導的立場の職員への移行を進め、職員の育成に努めながら活動の充実を図っていく。

最後に、厳しい決算結果が続いているため、予算計上した収入確保の対策、支出管理手順の見直し、人件費の仕組みの見直し等、收支の改善に取り組むことを当面の課題と捉え、総括とする。

平成 29 年 3 月 31 日

社会福祉法人 大館市社会福祉事業団
理事長 長 岐 利 堅

1. 部会・委員会活動報告

【人財育成システム検討部会】

平成 29 年度は、新採用職員の研修プログラムも再度検証を加え、カリキュラムの見直しを図った。これにより、新採用向けの研修プログラムの標準化への足掛かりとなつた。

法人内のキャリアステップ別の研修については、一部未実施となつたものもあったが、概ね計画どおり実施した。未実施のプログラム（ステップ3「リーダーシップ」）については、平成 29 年度に 2 年分の対象者合同で実施予定である。

また、平成 28 年度は、その前の年度に改訂した人財育成のシステムの定着をねらい活動した。その結果、「力量評価表」の再改訂につながり、現場での OJT（職場内での教育訓練）への活用可能な用改善することができた。ただし、力量評価のフィードバック面接や日ごろの OJT 等、現場で人を育てていく取組については未だ課題が多く残されており、今後も継続して法人内すべての職員に対し人財育成の意識が浸透していくよう、具体的な改善を図る。

(1) 研修実績

	ステップ0 (経験0~1年)	ステップ1 (経験1~2年)	ステップ2 (経験2~3年)	ステップ3 (経験4~5年)	ステップ4 (6年目~)	ステップ4 (指導者層)
4	ISO9001 部門目標活動報告会					
6	新採用職員 研修	コミュニケーション				
7					リスクマネジメント	
9			スーパー ビジョン	法人理念 と実践		
10	腰痛予防講座					

【記念事業検討部会】

平成 29 年 11 月 14 日に法人創立 20 周年を迎えるにあたり、記念式典等を行うことが決定し、記念事業等の検討を推進するための部会として平成 28 年 9 月から活動を開始した。

主に記念式典と記念事業について検討を重ねて、3月末までに計画内容の詳細を確定させ、予算計上に至った。

平成 29 年度からは事業内容ごとに具体的に準備手続きを進めていくこととした。

1. 検討結果

● 記念式典

① 式典 平成 29 年 11 月 15 日(水)※予定

② 貢献者表彰 法人の事業運営に貢献のあった個人・団体に対して感謝状

と記念品を贈呈し、感謝を伝える。

- ③ 記念品　記念式典に出席していただいた方々に贈呈する。

● 記念事業

- ① 記念植樹　北部エリア敷地内3ヶ所に えんじゅ 槐の木を植樹する。
- ② 記念誌の発行　広報ほほえみ(平成29年11月発行)を記念誌としてバージョンアップして発行する。
- ③ 記念講演「ワークライフ バランス」をテーマにした講演を記念式典後に開催する。
- ④ 団旗の制作　法人のマークを入れた事業団旗を制作する。

● 記念行事

各施設、事業所に計画している年間行事の中で、20周年記念行事としてバージョンアップをして開催する。

【感染症予防対策委員会】

感染症予防対策委員会では、法人各事業所の感染症発生の状況や対策の共有を図るとともに、法人内の事業所が協働し、感染症の拡大防止ならびに予防活動の推進に努めてきた。

定例会議における各事業所からの感染症発生報告のほか、感染症発生時に速やかに委員会への報告がなされ、その情報が迅速に各事業所へ発信される共有のしくみが確立されている。

昨年度は県内でもインフルエンザが流行し、市内外の複数の高齢者施設においても集団発生が報告されていたが、当法人の各高齢者施設において感染症の集団発生がなかったことは、これら事業所間の情報共有と危機意識の共有が図られたことによる成果だと受け止めている。近年はインフルエンザや感染性胃腸炎等の季節性感染症に限らず、集団風邪の発生など通年での感染対策が必要な状況となっていることから、高齢者や児童、職員の安全と健康を保持していくためにも、これまで以上に法人内の連携と結束を強め、感染症予防に努めていく。

【衛生委員会】

衛生委員会では、職員の心身の健康と安全を維持し、働きやすい職場環境を整備することを目的に活動してきた。

平成28年度は、職員健診後の要精検者のフォローアップ体制を整備し、二次健診の受診勧奨を強化するとともに、二次健診結果の報告方法の見直しに取り組んだ。そ

の結果、前年度 50%台であった受診率が約 80%まで改善し、二次健診の目的である生活習慣病予防や早期治療につなげることができたことは大きな成果であった。今後も職員の生活習慣病予防への意識を高め、食生活改善や適度な運動の継続などのセルフケアにつなげられるよう努めていく。

また、労働安全衛生法の改定により、実施が義務付けられたストレスチェックについては、対象事業所であるつくし苑において体制を整備し実施した。実施により制度上の課題も浮き彫りになったが、集団分析結果を職場の環境改善等に効果的につなげていくためにも、職員のストレスチェックへの理解を深め、より多くの職員が受検につながるようアプローチしていく必要があると感じている。

腰痛予防については継続的段階的に取り組んできており、昨年度も法人全職員を対象に研修を実施した。今後は各事業所における腰痛予防体操の継続的な実践と職場での健康増進に努めていく。

衛生委員会の活動は、職員の長期休職や離職の防止、安定した人材の確保にもつながるものであることから、現場の声を反映し効果的な活動を推進していく。

【災害対策検討部会】

災害対策検討部会では平成 27 年度に引き続き、災害対応マニュアルを改訂すべく、話し合いを重ねた。平成 27 年度の改訂に加え、災害時の情報収集や洪水時での呼びかけ、ハザードマップの追加等、改善に向けた作業ができた。また、平成 28 年度はつくし苑と大館市との間で災害発生時における福祉避難所開設の協定を結んでいる。福祉避難所に関する動きについても今後は検討していきたい。

避難訓練では平成 28 年度、ブラインド訓練を実施している。この訓練は要援護者がいることを参加者に知らせずにを行うものであるが、結果として要援護者を発見できなかつたことが反省としてあげられる。この反省を教訓として今後の訓練に活用していきたい。

【広報委員会】

広報委員会は、事業団広報誌「ほほえみ」を 4 月と 10 月に、事業団職員向け広報誌「なごみ」を 6 月と 12 月に、それぞれ発行するとともに、ホームページの更新を定期的に行なった。

「ほほえみ」の紙面では、各施設での行事、事業所の活動状況の紹介や、ISO 部門目標への取り組み等の記事の掲載を行いながら、事業団をより多くの方々に知ってもらえるような、紙面づくりに取り組んだ。「ほほえみ」は写真の多い紙面であるため、次号からは全ページカラー化し、より見やすい紙面づくりに努めていく。

職員向けの広報誌「なごみ」は、新採用職員の紹介、職員の趣味や特技の紹介、職員旅行記など、広報誌を読んだ職員同士が、コミュニケーションを取りやすくなるような身近な記事を中心に、法人衛生委員会から、ストレスに関することや、職員健康診断の

結果を振り返り、健康に対する意識づけができるような記事の掲載も行った。

また、ホームページは、トップページの写真を定期的に更新し、繰り返し訪問する方が、楽しめるよう、そして、季節を感じられるような配慮をした。さらに、施設、事業所の紹介、広報誌、事業計画書、事業報告書、決算書類等の開示や職員採用情報、事業団に関する様々な情報を掲載し、施設利用者・ご家族、地域住民、学生等のホームページを閲覧される方々に、タイムリーな情報発信をするとともに、情報開示に取り組んだ。

【配食サービス提供プロジェクトチーム】

法人の地域貢献及び地域連携として、配食サービス事業を立ち上げるにあたり、1年間プロジェクトチームとして取り組んだ。

事業団単独事業ではなく、実施主体を大館市とした配食サービスを受託するという形を目標に据え、活動計画を立てた。

始めに、大館市との話し合いを進めるにあたり、配食サービス事業実施要綱、実施フローチャート、申請書類等使用文書類のそれぞれのたたき台を作成し、事業団案として大館市に提示し相談を重ねた。また、利用希望人数の把握のため、十二所地区の民生児童委員の協力を得て、アンケートを実施(8月十二所地区 147 戸に配布、回収率78.2%)した。1日最大利用者数 10 名との結果をもとに、事業予算見積書の作成を行った。大館市との話し合いを継続的に行うのと並行し、配食事業実施マニュアル、事業団使用帳票類の整備、配達員募集、民生委員・在宅職員試食会と開始に向けての準備を進めた。結果、大館市で予算措置され平成 29 年 4 月より事業開始する運びとなった。

2. 役員会の状況

(1) 理事会・評議員会

開催年月日	会 場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
平成 28 年 4 月 1 日 臨時理事会	大館市ふれあい センター やまびこ	理事 9 名 (委任 1 名)	・理事長選任案 ・副理事長選任案	承認 承認
平成 28 年 5 月 26 日 5 月定例理事会・評議 員会	大館市ふれあい センター やまびこ	理事 8 名 (委任 2 名) 評議員 17 名 (欠席 4 名)	・平成 27 年度事業報告書 ・平成 27 年度決算報告書(監事 監査報告) ・平成 28 年度第 1 次資金収支 補正予算案	承認 承認 承認

開催年月日	会 場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
平成 28 年 1 月 18 日 臨時理事会・評議員会	大館市ふれあいセンターやまびこ	理事 9 名 (委任 1 名) 評議員 17 名 (欠席 4 名)	・事業団定款の一部を改正する定款案 ・事業団評議員選任・解任委員会運営規則の制定案 ・事業団育児介護休業等に関する規則の一部を改正する規則案 ・平成 28 年度第 2 次資金収支補正予算案 【追加議案】 ・事業団評議員選任・解任委員の選任案（理事会）	承認 承認 承認 承認 承認
平成 29 年 3 月 27 日 3 月定例理事会・評議員会	大館市ふれあいセンターやまびこ	理事 8 名 (委任 2 名) 評議員 19 名 (欠席 2 名)	・役員給与報酬及び費用弁償規則の一部を改正する規則案 ・経理規程の一部を改正する規程案 ・平成 28 年度第 3 次資金収支補正予算案 ・平成 29 年度事業計画書案 ・平成 29 年度資金収支予算案 【追加議案】 ・評議員の選任候補者の推薦案（理事会） ・施設長及び管理者の選任案（理事会） ・法人役員の選任案（評議員会・理事会）	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

(2) 監事会

開催年月日	会 場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
平成 28 年 5 月 13 日	つくし苑大食堂	3 名	・平成 27 年度事業の執行及び収支決算について	承認

3. 職員の状況

平成 29 年 3 月 31 日現在

※兼務・委託は実数に含まず

施設名	本部	成章園	成章園特定	成章園ヘルパー	つくし苑(SS)	ほうとう	ほうとう特定	デイサービス	地域包括支援	居宅支援事業	事業団ヘルパー	やまびこ	へき地保育所	老福センター	合計
定員		80	(80)		120	50	(20)	35							
事業開始日	H10.1.1	H10.4.1	H19.1.1	H19.1.1	H11.2.1	H11.2.1	H24.4.1	H11.4.12	H11.4.1	H12.4.1	H11.4.2	H11.4.1	H22.4.1	H15.4.1	
事局長・施設長 (管理者)	兼 1	1	兼 1	兼 1	1	1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	1		4
主幹・次長・施 設長補佐	兼 3	1			2	1					1				5
事業責任者								兼 1	兼 1	兼 1	兼 1			兼 1	0
医師		嘱 1			嘱 1									嘱 12	14
事務員	兼 2	2	兼 1	兼 1	4	1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	7
パート事務員					2							1	兼 1		3
生活相談員 社会福祉士		1 兼 2	兼 1		3 兼 1	1	兼 1	2	1						8
介護支援専門員 (計画作成担当)			1 兼 1		1 兼 2		1		1 兼 1	7					11
看護職員		3			8		1	1 兼 1	1						14
機能訓練 指導員					2		兼 1	2 兼 1							4
介護(支援)員		6 兼 11	6 兼 10		51	7	兼 9	11 兼 1							81
パート介護員 (介護補助)			4 兼 2		3										7
サービス提供 責任者				2							3				5
ヘルパー				5 兼 11							3				8
パート ヘルパー				2											2
登録ヘルパー											2				2

施設名	本部	成章園	成章園特定	成章園ヘルパー	つくし苑 (SS)	ほうとう	ほうとう特定	デイサービス	地域包括支援	居宅支援事業	事業団ヘルパー	やまびこ	へき地保育所	老福センター	合計
定員		80	(80)		120	50	(20)	35							
事業開始日	H10.1.1	H10.4.1	H19.1.1	H19.1.1	H11.2.1	H11.2.1	H24.4.1	H11.4.12	H11.4.1	H12.4.1	H11.4.2	H11.4.1	H22.4.1	H15.4.1	
管理栄養士		1			1	1									3
調理員		委託			委託	委託		委託							0
技能員					2								1		3
パート技能員					2 委託			3							5
保育士												3 兼 2	30		33
保育補助 (パート)												1	24		25
レク指導員												1			1
児童厚生員												1 兼 2			1
合 計	0	16	11	9	83	12	2	19	3	8	8	7	68	0	246
うち産休・育休・病休	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5

◎職員内訳

	H26.3.31	H27.3.31	H28.3.31	H29.3.31
正職員	118	119	131	139
臨時職員(パート再掲)	119 (39)	116 (36)	104 (36)	91 (42)
嘱託職員(嘱託医師再掲)	19 (14)	18 (14)	18 (14)	16 (14)
合 計	256 (53)	253 (53)	253 (50)	246 (56)

4. 苦情・事故の状況

事業所名 項目	成章園	つくし苑	ケアほうとう	デイサービス	地域包括支援	居宅介護支援	事業団ヘルパー	ふれ・森のおうち	へき地保育所	老福センター	合計	前年度実績	前年差
苦情・相談・要望	7	13	8	14	1	3	0	0	4	37	87	88	-1
利用者への対応	1	6	0	10	0	0	0	0	3	1	21	34	-13
家族等への対応	0	4	0	4	0	3	0	0	0	0	11	10	1
利用者間トラブル	5	0	0	0	0	0	0	0	0	4	9	2	7
制度・設備・環境	1	1	2	0	1	0	0	0	1	19	25	23	2
その他	0	2	6	5	0	0	0	0	0	13	26	19	7
(申出入再掲)													
本人	6	2	8	3	0	0	0	0	0	37	56	47	9
家族	1	10	0	11	0	3	0	0	4	0	29	31	-2
その他	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	10	-8
事故・怪我	45	127	18	12	1	0	3	1	2	1	210	190	20
骨折	10	7	7	0	0	0	0	0	0	0	24	23	1
骨折以外の大きな怪我	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	7	13	-6
軽傷	23	39	7	2	0	0	0	1	2	1	75	88	-13
その他	10	78	2	10	0	0	3	0	0	0	103	66	37
(原因別再掲)													
転倒・衝突	27	31	11	4	0	0	0	1	1	0	75	74	1
転落・ずり落ち	4	0	2	0	0	0	0	0	1	1	8	6	2
誤嚥・異食	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0
その他	12	94	5	8	0	0	3	0	0	0	122	106	16
【介護によるもの再掲】	3	52	1	8	0	0	1	0	0	0	65	64	1
ヒヤリハット	231	213	42	33	0	2	2	0	0	0	523	526	-3
不適合サービス	34	179	17	62	12	20	14	0	0	0	338	299	39
合計	317	532	85	121	13	25	19	1	6	38	1157	1103	54
前年度実績	317	492	86	108	12	28	34	2	4	20	1103		
前年差	0	40	-1	13	1	-3	-15	0	2	18	54		

平成 28 年度 大館市養護老人ホーム成章園 事業報告

(1) 大館市養護老人ホーム成章園

入居者がその有する能力に応じて自立した生活ができるように、引き続き個浴の援助に取り組んだ。それによって次第に自らできることができてきるが増えてきた。その成果を職員と入居者が一緒に喜び、話に花を咲かせながら入浴できるようになった。今までの施設の業務に合わせた入浴から、自主性を尊重し入浴時間や浴槽（大浴槽、個浴槽）の選択や、利用者の都合に（外出や受診等）合わせた入浴日を選択することもできた。また、当時103歳という入居者が自宅で家族と一緒に食事をしたいという思いを叶えるため、栄養委員会を中心になり本人の思いをくみ、何度も家族と連絡を取り合いながら、協力を得て実現できた。本当にできるとは思わなかつたと喜ばれた。

成章園の目標に掲げていた福寿会（利用者の自治会）の行事への参画では、一つの意見を入居者、職員がともに話し合いを重ね、今回は田舎館村の田んぼアートの見学に行ってきた。平成 29 年度も一人ひとりの思いを尊重し、自律支援に繋げていけるよう、職員が一丸となり、研鑽を積み、コミュニケーションの強化に努める。

(2) 成章園外部サービス利用型特定施設

施設において自立した日常生活を営むため、利用者や家族の希望などを十分に確認し、他職種間での情報を共有し、安全かつ心身機能の維持を図るべく常にサービス計画書に反映されるよう取り組んだ。モニタリングで各職種間の評価ができ、その後の適切なサービス提供に結びついた。引き続き利用者の立場に立ったサービス提供をする。

(3) 成章園ヘルパーステーション

訪問介護サービス計画書に基づき、利用者が自立した生活を営むことが出来るよう、生活全般に関して、利用者の気持ちを尊重し励みになるような介助、援助をしてきた。他職種間との連携を適時にとり、利用者の立場に立ったサービス提供ができるよう、施設独自で勉強会を開催した。職員自ら講師を受け、お互いのスキルアップに努めた。また、外部での研修にも積極的に参加し施設のサービス向上にも貢献した。

今後も、養護老人ホームにおいて、入居者の生活が希望と喜びのある、いきいきと輝けるそして自立支援に向かって生き甲斐をもてるよう支援していくことを誓い、事業報告とする。

平成 29 年 3 月 31 日

大館市養護老人ホーム成章園
施設長 成田 真紀子

1. 事業別事業報告

(1) 養護老人ホーム成章園

ア)相談部門

平成 28 年度は、自立支援を推進する上で、自立と安全性の兼ね合いの説明と理解を得るべく、これまで以上に利用者の状態変化について家族への連絡・報告の強化を図った。

一部の身元引受人には理解を得ているが、家族がおらず、やむを得ず身元引受人を受けている方も多く、連絡することを嫌がるケースもみられ、今後は関係性を考慮した対応が必要だと感じている。

また、「措置解除提案基準」「静養室Ⅱ利用基準」を制定し、運用を開始している。これまで曖昧だった基準を整備し、明確化したことにより対応の統一化と継続できる仕組みが構築できた。

イ)支援部門

利用者の自立した生活を支援する為の取り組みとして、自立支援の考え方や、その関わり方について検討し、行事等を提供してきた。個別行事により利用者一人との関わり、ご家族を交えての行事を実施することで良い事例は作れたと思うが、その継続性や意義を理解し、施設全体として取り組んで行くためには、職員全体会が自立支援の考え方を学ぶ必要もある。

一方で、居室環境の改善を部門目標に据えて取り組んできたことで、利用者のプライベートな部分との関わり方や、居室環境を改善したことにより生活の安全確保ができ、改善した状態の維持に努め、効果があった。

今後においても居室環境の整備は必要な関わりであることを認識し、継続することとした。

ウ)看護部門

平成 28 年度は、感染症予防対策マニュアルの見直し、修正を行い、具体的な文言をマニュアル内に盛り込むことができた。これにより、平常時、感染症対策時の迅速かつ的確な対応が可能となり、感染症の拡大を未然に防いだ。転倒予防や認知症予防に関しては、具体的な取組ができず課題を残した。

エ)栄養部門

平成 28 年度は、秋田労災病院の歯科衛生士による訪問指導がスタートし、自立した入居者に対する口腔ケア指導を行った。また、平成 27 年度に引き続き嚥下が困難な入居者に対して適切な食事形態での提供を実施し、舌の運動や顔

面マッサージを生活の中に取り入れ嚥下機能の維持を目標に個別に実施した。美味しく食べる為に口腔内環境を整えていけるよう平成 28 年度も継続して他部門と協力しながら取り組みたい。

食事に関するイベントとして、月 2 回のバイキングや月 1 回のおやつ作りを継続し、入居者と職員とで調理する機会を増やした。入居者が主体となって好きな物を選択することや自分で作った物を食べてもらうという体験を通じて、入居者の出来ることを多く発見できた。今度はこんな事をしたい、これを食べたいという言葉が聞かれ意欲を高めるきっかけになった。今後も調理参加の行事やイベントを継続していきたい。

栄養委員と厨房とが協力をして「食事の下膳」に取り組み、定着することが出来た。食事を生活の一部として捉えて頂き、入居者の自発的行動から生活意欲向上につながっていく事で今後の展開に色々な可能性を感じた。

また、平成 28 年度作成した食事援助マニュアルについて、ポイントを絞って全職員に周知・運用したことにより、食事に対する職員の意識を高めることができた。今後も入居者が安全においしく食事を摂っていただく為に、一人ひとりに合わせた食事提供とメニュー・食環境の提供に努めていく。また食べる楽しみや作る喜びを感じてもらえるよう取り組みたい。

才)事務部門

平成 28 年度は、『新年度予算において収支不足額の発生が見込まれるため、日常使用する消耗品や購入希望として挙げられた備品等取得費について、たとえ年度途中であっても本当に必要なものであるか再度精査し、必要なものであっても見積合わせ等を行いながら取得費の抑制に努める。また予算化していないものについては、原則支出しない方針に基づき、適切な予算管理に努める』という目標のもと活動を展開した。

その結果、平成 28 年度予算ベースでの資金収支不足額が▲11,965 千円であったのに対し、実績ベースでの資金収支不足額が▲6,265 千円であったことから、上記活動を通して不足額を半額近く圧縮できたことは、大きな成果であったといえる。それでも資金収支不足額が生じていることには変わりはなく、平成 29 年度においても予算ベースでは資金収支不足額の発生が見込まれているため、今後も上記取り組みをより強化したうえで、健全な資金収支管理に努めていきたい。

また「文書等の整理整頓」についても、保管している文書保存箱に、「保存内容」・「保存期間」を明示することで、何を保存していて、いつまで保存対象の文書であるか明確に識別できる取組を継続して実践した。今後も文書類の整理整頓と適切な文書管理に努めていく。

(2) 成章園外部サービス利用型特定施設

平成 28 年度は、新しく作成したアセスメント表を基に、個々のニーズに沿ったサービス提供を行うことを目標に取組んだ。自立支援の取組と連携しながら個々のニーズを把握し、サービス提供するきっかけ作りは出来た。今後は更に発展させケアプランに盛り込みたい。

「外部サービス利用型特定施設」から「一般型特定施設」への転換については、市との交渉を試みたが、「平成 30 年の第 7 期介護保険事業計画」に合わせて移行に取組むよう指示あり、今年度の導入は叶わなかったが、平成 30 年度移行を目指し、今後も準備を進めていきたい。

(3) 成章園ヘルパーステーション

平成 28 年度は「利用者の心身の状態、変化やニーズの把握に努め、各職種と連携しながらスムーズな対応を行う。」という目標に関しては、日々の援助や支援部門の記録などから利用者の状況を把握し、本人の希望やヘルパーの視点からみて変化が生じた場合は、適宜関係職種と相談、連携しながら援助内容の変更等を行った。

「訪問介護計画書などをもとに職員間で情報を共有し、統一された適切なケアを提供する」という目標に関しては、訪問介護計画書の内容については計画作成担当者、担当ヘルパー及びサービス提供責任者間での情報の共有はできていた。しかしながら、ヘルパー一人ひとりが全利用者(約 40 人)の訪問介護計画書を全て把握することは困難であり、現在の援助からの変更点や重要事項についてしっかりと周知した。今後も利用者の状況把握とヘルパーが統一された援助ができるように努めたい。

2. 利用者状況報告

集計期間 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

集計日 平成 29 年 3 月 31 日現在

(1) 年齢別・性別の状況(単位:人)

年齢 性別	~64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	0	0	0	2	2	2	2	0	0	8
女	0	3	3	4	9	12	11	13	0	55
計	0	3	3	6	11	14	13	13	0	63
平均男(84.4) 女(87.0) 全体(86.7) 最高(98) 最低(65)										

(2) 在苑期間の状況(単位:人)

性別	期間	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 4年未満	4年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上	計
		3年未満	5年未満	4年未満	10年未満	20年未満	25年未満			
男	1	3	1	3	0	0	0	0	0	8
女	6	10	7	18	9	3	1	1	1	55
計	7	13	8	21	9	3	1	1	1	63
平均 男(4年3月)、女(7年1月) 最高 男(9年11月)、女(26年7月)全体 (6年9月)										

(3) 入退所の状況(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入所者	男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	4
退所者	男	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	4
	女	1	1	1	0	0	2	1	1	1	1	1	2	12
(死亡者)		0	1	1	1	0	2	1	1	0	1	1	2	8

(4) 介護度別の状況(単位:人)

要介護度	未認定	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男	3	1	1	2	1	0	0	0	8
女	7	5	6	12	10	4	9	2	55
計	10	6	7	14	11	4	9	2	63

(5) 短期宿泊事業 利用状況(単位:日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	0	0	0	0	0	0	0	13	27	6	0	0	46
女	0	0	44	62	56	5	0	0	0	0	21	29	217
計	0	0	44	62	56	5	0	13	27	6	21	29	263

3. 事業実績管理関係

月日	管理関係	月日	行事関係
4.1	辞令交付式・仕事始め式(つくし苑)	4.6・13・20・27	喫茶
4.3	消防第17・18分団との意見交換会	4.27	
4.25	浄化槽合併処理施設保守点検	4.28	体重測定
4.27	災害支援ネットワーク幹事会	4.24～27	福寿会
4.28	定期清掃(床リノリウム)	4.27 4.28	お花見散歩 定例会 お花見ドライブ
5.11	ガス自動炊飯器点火ヒータードライバー交換修理	5.2 5.4・10・18・25	福寿会 喫茶
5.14	12号室エアコン設置工事	5.12	体重測定
5.18	中浴場蛍光灯漏電修理	5.16	利用者健康診断
5.19	大型洗濯機モーター・駆動ベルト交換修理	5.31	定例会 健康教室
5.21・27	害虫駆除		
5.23	浄化槽合併処理施設保守点検		
5.23	貯水槽清掃		
5.26	定期清掃(床リノリウム)		
6.1	法人ステップ0研修「法人理念」	6.1・8・14・21	喫茶
6.1	ISO内部監査員会議	・28	
6.7	浄化槽法定検査	6.2	なべっこ昼食会
6.8	苦情第三者委員報告会	6.9	福寿会
6.20	ボイラー設備保守点検	6.9	体重測定
6.22～23	施設サッシガラス清掃	6.18	地域交流会
6.23～30	個浴槽設置改修工事	6.28	定例会
6.24・26	施設内ワックス清掃	6.28	栄養教室
6.27	浄化槽合併処理施設保守点検		
6.30	成章園ISO内部監査		
6.30	定期清掃(床リノリウム)		
7.4	第24回参議院議員通常選挙不在者投票	7.6 7.6・12・20・26	体重測定 喫茶
7.4	高圧変電設備更新工事	7.7	成章小学校4年生校外学習
7.4～5	職員健康診断	7.25	避難訓練
7.8	地下油槽保守点検	7.26	定例会
7.22	浄化槽合併処理施設保守点検	7.26	健康教室
7.28	定期清掃(床リノリウム)	7.28	にぎやか音楽会

月日	管理関係	月日	行事関係
8.22～26・ 29	栄養士給食管理実習 浄化槽合併処理施設保守点検 ISO サーベイランス 定期清掃(床リノリウム)	8.1	白百合ホーム児童交流会
		8.3・8・17・24・ 31	喫茶
		8.4	夏まつり前敷地内清掃
		8.4	体重測定
		8.9	夏まつり
		8.12	福寿会
		8.22	お盆(二十日盆)法要
		8.30	定例会
		9.7・13・20・27	喫茶
		9.14	敬老会
9.12	ボイラー設備保守点検	9.15	十二所地区祭典(天鳴太鼓他鑑賞)
9.20	排水管薬剤清掃	9.19	体重測定
9.23	浄化槽合併処理施設保守点検	9.27	定例会
9.26	浄化槽清掃		
9.27	秋田大学5年生 福祉施設実習		
9.29	定期清掃(床リノリウム)		
10.17 10.19 10.27 10.27	介護職員勉強会「入浴委員会」 正面玄関扉自動錠設置工事 浄化槽合併処理施設保守点検 定期清掃(床リノリウム)	10.3	秋のお出かけ会(田んぼアート)
		10.14・18・27	喫茶
		10.6	体重測定
		10.13	福寿会
		10.24	訪問歯科検診
		10.25	定例会
		10.29	大館男性合唱団訪問演奏会
11.2 11.12 11.18 11.18 11.20 11.24 11.25 11.29	入所判定委員会 施設サッシガラス清掃 災害支援ネットワーク避難訓練 ボイラー基盤交換修理 インターネット接続切り替え工事 定期清掃(床リノリウム) 浄化槽合併処理施設保守点検 苦情第三者委員報告会	11.2・8・18・24	喫茶
		11.4	体重測定
		11.10	インフルエンザ予防接種
		11.13	避難訓練(水害想定)
		11.16	にぎやか音楽会
		11.21	お楽しみ昼食会
		11.29	定例会
12.2 12.5 12.19 12.24 12.28 12.29	施設内床ワックス清掃 施設内床ワックス清掃 ボイラー設備保守点検 衛生害虫防除 仕事納式 定期清掃(床リノリウム)	12.1	体重測定
		12.1	成章4年生校外学習
		12.5・14・20・ 28	喫茶
		12.6	森のおうち訪問
		12.8	福寿会
		12.28	定例会
		12.26	栄養教室

月日	管理関係	月日	行事関係
1.4	仕事始め式	1.4・12・17・26	喫茶
1.5	飲料水水質検査	1.5	体重測定
1.16	液化石油ガス定期保安点検	1.23	新年会
1.17	玄関戸工事	1.31	定例会
1.24	電気設備点検		
1.26	屋外車庫シャッター修理		
1.26	定期清掃(床リノリウム)		
1.26	合併処理施設保守点検		
2.9	災害ネットワーク災害図上訓練	2.1・7・15・21	喫茶
2.21	厨房清掃	2.3	節分豆まき
2.22	ヒーターオイルポンプ取り替え	2.3	体重測定
2.23	定期清掃(床リノリウム)	2.12	アメッコ市外出
2.24	浄化槽合併処理施設保守点検	2.15 2.23 2.24 2.28 2.28	歯科衛生士訪問 福寿会外出(北部シルバーエリア) 歯科衛生士訪問 定例会 健康教室
3.6	ボイラー設備保守点検	3.1・17・21	喫茶
3.6	温泉敷地外の漏れ調査	3.2	体重測定
3.10	浄化槽沈殿槽蓋交換	3.9	大館市婦人連合会寄付訪問
3.14	温泉配管漏水の為仮設配管	3.14	歯科衛生士訪問
3.16	温泉配管漏水調査及び仮設配管工事	3.20	念仏数珠回し
3.16	洗面所排水洗净	3.28	きりたんぽ作り(夕食)
3.17	誘導灯交換工事(3ヶ所)		
3.22	合併処理施設保守点検		
3.28	事務所前ロビーの天窓漏水修理		
3.29	浄化槽清掃		
3.29	浄化槽汲み取り		
3.30	定期清掃(床リノリウム)		

4. 研修実施状況

(1) 内部研修 ※法人合同研修含む

月 日	研修内容	対 象	担当職員
4.19	法人研修(ISO活動報告会)	全職員	伊藤次長
4.21・28	園内研修(生活支援技術)	介護員	阿部介護員リーダー
5.13	園内研修(口腔ケア)	全職員	滝沢管理栄養士
5.19	園内研修(感染症予防)	〃	菅原副主任看護師

月 日	研修内容	対 象	担当職員
6.1	法人研修(法人理念)	ステップ 0(0~1 年)	鎌田事務局長
6.4	園内研修(自立支援に向けて)	介護員	小畠主任介護員
6.7	法人研修(チームワークとコミュニケーション)	ステップ I (1~2 年)	成田施設長
6.29	園内研修(福部流力を引出す介護術)	介護員	滝沢管理栄養士
7.6・8/29	園内研修(緊急対応・応急処置)	全職員	菅原副主任看護師
7.11・14・20	法人研修(リスクマネジメント)	ステップIV (6 年~)	工藤次長
9.26	園内研修(防災機器操作)	全職員	山内主任
9.27	法人研修(スーパービジョン)	ステップ II (2~3 年)	大坂施設長補佐
10.7	法人研修(法人理念)	ステップ III (3~4 年)	木下施設長補佐
10.21・31	園内研修(感染症予防)	全職員	仲澤看護師、北林看護師
10.24・26・28	法人研修(腰痛予防)	全職員	松橋係長
11.5	園内研修(自立支援)	全職員	小畠主任介護員
1.25	園内研修(復命)	全職員	菊沢介護員、成田介護員

(2) 外部研修

番号	期 間	研 修 名	場 所	参 加 職 員
1	4.22	県北地区老人福祉施設連絡協議会総会	北秋田市	施設長 成田 真紀子
2	4.26	認定調査員新任者研修	秋田市	計画作成担当者 佐々木ひとみ
3	4.28	秋田県老人福祉施設協議会総会	秋田市	施設長 成田 真紀子
4	6.15	病院とケアマネージャーの連携について	大館市	生活相談員 平澤 幸子 計画作成担当者 佐々木 ひとみ
5	6.16~17	福祉保健施設・事業者等職員新任研修	秋田市	介護員 稗貫 菜々花
6	6.23	介護保険施設等集団指導	秋田市	施設長補佐 大坂 研一
7	7.13	介護予防・日常生活支援総合事業説明会	大館市	施設長 成田 真紀子 施設長補佐 大坂 研一 生活相談員 平澤 幸子 計画作成担当者 佐々木 ひとみ
8	10.19~22	介護支援専門員更新研修	秋田市	生活相談員 平澤 幸子

番号	期 間	研 修 名	場 所	参 加 職 員
9	10.21	感染症対策研修	大館市	副主任看護師 菅原 敏光
10	10. 27	県北・能代山本地区相談員部会研修会	鹿角市	施設長補佐 大坂 研一
11	10. 28	県北・能代山本地区相談員部会研修会	鹿角市	生活相談員 平澤 幸子
12	11.7	楽ワザ介護(食事)	弘前市	介護員 田村 さやか 介護員 稚貫 菜々花
13	11.8	秋田県北地区老人福祉施設・地域包括・在宅介護職員研修会	大館市	介護員 岩澤 和恵 介護員 安保 奈々美
14	11.11～12	栄養指導技術研修会・学術集会	秋田市	管理栄養士 滝沢 紀子
15	11.14～15	施設中堅職員スキルアップ研修	秋田市	介護員 菊沢 美華
16	11.22	福祉施設等事務職員研修	秋田市	事務主任 山内 和市
17	12.5～6	養護・軽費老人ホーム・ケアハウス研修会	秋田市	介護員 成田 哲男
18	12.23	TAKARA JAPAN グランプリ	横浜市	介護員 阿部 剛悦

5. ISO9001 活動報告

(1) 成章園 支援部門

【部門目標】 居室内の環境整備

【設定理由】

居室内環境やベッド上が乱雑で援助が必要な時に適切な援助を提供できない居室もある。乱雑になってしまっている原因を探りながら、利用者にとって良い居室環境と、職員の関わり方を考え、生活しやすい環境を作りたい。

【職員間の共有】

居室環境の整備を目標にあげたが、利用者のプライベートな部分にどの程度踏み込んでよいのか？関わり方が難しいケースあり、昨年度まで職員が介入しづらい現状もあった。ただ、環境の改善については職員間で前向きな意見が聞かれ、どのような手順で取り組んで行くかの意見交換が行われた。

【取り組みの手順として】

- ① 対象利用者を選別する。対象者を一人に絞り、成功例を作り展開していくとした。

- ② 入浴日の変更を行ない、月曜日を環境整備に取り組む業務を作成(隔週で)し時間と、職員の確保をした。
- ③ 対象者は、職員の介入をあまり拒まない利用者に決めた。
- ④ 利用者には、事前に内容をお知らせし同意をもらった。
- ⑤ 現在の居室内的状況を撮影し、変更後と効果を比較できるように考えた。

【実施状況】

- ① 対象利用者の居室の状況と、身体状況、使用用具を見て、利用者の動きやすい動線を確保する事を考えた。
- ② 生活状況から使用頻度の高い物、ご本人の愛着のあるもの。ほとんど使用していない物を、相談しながら行った。
- ③ 居室内的レイアウトを変更した。
- ④ 今後、乱雑にならないように、利用者自身が片づけるもの。職員が手伝いする部分を利用者さんと決め、職員が行う部分は日々の業務に組み入れた

【展開】

最初に取り組んだ利用者で効果が表れ、業務内容でも定着してきたので、他 2 名の利用者にも同様に居室環境整備を行なった。

一人目の利用者の取り組みから、職員も積極的に担当利用者に関わり、居室整備とレイアウトの変更を行い、整備後の維持もできた。

【効果の確認】

居室整備前と整備後とで、居室内的レイアウト、押入れの整理、整頓された状態の維持、業務への組み込みなど、3 件の利用者への対応は上手くいった。実際に居室整備で関わってみると、利用者からも「良かった。出来なかつたんだよ」と感謝の言葉も聞かれ、対応した職員にも頼みごとができるようになるなど、関係づくりにも効果が出た。

【まとめ】

成章園では、長年生活している方もおり、狭い居室の中にかなりの荷物を持ち込んでいる方がいる。以前は出来ていたことも、身体機能や認知機能の低下で、ご自分で行なえなくなってしまった方に、適切で利用者さんの生活を考えた環境整備や関わりをしていくと言う考え方、展開の仕方を学ぶ事ができた。まだ、環境整備の必要な居室が多く、今後も徐々に取り組みを進めて行くことになるが、ただの環境整備と捉えず、利用者の生活と密接に関わりながら支援していきたい。

平成 28 年度 大館市特別養護老人ホームつくし苑 事業報告

つくし苑では、これまで緊急度の高い重度者を積極的に受け入れてきたが、介護報酬改定以降は、重度認定者のほか医療的ケア(経管栄養、痰吸引等)や医療的管理(カテーテル、ドレーン等)をする入所者が増加傾向にある。

医療的ケアを必要とする入所者は全体の約 3 割を占めており、看護師が不在となる夜間帯にも介護職員が安全かつ確実な手技を実施できるよう、50 時間の医療的ケア研修への受講を計画的に進めてきた。また、指導看護師による介護職への指導体制の強化と、内部研修による継続的なフォローアップ体制の充実に努めた。

これら医療依存度の高い入所者の増加や重度化、急な容態変化や通院頻度の増加、高い転倒リスクによる離床センサーの設置や多動な利用者への常時付き添いなど、働く職員の負担は増してきている。

こうした状況下においても、安易に身体拘束に向かうことのないようケアカンファレンスを重ね、利用者ケアの充実と創意工夫に努めた。それでもなお常に傍にいて見届けなければ安全を確保できない利用者に対しては見守り要員を配置し、他利用者を含めた入所者の尊厳と安全を最優先できるよう対策を講じた。

今年度は、介護職員の 8 時間夜勤体制の整備に向けた計画(案)を立案し、次年度に具体的な活動に繋げられるよう準備を進めてきた。今後はその実現に向け、介護職員を中心としたプロジェクトチームを設置し、現場の声を十分に反映しながら活動を進めていけるようサポートしていきたい。

また、つくし苑では速やかな入所調整に努力しながらも、施設での看取り件数の増加や長期入院等により施設の空床発生が常態化しつつあり、施設経営上も大きな影響を及ぼしている。

入所者へのよりきめ細やかな体調管理と予防的ケアの実践が急務であり、今年度は、つくし苑における新たな看護体制の実現に向けた基盤づくりのため、話し合いを重ねてきた。山積する課題を整理しつつ、次年度は入所者の日常の生活に寄り添いながら、医務・介護が協働できる体制(医務の棟配置体制)を整備していく。

施設の経営状況や雇用環境の変化、家族関係の変容などを背景に、今後特養を取り巻く環境は益々深刻さを増していくことが想定される。

これまで以上に内部のコミュニケーションを密にし、これらの課題を職員とともに共有しながら、顧客サービスの質を高めつつ、職員が意欲と誇りをもって働く施設づくりに取り組んでいく。

平成 29 年 3 月 31 日

大館市特別養護老人ホームつくし苑
施設長 鎌田 俊

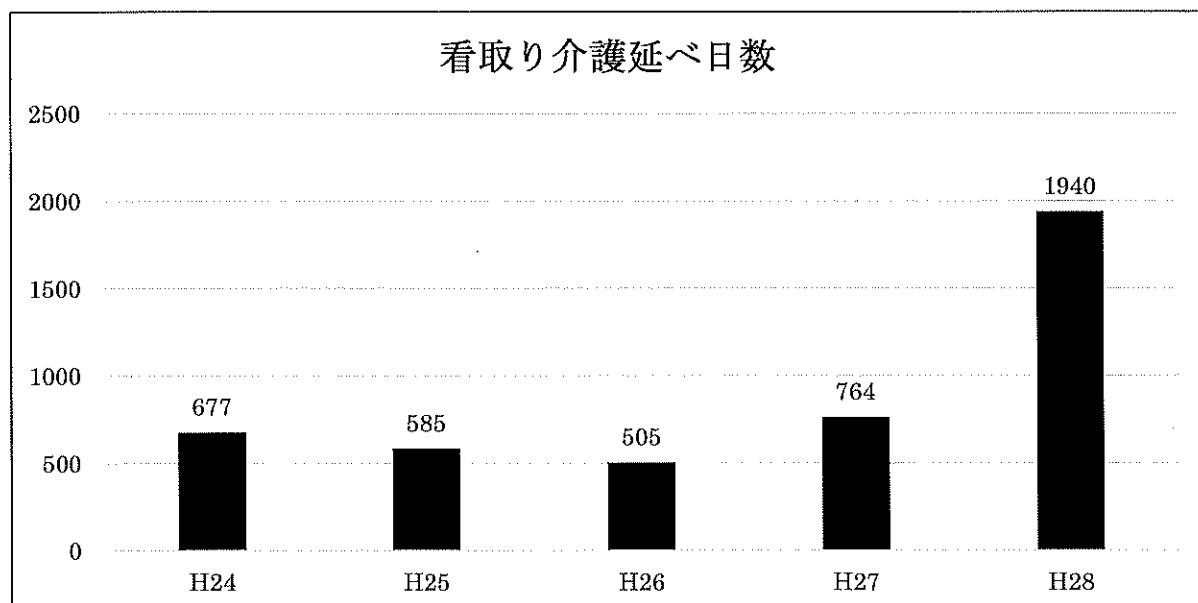
1. 部門別報告

【相談部門】

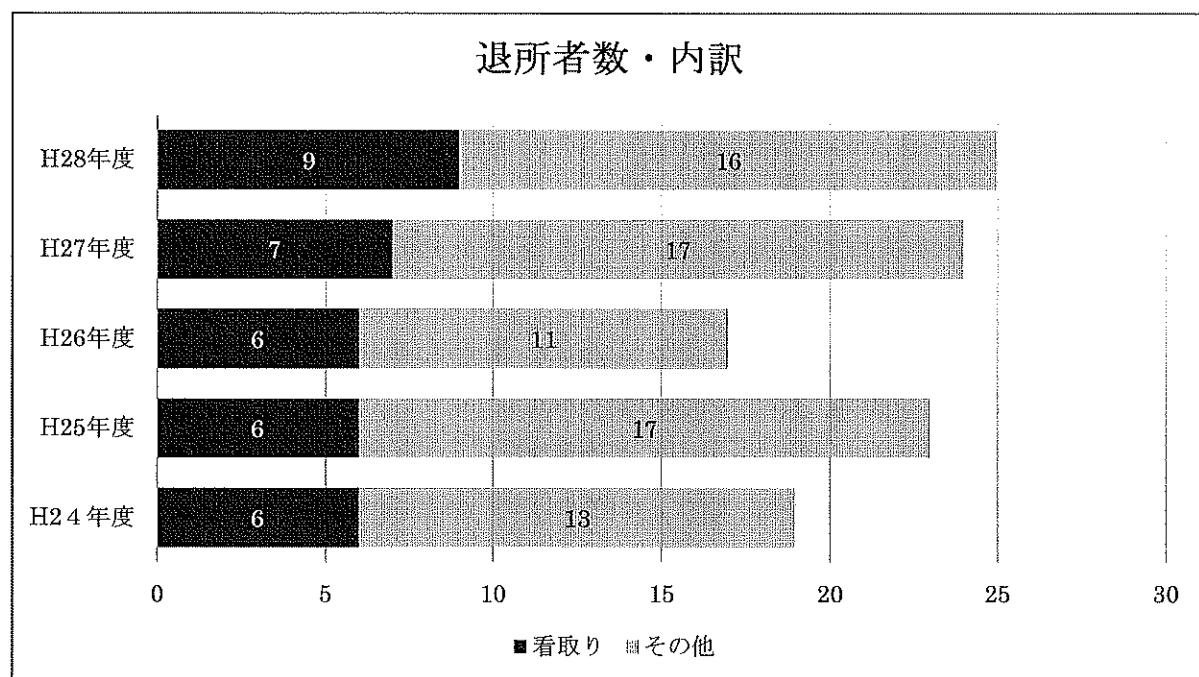
相談部門では、利用者やご家族からの施設に対する個別の要望、意向に対して可能な限り応えることができるよう部門間での調整・連携を図るとともに、体調の変化、日々の暮らししぶりなどご家族への連絡を密に行うことで利用者の状況を家族と共に理解できるように努めてきた。家族の生活にも配慮し、電話に限らない多様な連絡手段を確立し、実際に活用している。また、施設の役割・機能について部門内で様々な事例を共有しながら理解を深め、ご家族へも適切な情報提供がなされるよう努めてきた。平成 29 年度も、ご家族との共通認識が持てるようスーパービジョン、部門会議等の機会を活用していきたい。

昨年度課題となっていたベッドコントロールについても今年度は近隣の医療機関へアプローチし、より正確な入院期間を把握できるよう仕組みを整えている。またショートステイ担当相談員や関係部門との内部のコミュニケーションも密に図り、正確な空床の情報を提供するように努めてきた。退所から次の入所までの期間については、課題も残されている為、次年度も速やかな入所に向けて取り組んでいくとともに、今年度取り組んだ内容が定着し、継続的に空床の活用がなされるよう努めていく。

看取りケアについて、平成 28 年度は看取りによる退所者も増加しており、看取り介護の延べ日数においては昨年までの倍以上に増えている。利用者の状態について他部門と密に情報共有し、終末期に向けてたどる経過を適時ご家族に説明の機会を持てるように他部門も含めて家族との良好なコミュニケーションを図る事ができるようになっている。また、嘱託医から終末期に向けて段階的に説明の機会を設け、ご家族側の理解を確認しながら、終末期の支援を行うよう努めてきた。各部門における看取りの指針の理解は十分ではなく、各段階における利用者の変化についての説明も不十分な点もあった為、次年度の課題として取り組んでいきたい。



退所者数・内訳



【介護部門】

介護の実践にあたっては、多職種が連携して様々な角度から支援することが必要であり、介護員もチームとして関わることが重要である。利用者の尊厳と安全を守り、介護専門職として日々のケア実践につながる効果的な活動を目指し、委員会や部門会議、棟会議にて課や情報を共有し取り組んできた。

平成28年度の部門目標は、棟ごとに目標を設定し取り組んだ。じゅかい棟では『余暇活動の参加率向上』を達成目標とし、棟職員の意識付けを強化しながら結果につなぐことができた。全体としても、体操の実施や作品作り、歌やゲームなど楽しみの機会も徐々に増えてきていると感じている。また、研修受講歴のある職員を中心に遊びリテーションを実施することにより、楽しみながら行なえる遊び+リハビリテーションを職員が理解し、利用者の主体性を引き出しながら行なうことができた。

また、ふるさと棟では『日々のケース内容の改善を図る』、ふる一つ棟では『担当職員のモニタリング実施の定着』に取り組んだ。いずれの取り組みも利用者の日々の行動や生活状況の観察や気づきが重要となるものであり、チームの利用者情報の共有や利用者の状態に応じたケアの展開につなげることができた。

介護職は利用者のみならず、そのご家族との信頼関係の構築が重要となる。面会時やケアプラン会議等の機会を通し、棟リーダーを中心にご家族とのコミュニケーションに努めてきた。利用者の日常のケアに携わる介護職だからこそ伝えられる生活の姿を、これからも積極的にご家族へ伝えていけるように努めたい。

利用者が、施設生活を安全かつ快適に過ごせるよう現状と課題を把握し、介護専門職としての技術やスキルを高め、職員一人ひとりがお互いに認め合える職場風土を整えられるよう一層努力していく。

【医務部門】

平成 28 年度に重点目標として医務の業務改革とチーム体制の整備を掲げ、施設看護師が利用者の日々の生活に寄り添い、その専門性を最大限に発揮して利用者の健康管理に対応できるよう取り組んできた。

月 1 回の業務改革推進会議においてその目的を共有し、改革の基盤づくりに着手できることにより、現在は部門内での話し合いを持って、具体的な業務の見直しを行っている。今後は他部門との話し合いを重ね、相互の連携と効果的な協力体制を構築し、新たな体制を実現できるよう取り組んでいく。

また、施設での看取りが増すなか、医療専門職として家族の意向を尊重しながら、嘱託医との密な連携を図り、終末期における利用者の苦痛を軽減できるよう支援してきた。利用者に関わる多職種間の連携のもと、利用者と家族が心穏やかにその刻を迎えるようその充実に取り組んでいきたい。

感染症予防対策としては、昨年度の施設内で集団風邪の発生を踏まえ、感染委員会と連携し、施設内の利用者や職員の感染状況について迅速な把握に努めるとともに、発熱等の有症状者については速やかに嘱託医へ報告し、早期受診や早期対応につなげることができた。

また、平成 28 年度は、医療機関入院後、尿中や痰に耐性菌等が検出され退院となるケースもあったことから、虚弱な入所者への感染リスクを最小限にできるよう関係部門と対応の共有に努めた。

【機能訓練部門】

機能訓練部門では、利用者の施設生活をより快適に過ごせるよう、利用者一人ひとりの状態や目的に合わせた効果的なリハビリの提供に取り組んできた。

利用者のリハビリは、ケアプランに沿った個別リハビリ(基本動作練習、関節可動域運動、歩行訓練)と集団レク(グループレク)を個別の日課に合わせ実施した。また、利用者の身体・精神状況の変化に合わせ、摂食時や臥床時の安楽な姿勢の助言、介助者の負担軽減となる移乗方法、利用者の機能や目的に応じた車椅子の選定、褥瘡予防と体位変換枕の効果的な使用に係る介護職への指導助言など、ケアメニューの見直しにも努めた。平成 29 年度は、介護技術向上委員会と連携し、安心・安全な介護技術の習得と介護職への指導助言につなげていきたい。

年間行事としてはボランティアによる音楽クラブの活動支援と大相撲の星取りを定期的に実施し、ケアハウスでのリハビリ指導も継続的に実施した。

今年度の部門目標としては、利用者の生活の質の向上につながる柔軟で効果的なリハビリの提供を掲げ、利用者の全体像を把握できることにより、部門としての現状の課題が明確になった。平成 29 年度も継続し効果的な実施に向けた取り組みをしていきたい。

【栄養部門】

栄養部門では今年度、以下の内容について重点的に取り組んできた。

① 食事形態を見直し、嚥下・摂食機能に合わせた食事の提供を行う。

平成 27 年度の取り組みによって、ソフト食・ミキサー食の栄養量の把握が容易になったことにより、食事の摂取量から体重や体調の変化した場合の対処方法について検討し、迅速な対応ができるようになった。また、栄養補助食品も対象者の嚥下・摂食状態に合わせた形態の物を提供できるようになった。

② 施設間の食事摂取基準を見直し、献立作成の業務の効率化を図る。

つくし苑、成章園、ほうおうの三施設では、これまでそれぞれの食事摂取基準にもとづき、独自の献立で食事を提供していた。食事摂取基準を統一し、施設ごとの献立を確認し、食材の分量や調味料を照らし合わせ、共有システムのマスタを修正した。

その後、各施設で共有する給食システムを導入し、1 月から共通の献立作成を実施したが、新たなシステムへの移行は手作業であり、共通献立の作成についても未だ試行錯誤の状態にある。今後も課題を共有し、円滑な実施に向け取り組みを継続していく。

③ 栄養委員会と連動し、経口維持加算の為のシステムを整備する。

委員会において、経口維持加算についての理解を深めることから実施し、資料をもとにマニュアルを作成し、関係部署との擦り合わせを行ないながら仕組みと様式の整備を行なった。平成 29 年度 4 月からの施行としており、その運用について評価していく。

【事務部門】

つくし苑事務部門では、次の3点を重点目標とし、取り組みを行った。

① 「玄関ホールの環境整備」を部門目標として掲げ、高齢者をはじめとする来苑される方々が、安全に利用できるように設備等の整備に取り組む。

施設利用者、面会されるご家族等、来苑者される方々が、安全に玄関ホールを利用できるように、手すりや椅子の設置を行った。さらに、冬場の来苑者用に長靴置き場を設け、玄関ホールが雑然とならないように環境整備を行った。

自分達ができる範囲のことを、必要最低限の経費支出で取り組んだことと、その改善結果について、施設利用者、家族、そして職員からも、良好な評価を得ることができた。引き続き、玄関ホールの環境が維持されるように、努めていきたい。

② 平成29年度制度改正による財務規律の強化に対応するため、適正な会計処理のもとコスト管理を推進する。

平成28年度の会計処理は、前年同様に日々の会計処理が適切に行われ、かつ、月次の報告も期日までに適切に行われ、大きなトラブルも無く対応できた。

また、平成27年度の決算処理は、適正に処理が完了し、監事監査会、理事・評議員会を日程通り開催できた。平成28年度の決算処理についても、同様に進めていきたい。

コスト管理は、消耗品等の購入価格、購入先について、若干の見直しを行った部分はあるものの、まだまだ改善の余地があるため、今後もコスト管理を行い、適正な金額を見極めながら無駄な支出の抑制に努め、安定した施設運営に繋げていきたい。

③ 窓口及び電話対応時は、やさしい気遣いを意識して丁寧な対応に努める。

窓口や電話対応について、顧客満足度調査では高評価のコメントが複数あったことから、丁寧な対応を行なえたと捉えている。

また、部門目標の取り組みの結果、面会者等の対応窓口を増やしたこと、窓口で来苑者を待たせることが少なくなり、迅速な対応に繋ったと思われる。

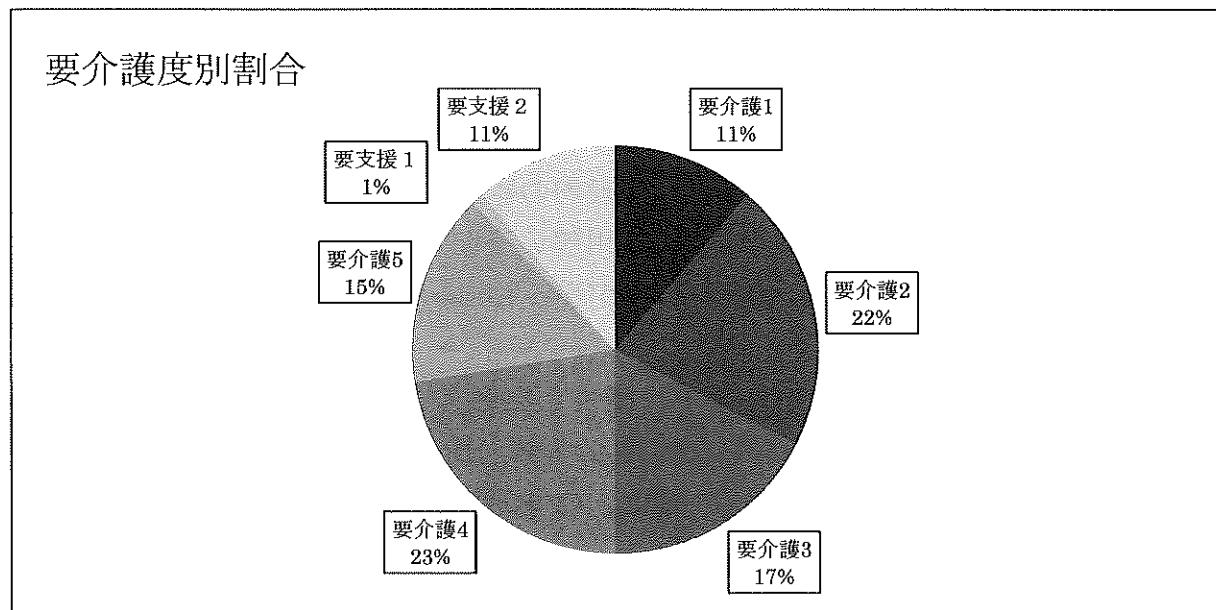
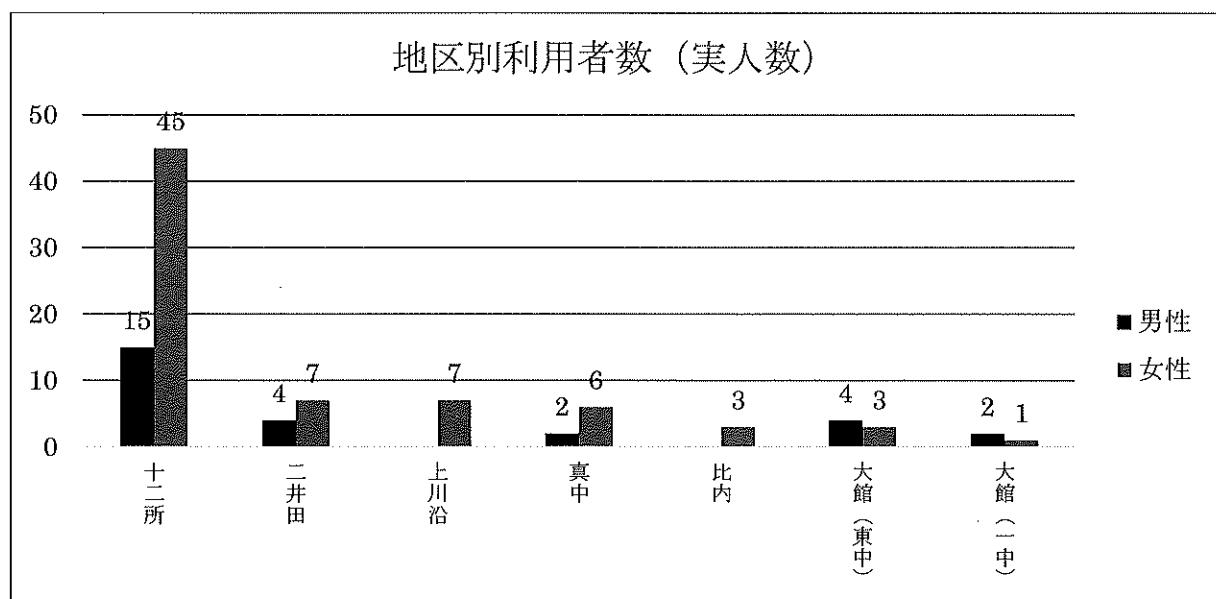
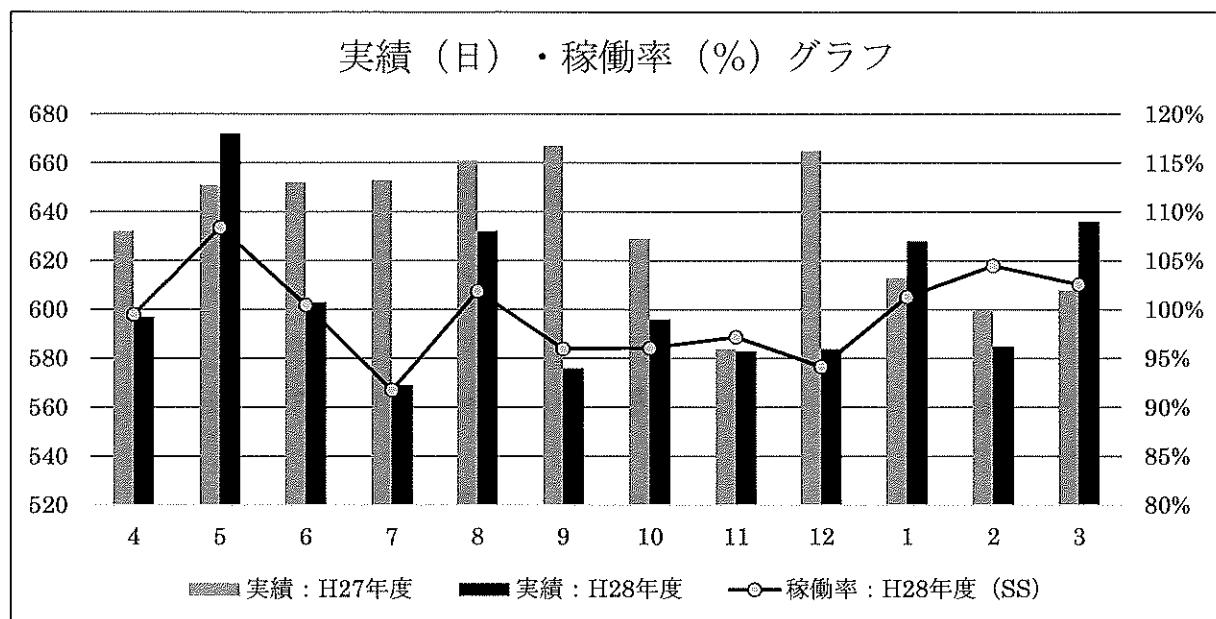
これからも、窓口が施設の顔であることを忘れずに、やさしく、丁寧な対応が継続されるよう、心がけていく。

【短期入所生活介護事業所】

平成28年度の利用実績は、年間延べ7,261日で、前年7,615日と比較して354日の減少、前年対比95.3%となった。しかし、稼働率「受け入れ可能日数に対する稼働率(退所や入院による正規入所者分の空床も含む)」は、平均85.0%で、前年83.5%に対し若干上回った数値となった。空床数(退所+入院-入院初加算)は、年間1,271床(月平均106床)で、平成27年度1,898床(月平均158床)と約600床の減少となっており、比較すると入院・退所者数が若干減少したものと考えられる。

利用実人員は98人で、年間延べ599人の利用があった。延べ人数は前年度と比較すると減少傾向にあり、平成28年度は約30人程度減少している。しかし、一人当たりの平均利用日数は12.1日/月で、平成27年度と同様の結果となった。その為、一人あたりの利用日数が増加傾向にあると考えられる。実際に、長期利用の希望者も増加傾向となっている。十二所地区近隣では、ショートステイ事業所がつくし苑のみとなっており、利用ニーズが存在していると考えられる。要介護度区分では、要介護4の方が最も多いが、要介護2~5の利用者の割合はほぼ横ばいとなっている。

新規利用の依頼については、毎月数件の依頼は継続してあった。平成27年度と同様に定期利用者のニーズを把握し、空きベッドが出た際は迅速な連絡・確認を行い、日程の調整を図った。また、今まで利用のなかった居宅介護支援事業所への挨拶やホームページの活用にも取り組んだ。取組み期間がまだ数カ月の為、効果が得られているか不明な点もあるが、今後に期待し、実績の安定を図っていきたい。



2. 委員会活動

【運営委員会】

運営委員会では、施設の方針や課題を明確にし、施設としての方向性やこの先を見据えた課題を共有するとともに、組織を構成する各部門への管理的・教育的・支持的機能を発揮できるよう努めてきた。

組織の円滑な運営には相互理解が不可欠であることから、トップダウンによる指示通達に留まることなく、ISO 部門目標の活動経過報告や各委員会委員長による活動報告、苦情や事故等の検証を通じ、施設側が現場の姿を的確に捉えられるよう意識的に取り組んできた。

結果の重大性に関わらず、生じた結果の真の要因を見極め、部門単独では解決が困難な課題に対しては、施設が協働し課題解決していく姿勢を示していくこと、また、部門や委員会が組織として自律して活動していくよう努めてきた。

平成 28 年度は、医務の業務改革と体制の見直しを重点目標に掲げ、その実現に向け施設管理職と医務との話し合いを計画的継続的に実施してきた。長年の課題が蓄積されるなか、新たなチーム体制を整備していくことは決して容易なことではないが、医務の幹部職員とともに改革の目的を共有しながら、現状の課題を整理し実現に向けた基盤を整備できたことは成果であった。

また、施設運営が益々厳しさを増すなか、利用者ケアの充実や高い専門性など顧客満足の向上への努力のみならず、これまで以上に施設運営上の課題や収支状況などリスクを密に共有していくことが重要となる。こうした経営上のリスクについては、これまで度々議題提起されてきているが、今後はその危機意識を委員間でさらに十分に共有できるよう、本委員会においても担当部門(事務)からの継続的効果的な情報発信の機会を持つこととする。

本委員会の機能をさらに強化し、当苑の強みを十分に認識しながら、取り巻く環境の変化に柔軟かつ迅速に対応できるよう取り組んでいく。

【感染症予防対策委員会】

つくし苑感染症予防対策委員会は、施設内の感染管理体制の強化に努めてきた。日常の手洗い・うがい、流行期のマスク着用等の予防活動の徹底と、通年での施設内消毒の実施により、今年度は感染症の集団発生を防ぐことができたことは成果であった。

医療機関からの退院時に痰や尿中に耐性菌を保有して施設に戻られる利用者もいることから、虚弱で抵抗力が弱い高齢者が多数入所する当苑において、嘱託医からの助言を受けながら他利用者への感染リスクを最小限にできるよう対策を講じてきた。

また、感染症を予防するには、職員一人ひとりの正しい知識と実践が不可欠である

ことから、感染症の理解と吐物処理の実際をテーマに年2回研修を実施するとともに、朝礼や運営委員会、掲示版等により、通年で感染症予防への意識を高められるようにした。今後は、現場レベルでの予防対策を強化し、利用者と職員の安全と健康を維持に努めていく。

【介護力向上委員会】

介護力向上委員会は、職種間の情報共有と相互の協働体制の維持を機能するため、部門単独では解決が困難な事柄や、各部門の連携と調整が必要な施設内の課題や仕組みの構築等について協議し、改善策を検討してきた。

平成28年度は「下剤のチェックミスの遮減」を目標に、排便に係る管理体制とシステムを見直し、その定着に向けて継続的に取り組んできた。

下剤チェックミスについては、改めて仕組みを整備したことにより、「いつ誰がどのように関わるか」という責任と役割が明確になった。また、ipadの活用により、これまで各勤務帯で実施していた二重チェックの廃止や適時の情報入力が可能となるなど、業務効率の向上につながった。

現在は、これまで紙媒体で管理してきた他の生活情報も、一元的にパソコン管理できるよう取り組みを継続中であり、今後は食事や水分、排尿等の情報が包括的に管理できるよう努めていくこととしている。

今後は、本委員会の活動の実態を踏まえ、「部門間連携委員会」に名称を変更し、介護職の8時間夜勤体制や医務の棟配置体制への移行に係る部門間の連携と協働体制の確立に取り組んでいく。

【医療的ケア対策推進委員会】

活動方針に基づき、医療職と連携し、介護職員が行う医療的ケアを安全に実施できる仕組みと体制の整備に取り組んだ。

- (1) 咳痰吸引等業務(特定行為業務)に関する実地報告書の使用状況を把握し、様式の見直しを行った。
- (2) 介護職員のたん吸引に係る安全確実な手技の取得とその根拠となる知識の確認を目的として、本委員会主催の内部研修を年1回実施し、介護職員が一定の水準を保持できるように努めた。また、PEGからの経管栄養注入・口腔内吸引(鼻腔内吸引)のマニュアルを50時間研修用テキストに準じる形式に改定することに取り組んだが、未完成にため次年度も継続としている。
- (3) 定例委員会において、不適合報告内容を共有し、その対応経過について検証し、再発防止を図った結果、利用者の健康状態に影響する事例の発生はなかつた。
- (4) 介護職員の喀痰吸引等研修事業の実地研修は、9月から当苑介護職員1名と

外部より 1 名受け入れ、計 2 名を対象に実施し年度内に修了した。研修の実施にあたっては、施設の指導看護師とともに、既に実施研修を修了した介護職員のサポートにより、円滑に研修が進められる体制を構築する事ができた。また、研修前のオリエンテーション資料の作成や実地記録等の見直しを行い、研修受講者や協力職員と事前共有できることにより、効果的な研修につなげることができた。

(5) 褥瘡については、定例の委員会において褥瘡発生状況の把握と、ベッドサイドカンファレンスによる対応の確認を行い、発生時の早期対応と悪化予防に繋げることができた。

【移乗技術向上委員会】

移乗技術向上委員会では、事故・怪我を予防し安全に移乗介助を行う為のシステムを整備する為、①移乗アセスメントの見直しと運用 ②事故・怪我の防止に向けた取り組みの 2 点を重点目標として取り組んできた。

当初は「移乗アセスメント」を見直す事で、移乗場面での事故や怪我を未然に防ぐシステムを再整備できると考えたが、見直しに向けた取り組みの一環として、介護職員を対象に移乗に関するアンケートを実施した。その結果、「移乗介助」だけでなく、現行の介助方法全般において、「介助が適切であるか技術に確信を持てない」といった回答が多く寄せられ、多くの介護職員が日常的に不安や怖さを感じながら介助を行っているという実態を知ることができた。

この結果から、根拠に基づいた介護技術の習得が必要であり、事故や怪我を未然に防ぐ取り組みとして、介護技術の向上に向けた体制の整備へと活動内容を広げることとした。

まずは、委員全員が技術理論を学ぶため、公開講演会(紙屋克子氏・ナーシングバイオメカニクス)に参加し、「利用者本位」に基づくケアの実践に向け、委員会内の意識づけの強化を図った。また、受講後、この講演会で紹介されていた介助支援技術(良肢位保持のための茶殻入り手袋)について委員会内で準備を進め、各棟での活用につなげることができた。

さらに、適切な支援方法ではなかったものの、長年習慣的に行なわれてきた「車椅子の 2 台押し」について、委員会として運営委員会へ議題提起し廃止に至れたことは、明確な根拠と安全で安心できる介護技術の習得に向け、今後につながる大きな成果であったと考える。

今後は、施設と協働しながら、委員を中心に各棟における実践のリーダーを育成し、「深い知識、確実な技術、明確な根拠」をもって、計画的継続的に現場で展開していく基盤を整備していく。

【栄養委員会】

栄養委員会は、利用者の口腔機能の維持と利用者が口から食べる楽しみを得られることを重点目標とし、利用者個々に応じた適切なトロミの提供と、口腔衛生管理加算の取り組みに継続的に取り組んできた。また、経口維持管理加算（I）取得に向けた取り組みを実施し、嘱託医や歯科衛生士など多職種の連携により、より専門的な視点から利用者の経口摂取を維持できるよう活動した。

口腔衛生については、歯科衛生士による口腔衛生指導を毎月継続し、指導内容を現場の職員に周知し、適切な口腔ケアの実践により、利用者の口腔内トラブルを最小限にすることことができた。利用者の口腔衛生の保持は、食べる機能の維持や肺炎等の予防につながるものであることから、引き続き次年度も効果的な活動に取り組んでいきたい。

経口維持加算（I）への取り組みは、これまでの現行の仕組みを強化し、摂食スクーリーニング（食事場面の観察）等での多職種間の連携を図り、効果的な利用者ケアに繋げられるよう努めてきた。今後は、これらの実績を重ね、取り組みの効果を確認していきたい。

また、今年度は、本委員会主催の内部研修を開催し、委員が外部研修で学んだ知識や技術を介護職員に伝達する機会をもった。より実践的な研修であったことから、研修後に現場で早速実践に活かす姿がみられるなど、効果的な研修開催となった。

【排泄ケア向上委員会】

今年度、委員会は「利用者の尊厳を重視し、より快適な生活を送って頂けるよう、排泄の場面で課題やニーズを拾い上げ、それに対応していくよう努める」の活動方針のもと、(1)プライバシーへの配慮、(2)コスト削減、(3)安全・安心なケアの提供、(4)排泄ケアのスキル向上の4つの重点目標を掲げて活動してきた。これら4つの重点目標の取り組みについて報告する。

(1) プライバシーへの配慮。

① 排泄場面におけるプライバシーの確保(トイレカーテンの改善)

トイレカーテンの見直しにあたり、排泄場面の検証を行い、カーテンの素材や寸法、形状等の検討を重ね、利用者の多様な状態像を踏まえながら、利用者のプライバシーに最大限配慮したカーテンを設置することができた。

平成29年度は、改めて職員へのプライバシーに対する意識づけを強化できるよう取り組んでいきたい。

(2) コスト削減

① パッドの適切なフィッティングの実施

フィッティングについては、今年度も各棟において継続的に取り組んできた。これら排泄用品の適切な使用は、ムダを解消しコストの削減にもつながるものでは

あるが、利用者、職員双方の負担軽減につながるものであることも現場に十分に伝えながら、その目的をしっかりと共有し取り組みを継続していきたい。

② ショートステイ利用者の排泄用品の使用状況の把握

通年でのデータを収集することはできなかったが、収集できたデータからは、排泄用品の使用量は決して少なくないことから、利用者の状態像や排泄パターンを十分に把握し、適切な使用につなげられるよう、具体的な改善策を見出していく必要があることが分かった。

③ 陰部洗浄ボトルの見直し

ムリムダの削減の観点から洗浄用ボトルを見直し、既製品等を試行した結果、その使い勝手から蒸留水の空ボトルを再利用することとした。次年度からの運用としている。

(3) 安全・安心なケアの提供

① おしりナップ(使い捨て)使用移行後のモニタリング(皮膚状態の観察等)の継続

おしりナップ移行後の皮膚トラブルの発生状況について、継続的にモニタリングを行なってきた。これまでこれらの使用による皮膚トラブルの発生はないことがら、これらを一定の評価とし、次年度の活動へつなげていきたい。

(4) 排泄ケアのスキル向上

① 排泄ケアに関する外部研修への参加による知識や技術の習得

今年度、委員会として外部研修への参加は実施できていない。次年度は外部の研修等に積極的に参加し、知識や技術の習得に努めたい。

【認知症ケア推進委員会】

今年度、認知症介護実践者研修に委員が 2 名参加し、認知症ケアの基礎知識の習得、自施設実習、他施設実習等を通して、様々な視点で認知症高齢者の状態や、取り巻く環境を捉える力を身に付けることができた。

また、委員会での取り組みとして、棟の利用者 1 名をモデルケースとし、個別援助計画を作成し棟職員を巻き込みながら、現場でのケア実践の展開に努めてきた。

継続的な取り組みと委員会内でのケース検討により、前年度よりもその利用者の個別性が見える、より具体的で効果的な援助内容となってきた。それにより、利用者の反応や表情の変化が見られるようになってきており、継続的な取り組みの成果を感じている。

平成 29 年度の重点目標である「認知症ケアの継続的な取り組みの実現に向けた体制の整備」と「認知症ケアに係る質の向上への取り組みの実施」について、以下の通り報告とする。

(1) 認知症ケアの継続的な取り組みの実現に向けた体制の整備

認知症ケアに関する実践リーダーの育成を目的に、委員2名が認知症介護実践者研修に参加した。受講後は委員会内で復命報告を実施し、その取り組み内容を委員会内で共有することができた。今年度で委員の介護職員3名全員が実践者研修を終えることができたことから、次年度は認知症介護実践リーダー研修への参加を予定し、各棟における認知症ケアの着実な実践と展開に向け、体制を強化していく。

(2) 認知症ケアに係る質の向上への取り組みの実施

今年度は、本委員会主催の内部研修として、施設の全職員を対象とし、外部講師による認知症サポーター養成講座を開催した。認知症の基礎知識や対応を学びつつ、参加全員が市の認知症サポーターとして登録し、認知症ケアの実践者として広くその役割を知る機会となった。

また、棟における個別援助計画の作成と実践の継続により、棟職員にも徐々にその取り組みが浸透しつつある。次年度はモデルケースを増やし、施設における認知症ケアの質の向上に努めていく。

3. つくし苑 利用者状況報告

集計日 平成29年3月31日現在

(1) 年齢別・性別の状況(単位:人)

年齢 性別	~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100~	計
男	1	1	2	3	4	7	4	2	0	24
女	0	3	3	5	11	17	20	13	3	75
計	1	4	5	8	15	24	24	15	3	99
平均男(83.5) 女(87.9) 全体(86.8) 最高(106) 最低(62)										

(2) 在苑期間の状況(単位:人)

期間 性別	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上	計
男	6	6	5	2	1	1	0	3	24
女	18	10	10	6	4	5	8	14	75
計	24	16	15	8	5	6	8	17	99
平均 男(2年8月)、女(4年6月) 最高 男(10年11月)、女(18年1月) 全体 (4年1月)									

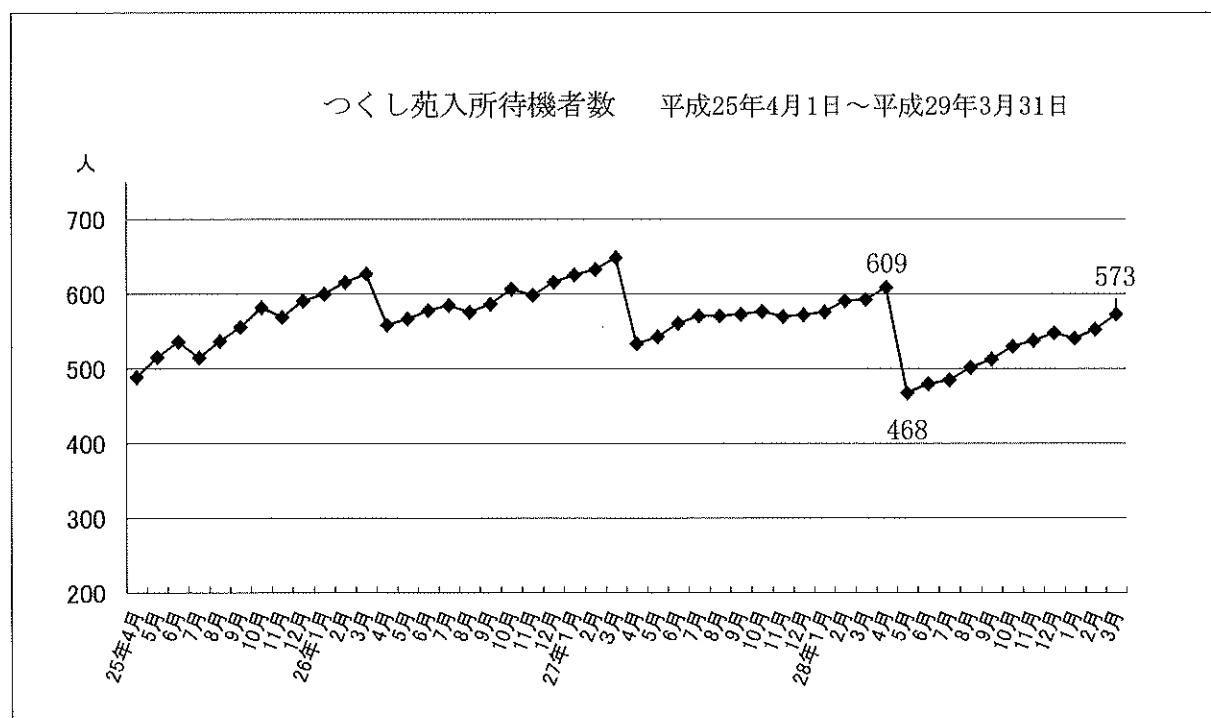
(3) 入退所の状況(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入所者	男	0	1	1	1	0	1	0	0	1	1	0	1	7
	女	1	1	3	1	0	3	0	3	1	3	1	1	18
退所者	男	0	1	2	0	0	1	0	1	0	2	0	0	7
	女	0	1	3	1	2	1	1	3	3	1	1	1	18
月末在所者数	男	24	24	23	24	24	24	24	23	24	23	23	24	
	女	76	76	76	76	74	76	75	75	73	75	75	75	
	計	100	100	99	100	98	100	99	98	97	98	98	99	

(4) 介護度別の状況(単位:人)

要介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	平均
平成28年3月末	2	2	10	27	58	99	4.38
平成29年3月末	2	3	9	35	50	99	4.29
増減	0	1	-1	8	-8		

(5) 入所待機者の状況



4. 事業実施状況

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
4	1	辞令交付式・年度始め式	20	いなほの会訪問ボラ	18~28	秋田看護福祉大学看護学科実習(3名×7日)
	8	浄化槽保守点検	20	観桜会(ふる一つ棟)		
	12	特殊浴槽修理	24	賀寿祝い(1名)		
		ハチ公スノーリングヤー反省会議	25	観桜会(ふるさと棟)		
	13	入所調整委員会	28	観桜会(じゅかい棟)		
	14	水質検査				
	15	煤煙測定				
	16	リフト車修理				
	17	平成28年度第1回職員採用試験				
	19	職員採用試験選考委員会 電気設備保守点検				
5	6・20	浄化槽保守点検	8~22	大相撲星取り大会	10~26	大館准看護学院実習(2名×9日) 北陽中2年生職場体験(3名×2日) 秋田看護福祉大学社会福祉援助技術実習(2名×30日)
	11	自動ドア保守点検	17・30	おやつ作り		
	13	法人監事監査	18	いなほの会訪問ボラ	18~19	
	19	スプリンクラー保守点検	26	買い物外出レク		
	22~27	ガラス清掃	29	賀寿祝い(卒寿、1名)	23~6/22	
	24	床ワックス掛け(ふるさと棟)				
	26	定例理事会・評議員会				
	27	ふる一つ棟自動ドア修理				
6	1	浄化槽法定検査	13~14	石田ローズガーデン見学	1~	大館准看護学院実習(2名×9日×2組)
	3	浄化槽保守点検	15	いなほの会訪問ボラ	30	
	8	消防立ち入り検査	16	野外昼食会		
		苦情解決第三者委員報告会	17	ポケットの会訪問		
		電気設備保守点検	29	調理体験		
	9	居住棟換気扇修理				
	17	安全運転管理者法定講習				
		浄化槽保守点検				
	20~27	ISO内部監査(つくし苑)				
	23	厨房機器保守点検				
	28~30	床ワックス掛け				
	29	居室カーテンクリーニング				

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
	1~4	床ワックス掛け エアコンフィルター清掃	2 6	賀寿祝い（1名） 成章小1年七夕飾り贈呈	26~28 26~29	ニツ井高校インター ンシップ（3日×1名） 大館桂桜高校介護職員 初任者研修施設実習（2 人×4日）
	2・3・ 9	職員健康診断	10~24	大相撲星取大会		
	4~5	地下油槽清掃漏洩検査	13	賀寿祝い（1名）		
	7	不在者投票	20	ポケットの会訪問 康楽館芝居観劇・ドライブ いなほの会訪問ボラ		
	11	厨房機器修理	21	茶話会・遊びリテーション（ふる一つ棟・じゅかい棟）		
7	13~14	暖房配管用補給水ポンプ 交換	22	茶話会（ふるさと棟）		
	15	軽井沢地区地域懇談会 出席	31	賀寿祝い（1名）		
	24~29	照明器具調査（大館市事 業）				
	25	浴室タイル張り替え工 事 高校新卒者就職情報交 換会参加				
	5・19 6 23~24 25	浄化槽保守点検 福祉の就職フェア参加 ISO サーベイランス審査 自動ドア保守点検	6 16	なつまつり おやつ作り 賀寿祝い（1名） 比内灯篭流し見物	1~2 18~ 19	大館桂桜高校介護職員 初任者研修施設実習（2 人×2日） 大館国際情報学院イン ターンシップ（1人×2 日）
8	26	空気浄化機保守メンテナンス 職員採用試験選考委員 会 電算システム入札指名委員 会	17 19 25	いなほの会訪問ボラ ポケットの会訪問 おやつ作り		
	2 2~3 2~8 6 9・23 10 17 20 26 29	利用者結核検診 床ワックス掛け・カーペット清掃 ガラス清掃 ボイラー清掃整備 浄化槽保守点検 ブラインド清掃 職員採用試験（高校生） 消防設備点検 職員採用試験選考委員 会 採用試験結果通知	11~25	大相撲星取大会 いなほの会訪問ボラ 敬老会 成章小学習発表会予行 見学 ポケットの会訪問ボラ 遊びリテーション・茶話 会	6~8 26	大館桂桜高校インター ンシップ（1名×3日） 秋田大学医学部5年生 福祉実習（3名×半日）

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
	3 7・21 11~21 14 15	男性トイレパネルヒーター交換 浄化槽保守点検 職員ストレスチェック(WEB 登録) 介護保険施設業務管理体制整備調査 ボイラー膨張タンク交換	5 12 19 28 30	成章中慰問（人形劇） 外出レク（康楽館芝居見物・紅葉狩り） いなほの会訪問ボラ きりたんぽ作り会食 ポケットの会訪問ボラ 外出（葛原バイパス見学）		
10	21・24 21 24 25 27 28 30 31	電算システム移行・設定 消防避難訓練 電気設備保守点検 受水槽清掃 簡易専用水道検査 大館市指導監査（法人） 職員採用試験 県社協介護応援 Web サイト取材				
11	4・18 7 8 8・15 10 14 16 17~24 18 25 25 29	浄化槽保守点検 職員採用試験選考委員会 業務用洗濯機修理 インフルエンザ予防接種 外部センサー交換工事 厨房内殺菌加藤施設名 職員採用試験区結果通知 自動ドア保守点検 床ワックス掛け 市災害ネットワーク避難訓練 入札（デイサービス機械浴槽更新工事） 浄化槽清掃 苦情解決第三者委員報告会	4・7 5 9 13~27 21 27	買い物外出レク 賀寿祝い いなほの会訪問ボラ 大相撲星取大会 ポケットの会訪問ボラ 遊びリテーション＆茶話会	21~ 12/2	比内支援学校高等部 2 年実(1名×10日)
12	9・23 14 19 20 26 28	浄化槽保守点検 厨房機器定期保守点検 ハチ公スノーレンジャー出陣式 特殊浴槽修理 電気設備定期点検 仕事納め式	8・25 15 16 21 25	おやつ作り 利用者忘年会 ポケットの会訪問ボラ いなほの会訪問ボラ おやつ作り		

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
1	4 6・20 18 20 20～29 27 28 30	仕事始め式 浄化槽保守点検 臨時理事会・評議員会 働くパパママ応援 PV 撮影 床ワックス掛け 労働災害防止対策指導 トイレ用シャワーカーテン設置 災害協定書締結セレモニー	8～22	大相撲星取大会 餅つき・利用者新年会 コミセンイルミネーション見学 賀寿祝い(1名) 賀寿祝い(1名)		
2	2 3 3・17 5 9 9 13 14 15 17 23・24 27 28	地元企業説明会(桂桜高校) 空調装置フィルター清掃 浄化槽保守点検 正職員登用試験 災害ネットワーク幹事会・図上訓練 職業人講話(国際情報高校) 事業主行動計画策定セミナー 入所調整委員会 登用試験選考委員会 自動ドア保守点検 医務室足ふみサーモ水栓部品交換 予算案ヒアリング 水害・土砂災害対策講習会 人事ヒアリング	3 9 15	節分豆まき だまっこ作り いなほの会訪問ボラ	21～3/23	秋田看護福祉大介護実習(2名×23日間)
3	1 10・24 12 13 15 27 28	消水管漏水修理 浄化槽保守点検 職員採用試験(看護師) 浴室洗浄・消毒 厨房コールドテーブル修理 定例理事会・評議員会 評議員選任解任委員会 消防設備点検	3 4・9 5～19 15 17	ひなまつり 賀寿祝い(1名) おやつ作り 大相撲星取大会 いなほの会訪問ボラ ポケットの会訪問ボラ		

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
	31	退職者辞令交付式				

5. 研修実施状況

(3) 内部研修 ※法人合同研修含む

番号	実施日	時 間	対象	内 容	講 師	場 所	参加数
1	4/1～3/31	計 3,460 分	新採用・ 登用職員 研修	<p><主な内容></p> <p>①オリエンテーション ②労務関係オリエンテーション ③法人理念と運営方針 ④社会人マナー ⑤接遇の基本 ⑥チームケアとコミュニケーション ⑦事業所見学 ⑧感染症の知識と予防 ⑨介護職の倫理とコンプライアンス ⑩個人情報とプライバシー保護 ⑪介護技術の基本 ⑫ISO のしくみの理解 ⑬リスクマネジメント ⑭介護保険制度 ⑮他事業所業務体験 ⑯力量評価の仕方 ⑰先輩職員との交流 ⑱研修後の振り返り</p>	法人内職員 (研修担当:施設長補佐 花田繁盛)	つくし苑内	6
2	4/19	60 分	全職員	H28 年度 ISO 部門目標報告会	報告者:乳井進一郎(ふるいつ)	ふれあいセンター やまびこ	27
3	6/22、24、 27 (延 3回)	60 分	全職員	「高齢者施設の感染予防の重要性について」	主任看護師 武廣眞貴子、副主任機能訓練指導員 佐藤英明	大食堂	70
4	8/29、31、 9/20 (延 3回)	60 分	介護職員	「食事介助技術研修」	栄養委員(市村・神田・長田・石田・木村)	大食堂	48

番号	実施日	時 間	対象	内 容	講 師	場 所	参加数
5	11/28、29、 30 (延3回)	60分	介護職員	感染症研修 「吐物処理の実技」	主任看護師 武廣眞貴子 副主任機能訓練指導員 佐藤英明 各棟リーダー	各棟内	47
6	12/19、21、 23 (延3回)	60分	介護職員	医療的ケア研修 (痰吸引・経管栄養)	指導看護師 平澤真紀子 田子晃代	会議室	42
7	2/15、20、 22 (延3回)	60分	介護職員	認知症研修 「認知症サポーター養成講座」	認知症対応型デイサービスされあれあ管理者 小貫弥生氏	会議室	71
計		3820分				延べ参加人数	311

(4) 外部研修

番号	期 間	研 修 名	場 所	参 加 職 員
1	5.9~20 6.23~7.8	介護職員のたん吸引等に係る研修(講義・演習)	秋田市	介護員 金谷 安由未
2	5.28	「その人が最後まで人間らしく」 紙屋克子氏	鹿角市	施設長補佐 工藤智美 副主任機能訓練 佐藤英明 機能訓練指導員 三浦靖代 介護員 木津賢司 介護員 佐々木龍之介
3	5.28~29	ナーシングバイオメカニクス中級セミナー	鹿角市	介護員 千葉 美希子
4	6.7~8.9	認知症介護実践者研修	秋田市	介護員 斎藤 啓子
5	7.21	社会福祉法人 会計研修会	秋田市	係長 松橋隆視
6	7.30	「平穏死」～穏やかな最期を迎えるために	北秋田市	介護員 近藤 愛弓 介護員 佐藤 真貴子 介護員 佐々木龍之介
7	8.1	社会福祉法人制度改革の施行に向けた担当者説明会	秋田市	施設長 鎌田 俊
8	8.24~26 9.13~16	秋田県介護支援専門員更新研修	秋田市	介護支援専門員 苗代沢 輝栄
9	9.6~14 11.9	認知症介護実践者研修	秋田市	介護員 羽澤奈津子
10	9.6~9	秋田県介護支援専門員更新研修	秋田市	副主任相談員 能登谷直美

番号	期 間	研 修 名	場 所	参 加 職 員
11	9.12～9.13	秋田県老人福祉施設職員研修会Ⅰ	大館市	副主任相談員 能登谷直美 副主任看護師 武田道子
12	10.13	防火管理者講習	大館市	係長 松橋 隆視
13	10.27 ～ 10.28	秋田県北・能代山本地区老人福祉施設協議会	鹿角市	生活相談員 多賀谷瑞枝 生活相談員 糸田 恵
14	11.16	改正育児・介護休業法説明会	秋田市	係長 斎藤 浩
15	11.21	社会福祉法人制度改革対応セミナーⅡ	秋田市	施設長補佐 花田繁盛
16	11.21	秋田県北地区老人福祉施設長研修会	大館市	施設長 鎌田 俊 係長 松橋 隆視
17	11.29	整備管理者選任後講習会	大館市	係長 松橋 隆視
18	2.1～2.2	秋田県老人福祉施設長研修会Ⅱ	秋田市	施設長 鎌田 俊
19	2.22	社会福祉法人会計実務者決算講座	仙台市	係長 松橋 隆視
20	3.1	指導看護師による実地研修打ち合わせ会議	秋田市	指導看護師 平澤真紀子

6. ISO9001 活動報告

(1) 相談部門

【部門目標】 「所持品管理の効率化と定着・不足物品の減少」

【設定理由】

ショートステイの利用者の入所時の持ち物が退所の際に紛失していたり、退所時に持たせ忘れてしまう事が多く、利用者へもご迷惑をおかけしている。施設内での私物の管理に対する信頼が損なわれないように所持品の管理を徹底する必要がある。また、入退所時の所持品の確認についても膨大な時間を要しており、業務の負担が大きい。所持品の確認を効率よく、かつわかりやすく行う事で業務負担を軽減し、不足物品が減少するように取り組みたい。

【到達目標】

- ① ショートステイ利用者の所持品管理業務の効率化
- ② iPad での物品チェックアプリの周知と活用
- ③ 物品の紛失防止・対策と不足発生時の対応の確立。
- ④ 所持品チェックマニュアルの作成

【年間活動状況】

月	実施内容
1月	目標の設定、計画の作成
2月	・物品チェックアプリの周知 現状の物品チェックの問題点を整理 ・不足物品の過去のデータ収集
3月	・物品チェックアプリの活用開始 ・乾燥機を分けた事の効果の確認 他の要因の分析。対策立案
4月	・物品チェックアプリの活用状況の確認 (不具合ないか、当初の問題点が改善されたか) ・対策の実施
5月	・不具合の修正 ・対策の実施
6月	・効果の確認、定着化

【活動内容】

現状を振り返り、物品チェック方法とそれに対する業務負担、不足物品の発生状況・要因分析している。その結果、所持品の管理方法や衣類の洗濯時の分類などといった要因、それぞれの関連性を再確認する事ができた。

これをもとに所持品の管理体制と業務軽減を図り、紛失物発生時の対応を整備しマニュアル策定している。

【まとめ】

所持品管理の不具合(持たせ忘れ・紛失など)については、取り組み前の報告書の提出がされていなかった部分もあり、正確な件数での比較はできなかつたが、持たせ忘れと紛失の件数は激減したと判断できるものであった。特に紛失は0件という結果となり、乾燥機を正規利用者とショートステイ利用者に分けた事が大きな要因と思われた。デイ大滝への返却忘れについては、相談員がデイから借りてきた際、物品チェック表に確実に赤字で記載する事で、取り組みを実施してからの返却忘れは0件であり、今回の取り組みの効果が確認できている。

この取り組みを行う前までは、不足物品についての報告書の必要可否や物品を探す期間や弁償の対応は曖昧であった。取り組み後は、報告書の提出を徹底する事と、それによって原因分析が行われ再発防止にも繋がっている。また、紛失時の検索期間を明確にした事で、家族への対応も統一され以前よりも確実な対応ができると感じている。

物品チェック業務については、入所時に持参物品1つ1つをチェック用紙に記載していた。また、衣類に関しては色や柄など担当者により表現方法が異なり、入所時と退所時の担当者が異なる場合もあり確認が困難な場合もあった。その為、入所・退所時どちらの確認業務でも多く時間を費やし、その反面で正確性は曖昧な部分もあり負担が大きかった。業務負担の軽減と効率化、物品表示の正確性の観点から、iPad導入にて物品チェックアプリの活用を試みた。チェック用紙のみとiPad使用時の時間を計測してみたが、予想に反して物品チェックに掛かる時間はiPad導入前と導入後で大差は見られなかった。物品管理については、物品を画像で管理することで正確性において効果がでた。これにより入所時と退所時で担当者が変わり物品チェック対応しても、確認時の正確性に差が出る事はなくなった。

新たな所持品管理システムの定着により、所持品の適正な管理がされる事で不足・紛失物品の発生防止を図り、利用者及び家族が安心してショートステイを利用できるように対応していきたい。iPadの活用により、業務負担の軽減を図る事ができ、操作や活用に慣れることにより、今後効率化も図れることを期待したい。

(2) 介護部門(ふる一つ棟)

【部門目標】 担当職員のモニタリング実施の定着

【部門設定の理由】

前年度、今回目標に掲げた「担当職員のモニタリング実施の定着」を1年間実施してきた。その結果、良かった点として自分達が普段実施している「ケア」に関し、「なぜそのサービスが必要なのか?」といった視点を持てるようになり、結果として利用者に対してのアセスメント能力の向上に至ったことで、サービスの向上といった成果も出てきている。

反面、反省点としては普段の業務内でやる事が難しく、負担に感じる職員もあり、個々の職員の間で理解度、習得度に差が生じているとの反省点も挙げられている。

基本的には前年度の内容を継続する事で更なる個々のレベルアップを目指すと同時に、個々の負担の軽減、職員が意見を言いあえる事例検討の場を設ける事等により活動を継続する事での棟全体としてのサービス意識の向上を目標としていくこととした。

【現状の分析】

「担当職員のモニタリング実施の定着」を継続していくこととした。

今まで【①サービス提供の経緯】【②サービス提供の経過】【③サービス提供後の効果】の3点に焦点を当て、記録の仕方をまとめてきた。

3つに区分けして入力する事で、職員間で入力方法について相談し合う光景も増え、以前よりも他職員のケース入力方法に興味が湧いた証拠であるといえる。

入力形式は定着してきた為、【①のサービス提供の経緯】を除去する案がでた。なぜならば、サービスにおける経緯となると、ケアプラン作成者に関わる事であり、わかりづらい点が多く上げられた為である。

今後は【②サービス提供の経過】【③サービス提供後の効果】の2つのみで入力し、ケアプラン変更後《ケアプラン会議開催後》のケアプラン内容が、それに伴った内容であるかに重点を置いて行くこととした。

【実施内容】

職員個々においては毎月ごとのケアプラン経過を担当毎に作成する事ができていた。以前決定した【サービス提供の経過】【サービス提供後の効果】という2項目に沿った内容を記述していくということは出来ており、浸透してきているといえた。

そのうえで利用者を1名ピックアップして、今後棟の職員全員で意見を出し合いながら取り組んで行けるように棟会議で決定した。

選別したのはH・Sさん。今年度入所された方であり、ケアプラン会議でも離床の機会を設けたいとの課題が出されている方である為、全体で共有していく事にしていった。

【まとめ】

昨年度から取り組んできた活動として「担当職員のモニタリング実施の定着」を掲げて取り組んできた。今年度も引き続き、同様のテーマで活動してきたわけであるが、単に担当職員の実施の定着という観点からみると、昨年度から実施してきた職員が大半であり、その上で、ケース記録に対しての項目や、記入の仕方に関しては定着し、実施出来ているという一定の評価はできると思う。ただ、その間に異動してきた職員には意図が浸透しきれずに終わってしまっているという現実も実際はあり、個々によつての活動のバラつきが見られたことは否めない。

なかなか、個々の力量に関しては図りづらいこともあり、その部分の「定着」することで何がもたらされるかもはつきりしづらい部分はあるが、2年間通してやってきたことで、この活動が担当利用者に対しての深い考察をするきっかけになっており、提供しようとしたサービスに対してのモニタリングの活動がしっかりとおこなえるようになっていくと思われる。

反面、新たな活動として皆で共有できるように H・Sさんを対象に観察していくようにしたが、棟の取り組みとしても浸透しきれずに終わってしまった。

そういうことを踏まえ、総合的にまとめると今回の取り組みによる成果については個々によつてもちろん違いはあるが、アンケート棟から推察するに、概ね「良い取り組みであった」という総評をあたえてもよいのではないであろうか。

しかし、実施責任者として感じる事は1年目と2年目の途中でリーダーが交替したこともあり1年目のリーダーの思いをうまく継承できなかつたのではないかとこの1年間を通じて痛感させられた。実施して行く中での行き詰まり感や、職員の負担の軽減もあまりできなかつたなど実施責任者自身の運営の進め方も難しさを感じたことは否めず、今後に向けての課題として認識することとしたい。

(3) 介護部門(じゅかい棟)

【部門目標】 余暇活動の参加率の向上

【設定理由】

平成27年度も棟内の余暇活動の定着という目標で行ってきたが、定着とまではいかなかつた。棟内職員から平成28年度も余暇について取り組みたいとの要望があつた。より多くの利用者さんに提供でき、職員側でも余暇内容の充実や提供方法・利用

者さんへの参加の促し方など工夫できるようになりたいとのことで、今回の目標設定となつた。

【実施内容】

なぜ定着とならなかつたのか職員からアンケートをとり、原因分析をする。提供できない理由は「業務繁忙」「忘れてしまう」が主だった。「業務繁忙」と話すが、職員同士話をしているだけの職員もみられたりしたため、何が「繁忙」と感じるのか話し合っている。その中で「余暇＝離床」という概念にとらわれているのが見えてきた。また「余暇は、一人では提供できないもの」という思いもみえてきた。そこで「利用者本位」＝「利用者主体」についても話あい、自分と置き換え、自分がされたらどう思うのかを議論しあい考えている。「余暇」という名前にこだわらず、利用者の生活の中で楽しみが一つでも増えるような援助の提供をしていけるようになれたらと話しあつた。

目に見て、評価ができないため、ケース記録を確認し、提供数を前年度と比較している。

【まとめ】

平成 28 年度は、棟会議内で毎回どのようにしたら利用者と接する時間が持てるのかと議論を重ね、話し合うことで職員全体が利用者とかかわろうとする意識をもち、接することができた。結果、前年度よりは参加率 140% 上回っていた。棟内からは、どのようなケースを残したらよいのか、入力が苦手との声もきかれている。今回で終了となるが、引き続き声を掛け合いながら棟内で余暇の提供をがんばっていきたい。

(4) 介護部門(ふるさと棟)

【部門目標】 「日々のケース内容の改善を図る」

【目標設定の理由】

ショートステイ利用中のケース入力の項目は、現在午前・午後の様子として入力しているが、「寝ている」「入浴している」という内容のみになる利用者もいる。結果、相談員や家族の必要な情報が入力されていないこともあり、利用状況が分かりにくい場合がある。正規利用者に関しては、ターミナルケアの日々の変化に対しても、午前・午後という項目に対しての入力になっており、同じ様な状況。この現状に対して改善を図ることで、より必要な情報を入力できるようにしたいと考えた為この目標とした。

【現状の把握】

介護員・相談員へアンケートで情報収集した結果、介護員ほとんどが現在のケース入力に課題があると感じている事が分かった。ふるさと棟は夜勤者がケース項目を入力する仕組みになっており、午前・午後の項目のほうが入力しやすい事から現在の流れになっているとのこと。日勤者は夜勤者から申し送りを受けるが、それによる項目の修正や追加は行なっていない。ショートステイ利用者に関しては、家族への情報の必要性を相談員が把握している為、相談員との確認が必要になる。「利用者の反応」「カンファレンス」「ケアプラン」が重要であることが把握でき、相談員と介護員の必要だと感じている部分はほぼ同じであることは把握できた。

【実施内容】

原因分析後、全員への対応は現状では難しいと判断し、正規利用者のターミナルケアの利用者・ショートステイ利用中の長期利用者に 対象者を絞り対策を実施した。対策としてはターミナルケアの利用者に対しては今まで午前・午後の項目に対しての入力であったものを、「カンファレンスで話し合った項目に対しての入力」に。長期ショート利用者に対しては今まで午前・午後の項目に対しての入力であったものを「ケアプランに対してのモニタリングに活かせる項目に対しての入力」に変更し実施した。

【結果】

◎ターミナルケアの利用者

(実施前) 午前⇒入浴した。 午後⇒寝ている。

(実施後) 午前⇒介助時唸り声を出したりしている。

午後⇒水分補給時吸うことができず、ストローを噛んでおり介助した。臥床
介助時「あー」と声を出したりしている。

◎長期ショートステイ利用者

(実施前) 午前⇒入浴した。 午後⇒寝ている。

(実施後) 「発語の状況」⇒臥床時「ありがとう」離床時「起きる」「トイレ」と発語が聞かれている。

【まとめ】

目標に対し介護員が問題意識を持ち、「利用者の反応」「カンファレンス」「ケアプラン」が重要と考えることができ、相談員とも問題としている部分にそれがなかったことが良かったと感じている。実施内容も介護員に負担になることもなく行なえたことや、実施していることや反応も見えやすくなつたと感じている。ただし、介護員の力量に差があるのでことに対しての具体的な対策が実施できなかつたことや、相談員との確認が不十分となつた。

分になってしまったことは反省点と感じている。取り組み自体はケース入力の見直しをすることが出来たと思う。今後も対象者を絞る形にはなるが、項目確認をしてケース入力していくことを継続していきたいと思う。

(5) 看護部門

【部門目標】「薬剤管理の見直し」

【目標設定の理由】

これまででも薬剤管理についての対策を講じてきたが、平成27年度は内服薬に絡む誤薬が多かった。点滴薬に絡むものもあり、またショートステイ利用者の薬の返し忘れも多かった為、平成28年度は薬剤管理全般について見直し、医務部門での誤薬事故と介護員の誤薬事故の一因となる配薬ミスの防止に努めたい。

【現状の把握】

つくし苑のヒヤリハット・事故報告から、H26年4月～H28年5月の期間で医務が原因の不適合報告書をまとめた。内容は、各棟へ仕分けるケースへのセットミス、利用者毎に複数科から処方された薬をまとめる際のミス、下剤指示のミス、SS利用者の薬の返し忘れ等。

その中から、生命に影響するリスクがあり「緊急性」「重大性」があるものとして、薬のセットミスに絞り、「なぜなぜ分析」を活用し真の要因を探った。

- ① 本人の原因：時間的・気分的に余裕がない。
- ② 管理上の原因：薬の量が多い。
- ③ ハード面の原因：電話応対等の為集中できない。内服している人数が多いので、途中で集中力が途切れる。

複数の事例について分析を行い、最終的に同じような結果になった。

薬のセットは遅番の業務となっているが、受診対応をすることもありまた他の業務もある中で、薬セットに集中する事が難しい状況にある。薬のミスの要因を解消するには、部門内の多岐にわたる業務の整理や改善が必要であるとの結果に至った。

【実施内容】

分析結果から効果的な対策をたてるという流れはつくれなかったが、現時点では是正可能な対策を挙げ実施した。

- ① 個人用薬箱の整備：処方科・薬袋数の表示を明確にした。
- ② 朝・昼・夕別薬ケースの整備

ケースの蓋を開けた時にも分かりやすいように、蓋の内側にも朝・昼・夕の色分けテープを貼った。

- ③ 複数科の薬をまとめる(薬をつくる)時に、日数と担当者をメモし、責任の所在を明らかにした。
- ④ 薬をつくる時にホチキス留めの位置を決めた。

【まとめ】

煩雑な業務の中、遅番一人では薬セットできない日もあり、その場合には他のスタッフが一部対応するしかない状況である。時間に追われながらでは、ミスの再発は免れない。

今回実施した対策はセット時の確認がしやすい為のものだが、今後は看護体制を見直しし、部門内の業務整理と課題解決を図っていきたい。

(6) 機能訓練部門

【部門目標】「現状の課題を整理し個別のニーズに応じたリハビリの提供を考える。」

【設定の理由】

利用者の生活の質の向上に繋がるリハビリの提供をする為には一人ひとりの状態や目的に合わせた柔軟で効果的な援助と部門の専門性を活かした多方面からのアプローチが必要であると考え目標を設定した。

【現状の把握】

利用者個々の身体状況や活動度、現在のリハアプローチ等を把握する為①介護度②日常生活の自立度(寝たきり度・認知症高齢者の日常生活自立度)③現在のリハビリの提供方法(どんな関わり方をしているか?)④離床率(定義:入浴・食事以外で月1回以上離床している。)を個別に項目別データとして表を作成した。これらのデータから特性や個別に必要と思われるアプローチ、効果的な関わり方を部門内で話し合いを行いながら現状を整理しその上で個別のニーズに応じたリハサービスを提供できる体制作りを整えていくとしていた。しかし離床・リハ提供データを収集していくうち対比するデータが必要ではないかと考えるようになり追加した。

【実施内容】

5月から7月まで個別データの収集を行い集計表の作成をした。8月には集計されたデータの分析を行った。9月には8月に行った分析を客観的に捉える為項目別に数値・グラフ化し棟で行っている離床の内容も把握も必要と考え 10月に棟からの聞き取りと数値化したデータをグラフ化している。11月に傾向や特徴を分析。12月は離床出来ていない理由を身体レベルで分類しグラフ化した。1月は離床の目的や効果について文献や資料を集め部門内で読みあわせを行い2月に考察を行っている。

【結果】

平成28年度は離床率を軸とした活動度・個別リハビリのメニューなどを数値化して整理し把握する取り組みを通じ、現状を客観的にとらえる事ができた。リハビリメニューは利用者の個別ニーズに対応したメニューでとはいえず、半数の利用者に関わりがなかった結果があり、今後介入の余地があると思えた。

【今後の取り組みと課題】

集計した事で部門の課題ががみえられる対象もはっきりした。入所者の変化に応じ心身共に豊かに過ごせる事や個別のニーズに沿う形で生活の質の向上を図れるようなりハビリメニューの提供方法を具体的に考えていきたい。

(7) 事務部門

【部門目標】 玄関ホールの環境改善(来苑者に優しい玄関ホールを作る)

【目標設定の理由】

つくし苑の玄関ホールは毎日のように、利用者への面会はもちろん、関係機関の職員や取引業者など様々な人達が利用されている。しかし、開設当初から特に大きな見直しをされたわけでもなく当たり前のように利用されていることから、近年は利用者にご不便をおかけしている様子が見受けられてきている。そのため、今後、施設の顔としての玄関ホールを改善することで、来苑者の満足度の向上につなげたいと考えた。

【対策の実施】

部門から出された意見をまとめたところ以下の表のとおりとなった。るべき姿を目指して対策を実施することとした。

場所	現状	るべき姿
玄関	座って待てる場所が少ない	ゆっくりできるスペースを確保できる
玄関	来苑者が行ったり来たり	移動を一本の線で行えるようにできる
玄関	長靴の置き場がない	長靴をおけるようにする
受付	来苑者が立ったままで受付している	誰もが安楽に受付できるようにする
受付	混雑時に並んでしまい、来苑者を待たせてしまう	待たせることなくスムーズに受付できる

場所	現状	るべき姿
ホール	来苑時に車イスが煩雑に並んでいるのが目に付く	整理整頓されている
ホール	適切な場所に手すりがない	必要とされる場所に手すりがある
ホール	台車の位置がジャマになるのではないか	来苑者のジャマにならない場所に置かれている
ホール	手すりが物の影にあり、自由に使えない	手すりを自由に使える

・対策を実施した事項

- ① 玄関前に長イスと肘付きイスを設置し、自動ドア前の長イスは撤去
- ② 受付口を2箇所にするために玄関カウンターを整理し、足ふきマットを設置
- ③ 観葉植物を移動
- ④ 下足箱脇のスペースを整理し、広さを確保
- ⑤ 受付前の手すりの撤去
- ⑥ 自動ドア脇の壁面に手すりの設置
- ⑦ 總毯とタイルの境目に『靴をお脱ぎください』等の表示板プレート等の設置
- ⑧ 冬対策の実施(長靴置き場の設置)

【効果の確認】

各所から改善後に意見聴取を行ったところ、以下のような意見が出されている。

- 介護部門
 - ・ 介護部門ではほとんど正面玄関から入ることがないので、改善部分がわからない。
 - ・ 他の事業者や施設を訪れたことがある職員は玄関が広い(広すぎる)ので、人気がないように感じる。
 - ・ イスが置かれたので利用者が座りやすくなった。
 - ・ (玄関が)スッキリした。
 - ・ 手すりがあって便利になった。
 - ・ 時計がない(のが残念)。事務室内の時計はのぞきにくい。のぞくと事務室の職員が見てくるので、気まずい感じになる。
- 医務部門
 - ・ 来苑者が手すりにつかまって安定して靴の脱ぎ履きができるようになった。
- 事務部門

- ・ 肘付きイスと手すりの利用者が多いと感じる。やはり、あれば普通に使うのだろうと思う。高齢者に限らず、靴の履き替えや手荷物を置いたりなど、さりげない動作にも役立っているようで、安心もできるし良かった。
- ・ イスが事務室側に向けられているので、事務としても誰が来苑したかわかりやすくなった。
- ・ イスに手すりがついているので、靴の脱ぎ履きや立ち座りがしやすく、安全になった。
- ・ 以前よりスッキリとして、入ってきた時の印象が良いように感じる。
- ・ 台車を移動したことで、以前は出入りする業者さんも靴を脱いで台車を取りに行き、また、靴を履いて荷物を取って、また脱いでの繰り返しで手間が掛かっていたように感じたが、今は直接窓口で声をかけるだけで済み、手間も減っている。業者にとってもやりやすくなつたのではないかと思う。
- ・ 中に入らない用事のお客様も靴を脱がずに座れるイスが設置されたことで、待ち時間も楽に待つことができるようになった。
- ・ 長靴置き場はまだ浸透していないこともあり、来苑者に声をかけさせている状況にある。しかし、以前のように無理に小さい靴箱に押し込むこともなくなり、玄関に置いたままの状態になることもない。これが来苑者に浸透すればもっとも活用されるのではと思う。
- ・ 初めて来苑した方はどこで靴を脱いだらよいのか分からずに土足のまま入っていく方もいた。履き替え場所をポスターで掲示することで、間違いもなくなったように思う。また、どこで履き替えたらよいのかと聞かれてもポスターを指して説明できるので、相手もわかりやすくなり、こちらも説明しやすくなつた。
- ・ 玄関全体のゴチャゴチャした印象が改善され、すっきりとした清潔感のある玄関ホールになった。
- ・ 長年置かれたままの人形や飾り、観葉植物や掲示物などが整理されたことで、雑然としていた見た目が改善された。
- ・ 肘かけイスの設置や手すりの設置で利用者や来苑者の立ち座り等で安全性が高められた。
- ・ 受付前のカウンターがすっきりし、2つの窓口を有効に使えるようになった。来苑者の利便性が高まったように思う。
- ・ 台車置き場を風除室にすることで、出入り業者の動線が効率的になった。
- ・ 当初はそれなりの予算を見込んでいたが、既存のものや使用しなくなつて取り外したものを利用することで、かなりの低予算で実現できた。
- ・ パンフレットや広報誌を置いているラックを来苑者の目に付きやすい場所に移動させ、見もらえることを意識した設置場所になったことは施設の姿勢としても意味のあることだと思う。

- ・ L字手すりの設置は靴の脱ぎ履き時の体勢の安定化に効果を発揮している。
- ・ 肘かけ付きイスの設置はショートステイ利用者の安全な待機場所となっており、内履き、外履きの交換時にも姿勢の安定に繋がっている。また、来苑者の待機場所としても活用されており、大変良いと思う。
- ・ 窓口を増設することで、来苑者に対しての待機時間の解消や速やかな対応が可能となった。
- ・ 長靴置き場の設置は冬季間や雨天時の利便性の向上に繋がっている。
- ・ 観葉植物のレイアウト変更や掲示物を整理したことで玄関ホールの印象が向上したように思う。また、整然としたことでスッキリ感も向上した。
- ・ 玄関ホールをきれいにしたことで事務室職員の玄関ホールに対する整理整頓、美化への意識変化が出ているように感じる。
- ・ 今回、この部門目標を実施することで、お金をかけずに実施するためにはどうすれば良いのかを考える良い機会になった。この経験を今後の業務にも活用することができるのではないかと思う。

【まとめ】

今回の対策ではおおむね高評価を頂いている。特に利用者の安全面の向上や来苑者の利便性の向上につながったことは大きいと感じている。また、波及的に事務室内職員の整理整頓への意識の変化があった。今後はこの状態を最低限と考え、なおいっそうの利便性の向上に努めたい。

平成 28 年度 大館市デイサービスセンター大滝 事業報告

デイサービスセンターは、身体機能維持や介護者の休息時間の確保、また他者交流の場や生きがいづくりと社会性を保った生活を維持するための役目を果たしている。外出の機会が減少することにより活動性や身体機能の低下など考えられ、その課題に対し計画的に援助を提供してきた。

平成 27 年の介護報酬の改定に伴う報酬単価の減額のため厳しい運営を余儀なくされてきたが、平成 28 年度はこれまでのサービス提供体制を改めて、サービス提供時間を 7 時間に延長し安定した事業経営に繋がるように取り組んだ。年間利用延べ人数は、平成 27 年度の 10,293 人に対し、平成 28 年度は概ね前年並みの 10,376 人であるが、サービス提供時間を 7 時間に延長することができたため、収入としては増加した。しかし、当センターの利用者が多く住む地域は、徐々に対象となる要介護高齢者自体の減少が伺え始めており、今後も利用実績を見ながらサービス提供体制の見直しを行っていきたい。

また、開設から 18 年が経過し設備の経年劣化が目立つことで特殊浴槽（個浴）の更新を行った。それに合わせて利用者のニーズに添えるように介護技術の習得に努めた。今後も利用者のニーズ・身体状況に応じた満足して頂ける個浴援助に取り組んで行く。

ISO9001 の部門目標としては「協力して行う仕事を共通理解する」を目標に据え取り組んだ。協力して行うべき仕事、専門性を發揮して責任を持って行うべき仕事を職員の協力を得ながら整理した。整理する過程で以前に比べ連携がスムーズになってきた感はあるが、この目標を達成したことの証明として、平成 29 年度に職員自身の自己評価を調査する予定としている。

平成 28 年度の顧客満足度調査からは、多くの感謝の言葉やねぎらいの言葉が記載されていたが、高い評価を付けた方の中にも、援助への細かい配慮や要望の記載がされていた。記載された内容は今後の課題として新たに取り組み顧客の満足度に繋げていきたい。

今後は、要支援者等に対する総合事業の実績を見据えながら、また平成 30 年度に予定されている介護報酬改定の動きにも注目しながら、收支の適正化と高品質なサービス提供との両立を目指して、職員の連携・協働のもとで事業を運営していくことを誓い、事業報告とする。

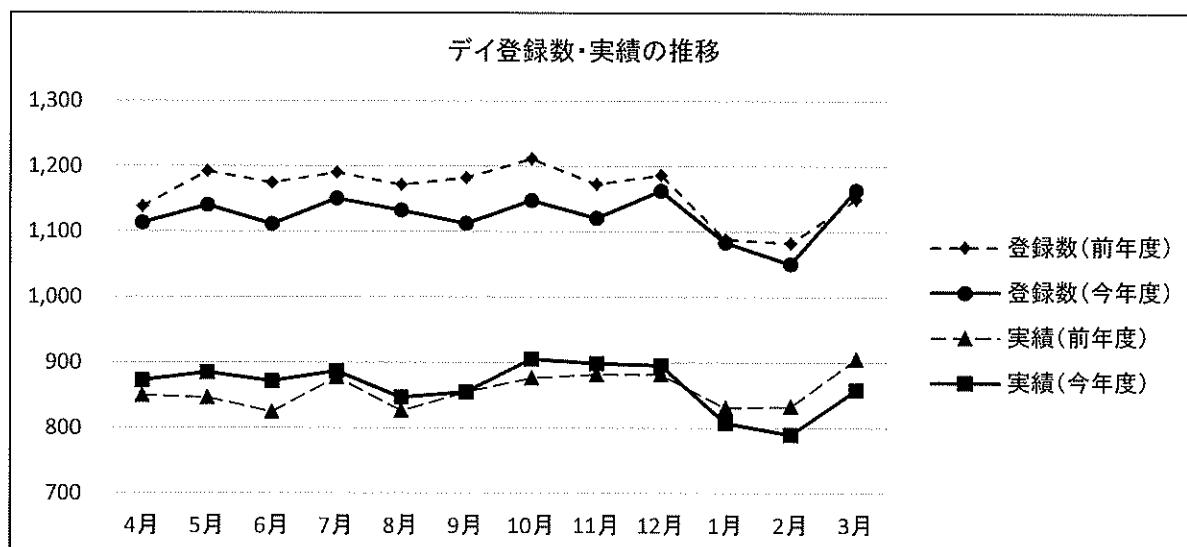
平成 29 年 3 月 31 日

大館市デイサービスセンター大滝
管理者（主任介護員）工 藤 祐子

1. 事業実績

(1) サービス実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
営業日数	30	31	30	31	30	30	31	30	31	29	28	31	362	362
登録者数(延)	1,114	1,141	1,112	1,151	1,133	1,113	1,148	1,121	1,163	1,084	1,051	1,164	13,495	13,947
当日予定(延)	916	922	912	933	931	903	955	924	928	849	821	906	10,900	10,915
利用人数(延)	873	885	872	887	847	855	906	899	896	808	790	858	10,376	10,293
上:予防実	54	53	52	53	55	53	53	53	50	58	57	52	643	642
中:介護実	79	80	84	85	82	82	85	87	88	90	87	87	1,016	1,002
下:合計	133	133	136	138	137	135	138	140	138	148	144	139	1,659	1,644
廃止停止	1	4	1	2	3	4	2	4	1	2	1	3	28	37
新規	1	4	5	4	4	1	3	2	4	5	0	4	37	25



(2) 要介護度別利用者数

	年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	構成比
要支援1	H28	12	13	13	13	13	12	12	11	10	12	11	11	143	8.6%
要支援2		42	40	39	40	42	41	41	42	40	46	46	41	500	30.1%
要介護1		29	29	33	34	33	30	32	32	33	34	34	35	388	23.4%
要介護2		22	21	21	22	23	24	24	25	26	29	29	27	293	17.7%
要介護3		16	17	15	14	15	14	16	16	16	16	13	15	183	11.0%
要介護4		7	7	8	7	7	8	7	8	7	6	7	7	86	5.2%
要介護5		5	6	7	8	4	6	6	6	6	5	4	3	66	4.0%
計		133	133	136	138	137	135	138	140	138	148	144	139	1,659	100%

2. 行事実施状況

月	行事・レク名	実施日	延人数
4	観桜ドライブ	4/24(日)～4/30(土) 5/4(月)～5/6(水)	7日間実施 150
5	買い物ツアー(陽気な母さんの店)	5/23(月)～6/4(日)	13日間実施 54
6	十二所保育園慰問 買い物ツアー(餌釣ダイソー)	6/30(木) 6/22(水)～6/23(木) 6/27(月)・6/28(火) 7/1(金)～7/3(日)	29 7日間 60
7	買物ツアー(道の駅とつと館)	7/25(月)～7/31(日)	7日間実施 44
8	夏祭り	8/22(月)～8/28(日)	7日間実施 245
9	敬老会	9/19(月)～9/25(日)	7日間実施 211
10	森のおうち交流会 外出レク紅葉ツアー	10/11(水) 10/24(月) 10/28(金)～11/3(日)	28 7日間実施 181
11	だまっこ作り	11/21(月)～11/27(日)	208
12	クリスマス忘年会	12/19(月)～12/25(日)	7日間実施 201
1	お正月を楽しもう 十二所保育園クリスマス交流会	1/3(火)～1/9(月) 1/12(木)	7日間実施 190 23
2	デイオリンピック	3/14(月)～3/20(日)	7日間実施 210

3. 研修参加状況

(1) 内部研修

月	場 所	研 修 名	講 師
5	デイホール	運営基準・人員基準	伊藤 政利
7	デイホール	接遇	工藤 祐子・児玉 京子
9	デイホール	認知症サポート(在宅合同)	伊藤 政利
10	成章園	入浴(個浴)	成章園職員
11	デイホール	感染症	畠山 芳人・千葉 洋子
12	デイホール	救急救命講習(ヘルパー合同)	大館市消防比内分署

(2) 外部研修

月	研 修 名	場 所	参加者
8	デイサービスセンターにおける説明責任とリスクを学ぶ	秋田市	川嶋 慎一

月	研修名	場所	参加者
9	看取りケアの実践・看護、介護職が行うグリーフケア	大館市	工藤 祐子
	支援者の為の成年後見活用講座	秋田市	川嶋 慎一
11	一步先行く福祉レクレーション支援	大館市	虹川 真由子

4. ISO9001 活動報告

【部門目標】 「協力して行う仕事を共通理解する」

【設定理由】

日々の業務・援助場面で「私はやりません、できません」という言葉が職員から聞かれることがある。職員個々が業務に線引きをすることで、直ぐに対応できず利用者を待たせている状況もみられ、すべての業務は自分の仕事だと思うことが大事であるとの意見が挙げられた。

したがって、職員間で協力できる業務はなにか、どう協力するのかという事について話し合い共通理解を深める、併せて、専門職が責任を持って取り組むべき業務についても確認できる事を狙い、結果的には事業所内の連携体勢を向上させることに繋がる事を目的として活動をする。

【活動状況】

(1) 現状把握

相談員、医務・リハ・介護(グループ毎)で現在の業務内容・動きを書き出している。

① 実施内容

① 現状把握で書き出した業務内容・動きを元に、「協力できる・協力できない」関係なく各職種の専門性を考え共通の表を作成した。

⇒協力できる(○)・場合によって協力できる(△)・協力出来ない(×)で表記した。一覧にした上で「協力出来ない」業務を×にし表した上で各職種の専門性・責任性が共有できるものとなった。

② 専門性、責任性が明確になった共通の一覧表を時系列(業務日課表)で表し、忙しい時間に協力して欲しい業務とそうでない業務を表記した。⇒△(場合によっては協力できる)・▲(できれば協力して欲しい)で修正し作成。

③ 修正した表を元に「場合によって協力できる(△)とできれば協力をお願いしたい(▲)」から「協力できる(○)」に変わった業務を理解できればいいのではとなった。改めて、職種別に▲から○に変わった業務と△の業務をリスト化し

た。

- ④ 「協力できる業務(△)」をリスト化し、共通理解出来た事をどう証明するか話し合った。

【結果】

活動前は「何を協力していくか不明確」であったが、活動後は「明確」にできた。また、協力していく業務の定義として①誰がやっても出来る。②協力できる状況にあると定めた。

※その時の状況によって△(協力できる)から×(協力できない)に変わる事もある。

明確になった△(協力できる)を共通理解できた事の証明は、この時点での調査を職員に実施し、一年後も同じ調査結果から比較し証明することにした。

【まとめ】

「総体的に協力する気持ちが出て来ている。」

「自分の係以外の所で協力している姿を見て、自分も協力する姿勢を持って行かなければと思った。」

「引き続き協力する気持ちを持ってコミュニケーションを図って行きたい。」

など取り組む事によって協力して行く姿勢は職員間で感じることができたと多く聞かれた。

また、頼み方や声の掛け方の工夫で今以上に協力出来ていけるとの意見も挙げられた。

今回の活動を得て協力できる業務が明確になった事で各職種の専門性・責任性も共有することができた。

また、協力できる業務が明確になった事で職員間での声掛けや行動により、以前より協力・連携を図る姿勢を感じることができた。

この取り組みを今後も活かしていくためにも、平成27年度に取り組んだ「職員間の連携を学ぶ」も合わせて実際の行動に取り入れていきたい。

平成 28 年度 大館市社会福祉事業団ホームヘルパーステーション 事業報告

ヘルパーステーションは、可能な限り住み慣れた自宅で安心して暮らしたいという利用者の思いを汲み取りサービスを提供してきた。日常生活における自由な自己決定の積み重ねが「尊厳ある生活」の基本と考え、自立支援を目的に利用者の意思を尊重しながら支援した。

平成 28 年度は、活動件数が月平均 711.8 件(平成 27 年度 733.6 件)であった。この減少傾向は2年連続で続いている。ヘルパーの人員確保の困難さによる提供体制の不足に加え、体調不良による入院やショートステイ利用、施設入所等の住み替えの影響が考えられる。

しかし福祉輸送サービスの依頼は年々増加傾向となっている。ヘルパーの人員不足により援助対象が限定的となっている現実もあるが、低額な額で病院への移動を支援することは社会福祉法人の責務としても重要性を増してきている。

ISO9001 の部門目標活動においては、「記録表の流れをスムーズにする」ことを目標とし活動した。仕事の流れを見直すことにより、「訪問」から「請求」までの業務の流れがスムーズになったと。また、平成 27 年度実施した訪問介護計画書の作成から配布までの流れも滞ることなく行えており、事務的な仕事の流れは整備されている。

最後に、訪問介護は、在宅介護の最前線に位置する重要なサービスであり、様々な生活スタイルで暮らす地域の高齢者に寄り添いながら、その人らしい生活を支えていくことに誇りを持ち事業に臨んでいくことを誓い、事業報告とする。

平成 29 年 3 月 31 日

大館市社会福祉事業団ホームヘルパーステーション

管理者(サービス提供責任者) 羽澤 紀子

1. 事業実績

(1) 利用人数(実)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
介護予防	27	24	26	28	25	28	28	27	26	27	23	26	315	40.9%
要介護	35	34	39	35	40	35	35	35	28	31	33	35	415	53.8%
軽度生活支援	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	6	0.8%
生活管理指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
移動支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3	0.4%
障害者支援	3	3	3	3	2	2	3	3	3	2	3	2	32	4.2%
計	65	61	68	66	67	65	66	65	59	64	61	64	771	100.0%

(2) 活動件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
介護予防	101	98	105	108	106	120	110	112	126	108	100	122	1,316	15.4%
要介護	504	486	519	484	529	460	490	482	418	447	437	504	5,760	67.4%
軽度生活支援	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	3	8	20	0.2%
生活管理指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
移動支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4	0.0%
移送サービス	121	118	105	119	113	113	96	106	112	126	103	125	1,357	15.9%
障害者支援	11	8	7	9	5	6	10	8	11	2	4	4	85	1.0%
計	737	710	736	720	753	699	706	708	670	693	647	763	8,542	100.0%

2. 要介護度別利用者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
要支援1	11	10	9	11	9	11	11	10	9	11	9	11	122	16.8%
要支援2	15	13	17	17	16	17	17	17	17	16	14	15	191	26.2%
要介護1	21	17	23	22	22	20	20	19	13	15	15	14	221	30.4%
要介護2	4	6	6	5	10	8	8	8	8	8	10	9	90	12.4%
要介護3	6	7	7	6	6	5	5	6	5	6	6	9	74	10.2%
要介護4	3	3	2	1	2	2	2	2	2	2	2	3	26	3.6%
要介護5	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.5%
計	61	57	65	63	65	63	63	62	54	58	56	61	728	100.0%

3. 研修参加状況

(1) 内部研修

月	研修名	場所	講師	人数
4	マニュアルの見直し			9
5	倫理・法令遵守 ～報告・連絡・相談と守秘義務	ヘルパー室	伊藤 裕子	9
6	介護予防・日常生活総合事業を含む 制度の理解を深める	面談室	伊藤 政利	9
7	調理実習 ～食欲が落ちる季節のメニュー	十二所公民館 調理室		9
9	認知症について学ぶ	面談室	羽澤 紀子 伊藤 裕子	8

月	研修名	場所	講師	人数
9	デイ・ヘルパー・居宅合同研修 認知症サポーター養成講座	デイサービスホール	伊藤 政利	8
10	感染症の対応について学ぶ	ヘルパー室	伊藤 裕子	8
11	高齢者の栄養・低栄養について	会議室	明治乳業 栄養士堰合氏	8
12	デイ・ヘルパー合同研修 救命救急講習	デイサービスホール	救命士・2名	8
3	ISO 9001 から 2015 への移行内容について 総合事業について	面談室 ヘルパー室	伊藤 裕子	8

(2) 外部研修

月	研修名	開催地	参加者
6	同行援護従業者養成研修	秋田市	羽澤 紀子
6	平成28年度介護保険施設等集団指導	秋田市	羽澤 紀子
6	ヘルパー協ブロック別研修会『在宅で役立つ介護技術』	鹿角市	工藤 恵子 小松 政子 藤島ふみ子
9・10	同行援護従業者養成研修応用課程	秋田市	小松 政子

4. ISO9001 活動報告

【部門目標】 記録表の流れをスムーズにする

【設定理由】

記録表を個人で管理していたことで、綴じられていない・見当たらないなど流れが把握出来ないことがある。記録表の流れを明確にすることで『訪問』から『請求』までの作業がスムーズに行われ、無駄な時間も削減でき業務の流れもスムーズになるのではと考え取り組むこととした。

【活動状況】

(1) 現状の問題点を把握する

記録表の流れの中で問題のある部分を職員(登録ヘルパーも含め)で連環図

を使用しチェックする。

(2) 問題を特定する

①訪問記録表のパソコンへの入力が遅れる。②予定されていたスケジュールと実際の援助時間の変更がサービス提供責任者の所で滞り、ケース入力が遅れる。

①について…記録表の提出期限を明確にし、記録表の所在もヘルパー毎にファイルを作り所定の場所に保管することとした。また、申送り等も付箋を使用していたが、書く時間を減らし修正がしやすいようにケース入力することで時間の短縮を図った。

②について…援助時間の変更方法について曖昧な状態がありパターンを収集しマニュアルとしていくこととした。また、通院時の個別マニュアルについても変更に手間取っている状態があり様式の変更をした。

(3) 新様式の案を確認

②について…通院時の個別マニュアルは、薬情の転記があり手間取っていた。その為、様式を修正することとした。また、文書名を個別マニュアルから個人援助内容(通院)とすることで旧文書との違いを明確にした。

(4) 新様式の案を試験運用

院内処方の場合は薬情が出ない場合もあることがわかり、薬名が書かれている領収書をコピーさせてもらうこととした。また、個人援助内容(通院)は変更不要の場合(援助担当職員)と変更が必要な場合(サービス提供責任者)を行うこととし担当を明確にした。

(5) 本運用と評価

個人援助内容(通院)の変更と、予定スケジュールと実際の援助時間の変更がスムーズに行われるようになった。予定変更の必要な援助については、一目でわかるよう印をつけたことで見落としも無くなった。

【評価(まとめ)】

記録表を個人ファイルに保管し、援助から1週間以内にケース入力を行うことで記録表の所在が明らかになっている。また通院介助様式もワードに変更したことで入力もしやすくなり時間変更が容易になっている。記録表の流れが明確となり、月末処理や請求もスムーズになった。

平成 28 年度 指定居宅介護支援事業所おおたき 事業報告

居宅介護支援事業所では、自宅で生活する要介護者に対しての相談対応、各サービスの調整やケアプラン作成等の業務を行なっている。具体的には利用者の生活における悩みの軽減や生活の目標を本人及び家族とともに考え、様々な資源と利用者を結び付け、自宅での自立した日常生活が続けられるよう支援している。

「医療・介護・福祉・生活支援・住まい」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に貢献すべく、地域の担い手との連携をはかるべく、インフォーマルサービス(ボランティアや近隣住民の協力によるサービス)の重要性を学ぶ機会を設けた。また、医療関係者との連携向上に向けて、医療機関で行う研修への参加を促した。

これらの活動は全てケアマネジメントの質を担保するものであり、グループスーパービジョンの実施を含め、ケアマネジャーの力量の向上がケアマネジメントの質の向上、ひいては、事業所実績の安定につながっていくとの方針のもとに重点的に取り組んだ。

また、部門内の品質目標として、利用者本人の果たす役割へ焦点を当てて活動した。利用者自身が生きがいを持てるためには、これまでの長い人生の中で果たしてきた役割、そして今現在も果たしている役割を尊重することが重要と考える。よって、これからケアプランは、利用者本人が自立した日常生活を送ることができるよう、ケアプランの目標に注目して利用者の生活意欲が高まるよう支援していきたい。

年間の給付管理件数は、平成 27 年度(2,187 件)に対し 2,324 件と 6.3% の増となった。その前の年度と比較しても 2.6% ではあるが微増となっている。「要介護 3~5」の中重度者と言われる方の割合は、39.6% となり、やや割合が増加した。今後も中重度者の割合には注目していきたい。

待ちの姿勢ではなく、様々な活動への参画を図りながら、地域や医療機関等より信頼され、ケアマネジメントを依頼されるように努めたい。また、重度者の長期入院や病院から直接の施設入所の希望など、給付管理の対象にならないケースもあり、ケアマネジャー個々の受け持ち人数が多くなりつつあるという状況もあるが、社会福祉法人が設置する事業所の使命のひとつとしてこれらの相談支援も継続していく。

今後も、自立支援に資するケアプランの立案を目指し、関連領域の知識を深めるための研修を行ない、ケアマネジャー個々の力量向上を促進させながら、それによって事業所全体の評価を高めていくことを誓い、事業報告とする。

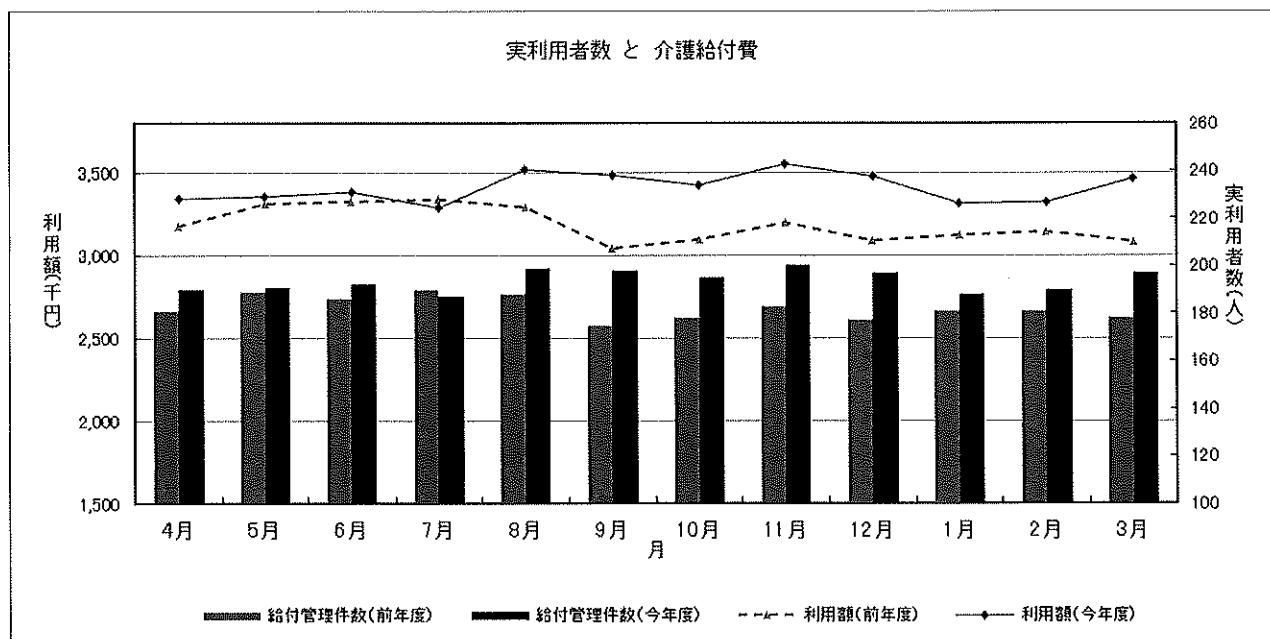
平成 29 年 3 月 31 日

指定居宅介護支援事業所おおたき
管理者 伊藤 政利

1. 事業実績

(1) サービス実績

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年実績	対前年比
請求利用者数(実)	H27	181	189	186	190	188	175	178	183	177	181	181	178	2,187	2,265	96.6%
	H28	190	191	192	187	199	198	195	200	197	188	190	197	2,324	2,187	106.3%
予防受託件数	H27	16	16	15	17	17	17	17	18	20	19	19	20	211	135	156.3%
	H28	20	19	17	19	17	19	19	19	18	17	16	16	216	211	102.4%
廃止・停止件数	H27	9	7	5	4	7	7	16	11	10	7	3	8	94	85	110.6%
	H28	6	5	11	8	9	4	5	8	4	10	6	4	80	94	85.1%
新規依頼数	H27	14	8	2	8	4	9	12	4	6	4	6	7	84	78	107.7%
	H28	11	9	7	8	8	11	2	8	7	8	7	11	97	84	115.5%



(2) 要介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延数	構成	計
要介護1	67	65	69	67	65	64	63	62	63	60	63	64	772	33.1%	60.4%
要介護2	51	52	47	50	57	55	52	54	54	52	56	56	636	27.3%	
要介護3	34	33	33	32	38	35	38	43	42	41	46	46	461	19.8%	39.6%
要介護4	20	23	26	21	23	27	26	25	22	21	20	20	274	11.8%	
要介護5	18	18	17	17	16	17	16	16	16	14	11	11	187	8.0%	
計	190	191	192	187	199	198	195	200	197	188	196	197	2,330		

2. 研修参加状況

(1) 内部研修

月	研修名	場所	講師
4	生活すること	在宅事業所面接室	目時恵 伊藤恵子
5	自律支援	在宅事業所面接室	黒澤繁子 三上歌誉子
6	FASTとは	つくし苑会議室	石垣恵美子 上田美穂子
7	機能訓練	つくし苑会議室	平澤陽
8	権利擁護	つくし苑会議室	平澤陽
9	インフォーマルサービス	在宅事業所面接室	伊藤恵子
10	グループスーパービジョン①	在宅事業所面接室	伊藤政利 平澤陽
11	グループスーパービジョン②	在宅事業所面接室	伊藤政利 平澤陽
12	グループスーパービジョン③	つくし苑会議室	伊藤政利 平澤陽
1	グループスーパービジョン④	在宅事業所面接室	伊藤政利 平澤陽
2	グループスーパービジョン⑤	在宅事業所面接室	伊藤政利 平澤陽
3	グループスーパービジョン⑥	在宅事業所面接室	伊藤政利 平澤陽

(2) 外部研修

月	研修名	場所	参加者
5	NST研修会	大館市	黒澤繁子 上田美穂子
6	新総合事業の取組支援事業研修	秋田市	伊藤政利
6・8	介護支援専門員研修 課程Ⅰ	秋田市	上田美穂子
8	介護支援専門員研修 課程Ⅱ	秋田市	上田美穂子
9	支援者のための成年後見活用講座	秋田市	伊藤政利
10	主任介護支援専門員更新研修	秋田市	伊藤政利
11	秋田県北地区老人福祉施設長研修会	大館市	伊藤政利
12	秋田県高齢者虐待対応現任者研修会	大館市	平澤陽
12	介護支援専門員実務研修実習指導者に対する集合研修	大館市	伊藤政利 伊藤恵子

3. ISO9001活動報告

【部門目標】 本人の役割を見出せるようにアセスメント表を見直す

【設定理由】

厚生労働省から通知のあった「課題整理総括表」やICF(国際生活機能分類)の考え方に基づいたケアプラン立案が求められている現状に際し、当事業所で用いているアセスメント表では、本人の役割などがプランに反映させにくい状況となっていた。利用者の役割の遂行、社会参加、意欲と生きがいが確認でき、自立支援、または本人の役割が見出せるような様式への変更に向け、取り組むことにした。

【活動状況】

月	取組事項	内容
4	ゴールの共有、年間活動計画の策定	方向性の検討を行なう
5	内容の検討①	アセスメント様式の検討
6	内容の検討②	アセスメント様式の検討
7	内容の検討③	アセスメント様式の検討
8	内容の検討④	アセスメント様式の検討
9	対策の実施①	様式の作成
10	対策の実施②	様式の作成
11	対策の実施③	様式の作成
12	運用開始 モニタリング	利用状況の確認 様式の修正
1	モニタリング及び修正	利用状況の確認
2	モニタリング及び修正	利用状況の確認
3	効果の確認	まとめ

【まとめ】

取り組みの途中、「役割を見出せるようなアセスメント表の作成」ではなく、単なる「アセスメント表の見直し」となってしまった経緯もあったが、取り組みを通じて、誰のためのアセスメント表であり、何のためにアセスメントを行なうのかという基本に立ち返ることができた。

また、ICFの「活動・参加」は奥が深く、わかっているつもりでわかっていないかったということ、さらに深める必要があるということをケアマネジャー個々で気づくことができた。

取り組みではアセスメント表の完成をゴールにしたが、実際には完成したアセスメント表から「本人の役割」をプラン化し、そこに掲げた目標を達成することを目指しながら業務を行ないたい。

平成 28 年度 大館市地域包括支援センターおおたき 事業報告

地域包括支援センターは、地域高齢者の総合相談窓口となり、介護予防プランの作成や介護予防活動などに取り組むとともに、虐待や支援困難ケースへの対応を行いながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりのために活動している。

重要視される地域包括ケアシステムの構築に向けて、平成 28 年度は地域に入り、地域とともに活動していくことに重点を置き取り組んだ。

担当圏域地域との関わりは、品質目標として掲げた『地縁組織との協働による介護予防事業の実施』を通じ、連携強化を図ることができたと感じている。各地区のリーダーや地域の核となる住民を中心に、住民に向け介護予防事業等の活動をアピールし、地域住民が主体となって活動できるよう呼び掛け、地域の輪が広がったことは、助け合いや住みやすい地域づくりを築いていくための一歩となり、センターにとつても今後の活動に活かせるものが見えたと感じている。

地域ケア会議については、地域ネットワーク協力員の参加により開催することができ、会議目的の共有、また地域にある資源を改めて確認しながら今後必要となる資源を探った。ただ、個別の事例を検討する「地域ケア個別会議」の開催については、開催頻度が少なく、個別事例から地域課題への普遍化までを導き出すに至らず、平成 29 年度の重点目標として掲げ取り組んでいく。

また、認知症キャラバンメイトの活動は、市が実施主体となる認知症サポーター養成講座に対する講師派遣のほか、当センターが主体的に計画したサポーター養成講座を開催することができ、地域住民に対して認知症の理解促進や普及啓発を行うことができた。

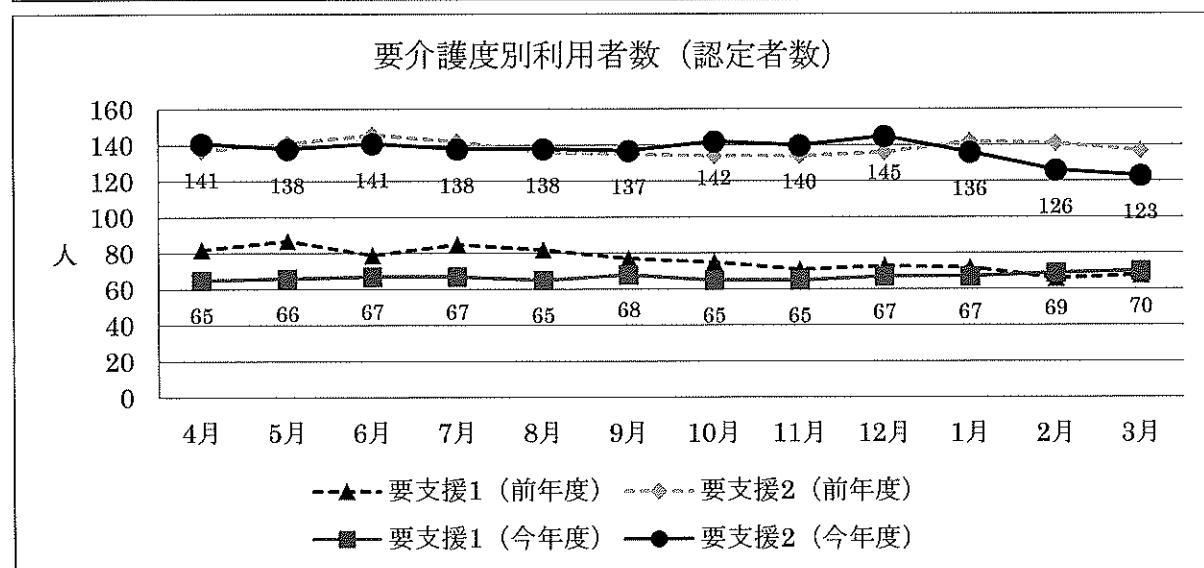
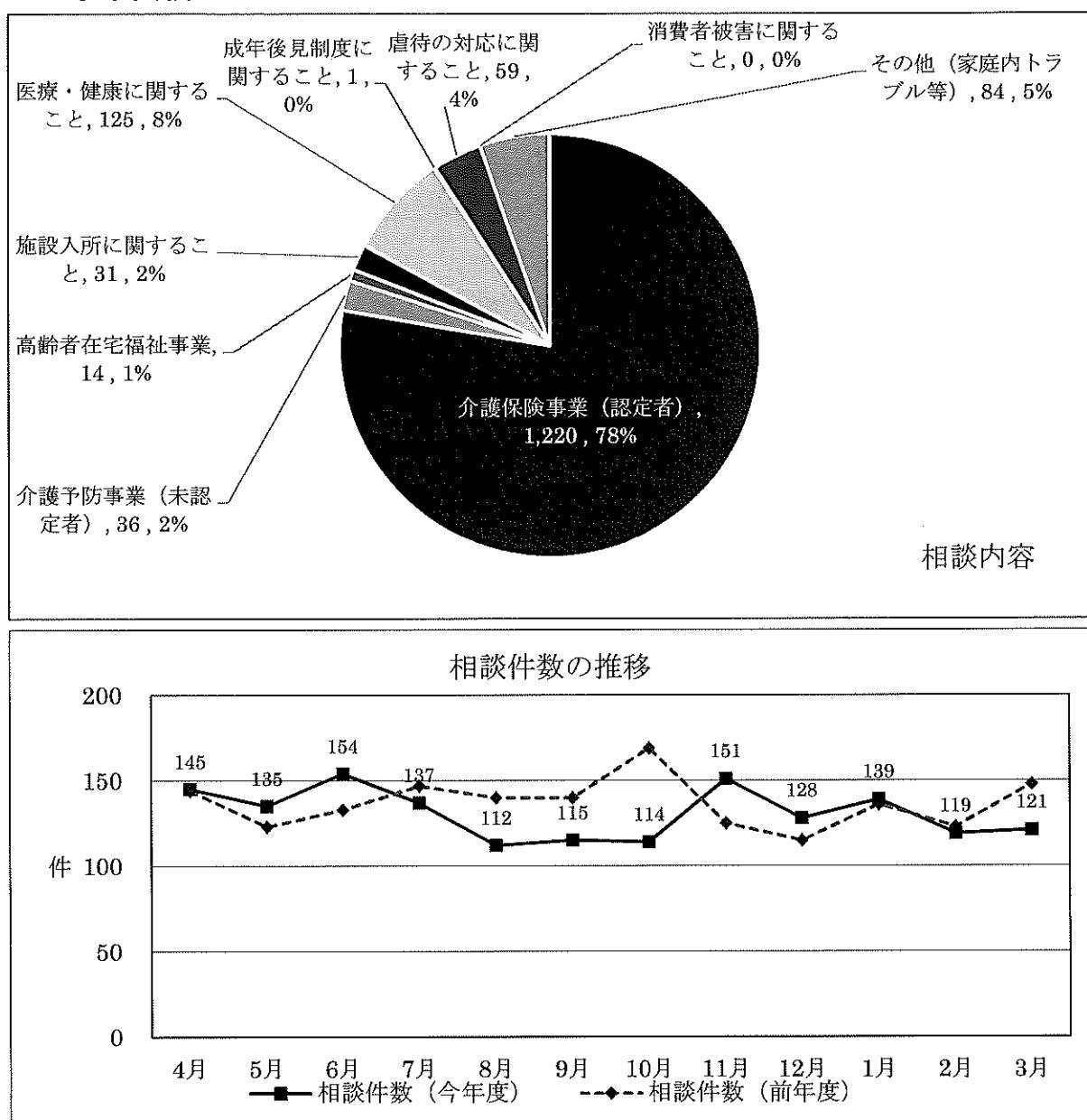
地域包括支援センターは、今後、高齢者だけではなく障がい者や子供も含めた相談機能をもつ機関となることも検討されており、ますます多様化した問題にワンストップで対応できる地域に密着した機関となっていく。

今後も地域住民とのつながりをより一層深めるため、一つ一つの活動の積み重ねを大切にしながら、職員一人ひとりがセンターの役割を意識して業務に臨んでいくことを誓い、また市内においても先駆的かつ実験的な取組を行いながら市や他の包括支援センターとの連携を深めていくことを誓い事業報告とする。

平成 29 年 3 月 31 日

大館市地域包括支援センターおおたき
管理者(主任介護支援専門員) 畠山 美香

1. 事業実績



2. 会議開催状況

(1) ネットワーク協力員関係

開催日	会議名	概要
4月 27日	地域ネットワーク協力員会議	新任協力員への委嘱状交付 事業報告・事業計画説明、総合事業に係る説明、その他意見交換等
10月 14日	地域ネットワーク協力員研修並びに地域ケア会議	研修:『暮らしやすい町づくり』のための『地域ケア会議』に 係る講義 地域ケア会議:『地域ニーズにどう応える?』
2月 22日	地域ネットワーク協力員会議	新任協力員への委嘱状交付 今年度の活動報告、協力員からの事例発表、その他意見 交換等

(2) 地域ケア個別会議

開催日	概要	年度末の状況
8月 25日	支援者(担当ケアマネ)が困難を感じているケース 個別課題解決およびネットワーク構築 担当ケアマネ・医療機関・障害者支援機関ほか参加	在宅生活の継続
11月 24日	支援が必要だと判断されるがサービスにつながっていない ケース 課題解決およびネットワーク構築 家族(障害を抱える子含む)・福祉医療機関ほか参加	高齢者)長期ショートステイ利用中 娘)在宅生活の継続
2月 2日	支援が必要だと判断されるがサービスにつながっていない、 虐待によって世帯分離の必要があるが、養護者が自立して いないケース 課題解決・ネットワーク構築・地域課題の発見 本人・福祉医療機関ほか参加	在宅生活の継続

(3) 高齢者虐待対応会議

開催日	概要	年度末の状況
5月 6日	アルコール依存にある息子から母に向けた身体的・心理的虐待への対応⇒保護による分離	高齢者)施設入所 息子)入院⇒施設予定
11月 6日	精神的に不安定である息子から母に向けた心理的虐待 対応⇒継続的支援	在宅生活の継続

開催日	概 要	年度末の状況
1月 13日	精神疾患を抱える息子からの心理的・経済的虐待 対応⇒分離の方向で進んだが継続的支援中	在宅生活の継続
3月 10日	介護負担が増大した長男妻から義母への心理的虐待 対応⇒緊急分離・家族への支援	長期ショートステイ利用中、施設入所待機

3. 会議出席状況

会議名	出席者	開催場所(内容)
大館市在宅医療・介護連携推進協議会実務者会議	畠山美香	大館市保健センター
大館市在宅医療・介護連携推進協議会 「在宅医療 普及啓発」専門部会	伊藤政利	大館市保健センターほか
大館市在宅医療・介護連携推進協議会 「専門職の勉強会・場づくり」専門部会	町井脩徳	大館市保健センターほか
グループホーム山王台運営推進会議	畠山美香	グループホーム山王台
グループホーム鮎乃里運営推進会議	町井脩徳	グループホーム鮎乃里
各地区地区民生委員会議	地区担当職員	各地区公民館
特養つくし苑入所調整会議	畠山美香	つくし苑会議室

4. 地域支援事業

(1) 一次予防通所型介護予防事業及び生きがい健康づくり支援事業

(年間計46回開催、参加延べ人数 520 名)

内容:脳トレーニング、軽体操、レクリエーション

・レクリエーション内容:①ゴルフ ②創作活動 ③ボーリング④太極拳 ⑤スカットボール

(2) 認知症予防事業 (年 1 回開催、20 名参加)

テーマ:認知症と予防について

講師:大橋成美氏(秋田県北秋田地域振興局大館福祉環境部・保健師)

(3) 家族介護者教室 (年 3 回開催)

■ 7月 (20 名参加)

テーマ:高齢者の食事

講師:堰合恵美子氏 (株明治 栄養士)

■ 11月 (20 名参加)

テーマ:在宅介護を支える～訪問看護ってなに?～

講師:北山麗子氏 (訪問看護ステーションかりん 管理者)

■ 3月(12名参加)

テーマ:福祉用具を活用しよう!～みんなにやさしい福祉用具の提案

講師:佐々木正治氏 (株タカハシ薬局 外販課)

(4) その他の活動

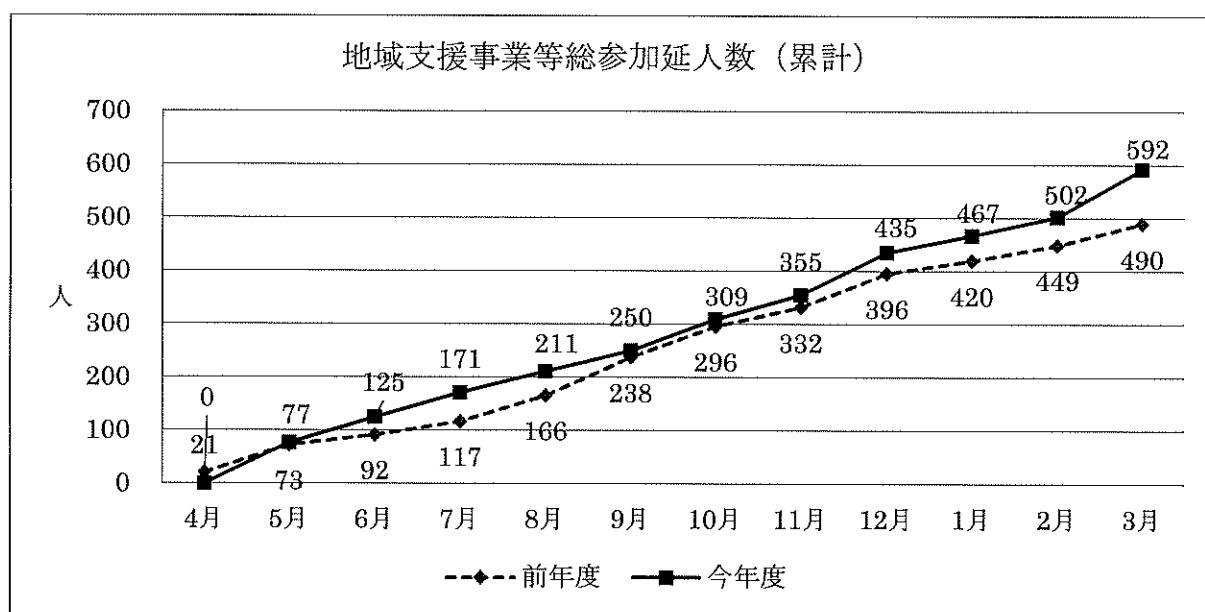
防火診断 消防署との同行訪問

在宅医療普及啓発研修会への参加協力(二井田・十二所地区)

認知症カフェ(福祉環境部主催)への参加協力

認知症キャラバンメイト養成講座講師

地域からの講師依頼への対応 など



5. 外部研修

月	研修名	場 所	参加者
7	配偶者暴力相談支援ネットワーク会議	大館市	虻川 江美子
11	コミュニティソーシャルワーカー養成研修(基礎編)	秋田市	畠山 美香
12	認知症地域推進員研修	仙台市	虻川 江美子
2	コミュニティソーシャルワーカー養成研修(応用編)	秋田市	畠山 美香
2	専門職の勉強会として参加することで意識を深める	大館市	町井 健
3	秋田県地域ケア会議機能強化支援研修	北秋田市	虻川 江美子 町井 健

6. ISO9001活動報告

【部門目標】 地縁組織との協働による介護予防活動の実施

【設定理由】

当支援センターにて開催の介護予防事業について、参加者数の減少はこの数年間の課題である。事業の普及、そしてまた、事業の活性化を図ることにより各地域の地域活動の活性化にもつながるのではないかということがから、この部門目標を設定し取り組んだ。

【活動状況】

項目	内 容
4 目標の共有・活動計画	課題と目標を再確認・活動計画作成
5~7 開催地域選定理由と既存する活動の把握	各地区の情報取集および活動表の作成 活動表は随時更新
8~12 各地区へのアプローチ	各地区の中心人物へ主に働きかけや協力依頼 各地区の活動にお邪魔しての PR
1 評価・まとめ	年間のまとめ

【まとめ】

今年度の部門目標を通じ、担当圏域地区に幅広く足を延ばし、地区の特徴や活動を知るとともに、地域との関係を深める機会となり、以下の成果を得ることができた。

- ・ 地域と顔の見える関係～地域目線・包括目線としてもハードルが下がった
- ・ 地域を把握することができた
- ・ 地域の中心人物との連携を図る土台ができた
- ・ 介護予防の普及活動が行えた
- ・ 地域包括支援センターの周知が促進された
- ・ 今後の活動に向けた土台づくりにつながった

平成 28 年度 大館市ケアハウスほうとう 事業報告

(1) 大館市ケアハウスほうとう(一般型)

平成 28 年度も共同生活に支障にならない範囲で、入居者個々の自主性を尊重し、その人らしい生活を送ることができるよう支援してきた。また、過度な干渉を避け、人格及び人権を尊重しながら、入居者それぞれの生活に支障が出ないよう配慮した。

入居者全体の高齢化が進み、入居時から要介護の方も増えている。要介護の方の割合が増す中、身体機能維持の取り組みとしては、出来るだけ介護保険を利用せず、自分らしく生活を営むことができるよう、昼食前の嚥下体操を継続し嚥下機能維持やレクレーション活動を毎月実施し、入居者からも好評を得た。平成 29 年度も活動内容を工夫、検討しながら継続して行く。

平成 28 年度の顧客満足度調査でも、前年よりは改善されたが、まだ若干「職員が忙しそう」、「職員に話しかけにくい」等の意見が寄せられた。入居者の意見にはなるべく耳を傾けるよう努めてきたが、平成 29 年度においては、更に多職種協働によるよりきめ細やかな接遇に、職員一丸となって取り組む。

行事に関しては参加者が固定してきてるので、マンネリに陥り易い行事を見直し、より個別に楽しめる内容を工夫してゆく。

(2) 特定施設入居者生活介護事業

平成 24 年度から開始した特定事業に関しては、ほぼ満床の状態が続いている。一般入居者の要介護度化が進んでおり、契約枠が空けば契約できる状況である。なかには新規入居時から特定事業利用契約で入居となった方もいた。

今後はケアハウスで最期を迎えると希望する入居者、ご家族が増加すると予想される。平成 28 年度においても看取りに関する外部研修に職員を派遣、復命研修会を通して看取りに関する職員個々の意識を高めた。

今後は看取りの意義を職員共有のものとし、段階的に体制構築への知識蓄積と環境整備を進めたい。

平成 28 年度は、家族から「食事、入浴、排せつ」の援助に代わり「余暇の充実、環境整備」の要望が多く寄せられた。体調に応じた余暇活動については、出来るだけ配慮してきたところではあるが、更に個別の要望に応えていきたい。

平成 29 年度においては、一般入居については心身機能の維持を、また、特定事業では個々の状態に応じたきめ細やかなサービス提供を目指すこととし、事業報告とする。

平成 29 年 3 月 31 日

大館市ケアハウスほうとう
施設長 渡 部 清 美

1. 部門別報告

(1) 介護部門

平成 27 年度に引き続き、平成 28 年度も「ケアプランの実施過程の見直し」を部門目標として取り組んできた。多少の課題は残ったものの（隨時必要に応じ見直していく）アセスメント実施の過程においては、実施しやすい、有益であったとの声が上がっている。

平成 27 年度の顧客満足度調査にて、施設内の環境の整備が要望として挙げられていた。平成 28 度は入居者様同士が会話を楽しめるスペースづくりや、季節に合わせた壁面の飾りつけも出来、好評だったと思われる。

平成 27 年度からの懸案である「職員の挨拶」や「話しかけやすさについて」は評価を上げる事ができた。平成 29 年度も入居者とのコミュニケーションを密に図っていく。行事や企画も好評を得ることができたが、やはり一般入居者の外出の要望が高く、平成 29 年度は外出の機会を多くしていきたい。

(2) 看護部門

平成 28 年度は入居者の健康状態の維持に努めたが、転倒による骨折の入院があった。家族への状態報告は、夜間に受診する旨の報告を行うこともあったが家族の協力を得られスムーズに対応することができた。

口腔ケアの実行については昼食前の口腔体操のみとなった。

感染症の拡大防止については館内消毒を 11 月から 3 月まで継続して行い、感染症の発生はなかった。

(3) 栄養部門

平成 28 年度は、季節感を感じて頂けるようなバイキング食や行事食の提供を心掛け、顧客満足度調査において良い評価をいただくことができた。

おやつ作りは、レクリエーションの中に取り組むことで、参加者が増え毎回好評であった。フェイスマッサージについては、定期的実施をおこなうことができなかつたが、参加者の方々からは是非継続してほしいとの意見が聞かれた。サルコペニア予防、早期発見のためのサルコペニアチェックは実施することができなかつた。平成 29 年度は年間計画を立て実施することとした。

(4) 相談部門

平成 28 年度は、より安心した生活を送れるよう、面談による生活面、健康面の把握を行うことを目標に、一般入居者に対する処遇計画作成を計画的に進めることができた。結果、顧客満足度調査では一般入居者、特定入居者、特定入居者ご家族

様より「相談員へ話しかけやすく、相談しやすい」「体調不良時の対応は安心」の面で満足度の高い評価を頂いた。

活動面では地域活動、趣味活動に参加できるよう、広報活動を行ったものの、「自分一人ではやりたい事もできない、行きたいところにも行けない」といった理由があげられ、もう一步進んだ援助が必要であることが確認できた。

平成 29 年度は入居者一人一人が生活に楽しみを感じて過ごせるよう、活動に対する取り組みを行う。

(5) 事務部門

入居者、職員からあげられた修繕要望には、応じることができた。またメンテナンス業者とも連携をとり予防措置を講じるなど、案件によっては修繕にかかる費用を削減することができた。

大館市へ要望する修繕案件については当初予算時に、また、緊急性を要する案件は補正予算に適時要望を行ない、改善ができた。

2. 事業実施状況

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
4	13	買い物ツアー	1	厨房設備点検
	22	昼食バイキング	3	総合避難訓練
	25	買い物代行	8	浄化槽保守点検
	27	おやつ作り	4	緊急連絡装置点検
			14	水質検査
			16	220号室温水器修繕
			22	浄化槽保守点検
			27	エレベーター点検
			28	厨房電気レンジ応急修繕
5	11	買い物ツアー	2	厨房電気レンジ修繕
	19	買い物代行	9	緊急連絡装置点検
	25	鶏飯弁当昼食	6	浄化槽保守点検
			10	オゾン発生装置点検
			10	211号室ドア鍵修繕交換
			11	206号室窓枠修繕
			12~14	施設窓ガラス清掃
			20	浄化槽保守点検
			24	エレベーター点検
			25	衛生害虫駆除(館内、厨房、トイレ等)
			25	看護福祉大SW実習生受入(2名)
			25~26	非常用電源設備増設工事(市)
			30~31	看護福祉大SW実習生受入(1名づつ)
6	8	買い物ツアー	1	浄化槽法定点検
	15	外食ツアー(寿司)	3	浄化槽保守点検
	22	外食ツアー(ココス)	7	緊急連絡装置点検
	23	買い物代行	8	苦情解決第三者委員報告会
			16	公用車(タント)定期点検
			17	浄化槽保守点検
			18	機械室固体蓄熱式温水発生器修繕
			23	エレベーター点検
			29	ISO内部監査(ケア)
			30	厨房機器定期保守点検

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
7	13	お楽しみ昼食会・カラオケ大会	1・7・12~20	新採用職員施設体験(1名づつ)
	14	買い物ツアー	4	健康診断(利用者・職員)
	21	買い物代行	7	参議院議員通常選挙不在者投票
			8	緊急連絡装置点検
			8	浄化槽保守点検
			9・10	食堂、事務室等エアコンフィルター清掃
			13	消防設備貯水槽ボールタップ交換修繕
			13	消防設備散水栓アングルバルブ交換修繕
			21	県社協高校生進路ガイダンス(9名)
			22	浄化槽保守点検
8	6	つくし苑・ほうとう合同夏祭り	3	緊急連絡装置点検
	10	買い物ツアー	3	電気保安協会照明器具等調査1(市)
	25	買い物代行	5	浄化槽保守点検
	26	バイキング昼食	9	成章園夏祭り
	31	おやつ作り	17・18・19	居住棟他館内床清掃・ワックス掛け
			19	浄化槽保守点検
			20	管理棟床・カーペット、タイル清掃・ワックス掛け
			23	ISO サーベイランス(PJR)
			25	自動ドア点検
			25	電気保安協会機器設備定期点検
9	7	買い物ツアー	4	大館ボランティアフェスティバル
	15	敬老会	5	112,206,208号室出窓サッシ修繕
	21	買い物代行	8	111,202,125号室出窓サッシ修繕
			9	浄化槽保守点検
			9	電気保安協会照明器具等調査2(市)
			12	緊急連絡装置点検
			12	エレベーター点検
			14	サッシガラス清掃(居室以外)
			14	浄化槽放流調整槽フロートスイッチ交換4箇所
			14	浄化槽放流調整槽ポンプフロートスイッチ交換
			14	成章園敬老会
			14	浴室温水濾過機(男女)点検清掃
			15	つくし苑敬老会
			15	106,107,202(再),210号室出窓サッシ修繕
			22	浄化槽放流調整槽ポンプ取替修繕2台
			23	厨房コールドテーブル2台交換搬入(市)
			23	浄化槽保守点検
			23・25	サッシガラス清掃(居室他)
			26	113号室出窓サッシ修繕
			27	火災報知設備点検

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
10	12	買い物ツアー	7	電気設備点検(電気保安協会)
	19	おやつ作り	7	浄化槽保守点検
	21	昼食きりたんぽ会	8	簡易専用水道法定検査
	24	入居者懇談会	13	県福祉政策課特定施設実地指導
	26	日帰り旅行	14	緊急連絡装置点検
	27	買い物代行	15	事務室、休憩室エアコン分解清掃
			17	218号室出窓サッシ修繕
			18	緊急連絡装置点検
			19	食堂等電球取替工事調査
			20	夜間想定避難訓練
			20	211号室出窓サッシ修繕
			21	浄化槽保守点検
			22	108号室洗面台混合栓修繕
			25	貯水槽清掃
			26	206号室暖房コントロールパネル交換修繕
			27	水質検査(県保健事業団)
			31	食堂等電球取替工事①
11	8	インフルエンザ予防接種	1	食堂等電球取替工事②
	9	買い物ツアー	4	浄化槽保守点検
	15	インフルエンザ予防接種	7	緊急連絡装置点検
	18	バイキング昼食	8	暖房機器定期点検
	21	外食ツアー(回転寿司)	8	インフルエンザ予防接種
	25	買い物代行	9	222号室洗面台混合栓修繕
	25	外食ツアー	9	オゾン発生装置点検
			10	食堂等電球取替工事③
			15	インフルエンザ予防接種
			18	浄化槽保守点検
12	9	森のおうち交流会	6	浴室向かい廊下暖房機修繕
	14	買い物ツアー	9	浄化槽保守点検
	21	クリスマス会・十二所保育園交流会	9	乾燥室換気扇取替修繕
	29	買い物代行	12	緊急連絡装置点検
			12	浴室温水循環器配管修理
			14	エレベーター点検
			19	浴室温水循環器互方弁取替修繕
			22	厨房害虫防除
			23	浄化槽保守点検
			24	貯湯タンク修繕

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
1	1	元旦おせち料理弁当	6	浄化槽保守点検
	4	新年の挨拶	10	浄化槽プロワーNO.2 ベルト交換
	11	買い物ツアー	10	厨房食器洗浄機ポンプ交換修繕
	26	買い物代行	10	緊急連絡装置点検
			12	食堂前誘導灯臨時点検
			13	居住棟 2F 廊下暖房機 2 台入替え工事
			18	臨時理事会・評議員会
			20	浄化槽保守点検
			28	火災報知機修繕
			30	エレベーター点検(ロープ交換)
2	1	開園記念日昼食会	3	浄化槽保守点検
	8	買い物ツアー	9	緊急連絡装置点検
	24	買い物代行	10	117 号室、118 号室床暖修繕
			15	自動ドア点検
			17	浄化槽保守点検
			16・17～26	館内床ワックス掛け
			22	エレベーター点検
			22	電気工作物定期点検(電気保安協会)
			22・23	看護福祉大SW実習生受入(2名)
			23	女子風呂シャワー水栓取替修繕
			27	厨房害虫駆除
			27	機械室ト'アローザ'交換
			28	216 号室床修繕
			28	115 号室トイレ水漏れ修繕
3	3	ひな祭り	1	健康診断(職員)
	8	買物ツアー	2	男子風呂シャワー水栓取替修繕
	22	にこにこクラブ・森のおうち交流会	3	職員休憩室エアコン分解清掃
	23	買物代行	3・8	女子職員更衣室エアコン掃除ルーバー交換
	24	バイキング	5	115、216 号室窓枠サッシ修繕
	31	医療栄養相談会	10	浄化槽保守点検
			15	火災通報装置・消火設備点検(全館)
			15～22	水廻り設備点検(全館)
			22	緊急通報装置点検
			23	エレベーター点検
			15・24・27	自動火災通報装置点検、機能追加

3. 研修実施状況

(1) 内部研修 ※法人合同研修含む

月	日	内部研修(法人含)	参加者
4	17	法人研修 ISO 部門目標報告会	法人全職員
	25	災害時の対応	全職員対象
5	13	食事介助・トロミ	全職員
6	30	緊急時の対応について	全職員
7	11、14、20(延3回)	法人研修「危険予知訓練」	相談員他
	28	災害・火災時の対応(復命研修)	全職員
	7	法人研修「法人理念の理解と実践」	介護員1名
10	24・26・28	法人研修「腰痛予防」	全職員
	25	接遇について	全職員
11	17	感染症対応について	全職員
12	16	復命研修会(外部研修3本)	全職員
	4・20	法人研修「ISO2015 伝達研修」	全職員
1	23	ICFを利用した介護計画の演習	全職員
3	16	認知症について	全職員

(2) 外部研修

月	日	外部研修(会議含)	場所	参加者
4	22	県北地区老連協総会	北秋田市	施設長 渡部 清美
	28	秋田県老人福祉連絡協議会総会	秋田市	施設長 渡部 清美
6	15	大館居宅介護事業所連絡会	大館市	生活相談員 和田 誠美 生活相談員 宮崎 恒子
	17	県北栄養士会議	北秋田市	管理栄養士 明石 淑子
7	7~8	防火管理者講習	大館市	副主任介護員 石田 浩幸
	30	看取り介護の意義	北秋田市	副主任介護員 秋元 裕子
8	31~9/1	県老施協・経営協施設長研修会 I	秋田市	施設長 渡部 清美
11	8	県北・能代山本地区施設職員研修会	大館市	介護員 佐々木 美枝子
	11~12	28年度栄養指導技術研修会	秋田市	管理栄養士 明石 淑子
	15	個人情報保護法全国説明会	大館市	主任相談員 和田 誠美
	21	県北老施連施設長研修会	大館市	補佐 木下 誠 事務主任 宮腰 徹
	22	28年度福祉施設事務職員研修	秋田市	事務主任
12	5~6	県老施協養護軽費ケアハウス研修会	秋田市	主任相談員 和田 誠美
1	24~25	県老人福祉施設職員研修 II	秋田市	副主任介護員 石田 浩幸
2	1・2	県老施協施設長研修 II	秋田市	施設長 渡部 清美
	27	災害対策研修(県主催)	北秋田市	施設長 渡部 清美

月	日	外部研修(会議含)	場所	参加者
3	7	平成28年度介護従事者講座	秋田市	副主任介護員 秋元 裕子 介護員 相原 章子
	8	県地域医療推進部会		管理栄養士 明石 淑子

4. ほうおう 利用者状況報告

集計日 平成29年3月31日現在

(1) 年齢別・性別の状況(単位:人)

年齢性別	~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100~	計
男	0	0	1	1	1	2	2	0	0	7
女	0	0	2	3	4	12	10	2	1	34
計	0	0	3	4	5	14	12	2	1	41
平均男(84) 女(87.2) 全体(86.7) 最高(103) 最低(70)										

(2) 在所期間の状況(単位:人)

期間性別	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上25年未満	25年以上	計
男	3	3	0	1	0	0	0	0	7
女	4	7	6	8	6	3	0	0	34
計	7	10	6	9	6	3	0	0	41
平均 男(2年6月)、女(6年7月) 最高 男(9年)、女(18年1月) 全体 (5年11月)									

(3) 入退所の状況(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入所者	男	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	女	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	5
退所者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	4	0	9
月末在所者数	男	5	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	41
	女	38	38	39	39	39	38	38	38	38	38	35	34	
計		43	44	46	46	46	45	45	45	45	45	42	41	

(退所者の平均在所期間:7年2ヶ月)

(4) 入所待機者の状況(単位:人)

		大館市内			他市町村・県外			合計		
平成28年3月末		14(内夫婦3組)			9(内夫婦3組)			23(内夫婦6組)		
平成29年3月末		7(内夫婦2組)			8(内夫婦3組)			15(内夫婦5組)		
増 減		-7			-1			-8		

(5) 介護度別の状況(単位:人)

要介護度	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
平成28年3月末	2	5	5	10	4	3	3	32
平成29年3月末	4	4	7	11	4	2	0	32
増 減	2	-1	2	1	0	-1	-3	/

(6) 特定入居者介護度別の状況(単位:人)

要介護度	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
4月	0	0	2	8	4	1	4	19
5月	0	0	2	8	4	1	4	19
6月	0	0	3	9	4	1	3	20
7月	0	1	3	9	4	1	2	20
8月	0	0	4	8	5	1	2	20
9月	0	0	4	8	6	0	1	19
10月	0	0	3	9	5	0	2	19
11月	0	0	3	9	5	0	2	19
12月	0	0	4	9	5	0	2	20
1月	0	0	4	10	5	0	1	20
2月	0	0	1	9	5	1	0	19
3月	0	0	4	9	4	2	0	19
計	0	1	40	105	56	8	23	233
割合	0.0%	0.4%	17.2%	45.1%	24.0%	3.4%	9.9%	/

5. ISO9001 活動報告

【部門目標①】 ケアプランの実施過程全体を見直す
～利用者のADLに合わせた個別の援助の実施を目指して～

【設定理由】

特定施設入居者介護を取ってから3年が経過した。現在、要介護3～5の利用者が全体の20%、要介護者となると全体の62%である。
利用者のADLに差が出てきたことから、行事、レクも利用者全員に合ったものを提供するには対応が難しくなっている。
全員が同じニーズ、状態ではないことを感じ、一人ひとりにあった援助が提供できなか考えていきたいという事からこの目標に取り組むことにした。

【活動状況】(H27年度から継続しての取り組み)

当初設定した目標が大き過ぎ評価しにくい状態であった為、再度目標の設定をし直し「ケアプランの実施過程全体を見直す」という目標にした。

月	項目	内 容
H27・12	目標とゴール設定の変更	目標が大き過ぎる事、評価しにくいゴール設定である事が話し合われ変更した。 目標「ケアプランの実施過程全体を見直す」 ゴール「フロー ケアハウス ケアプラン実施過程(立案～評価)を修正し、流れに添ってPDCAを回す」
1 2 3 H28・4	対策の実施	・フローの修正。 ・アセスメント表の修正。 ・サービス担当者会議までの流れの見直し。
5 6 7 8	効果の確認	「フローの運用と不具合の修正」 ・ケアプラン原案の修正は、各部署への回覧だけではなく、話し合いを持つ。 ・更新された援助内容の周知方法を決めた。
9	評価	「評価の目安」 ・ケアプラン実施過程(フロー)の比較 ・フローで定められた期間通り実施できたか ・実施してみての職員の感想

月	項目	内 容
10	歯止め	「残された課題」 ・アセスメントシートの見直し(ケアチェックに偏っているため) ・カンファレンス時のアセスメント表の活用 ・サービス担当者会議の連絡方法を明確にする

【まとめ】

今までのケアプラン作成過程は、サービス計画作成担当が大半の部分を一人で担っていた。フローを見直し、アセスメントや各過程の流れの中に多職種が関わる事になり、それぞれの視点や意見を反映させることが出来るようになった。そのため、サービス担当者会議の場で、ご本人・ご家族に対しチームとして共通認識された意見を伝える事が出来るようになった。また、職員からはより深く利用者自身を知る事ができ、気づきがプランに反映されるようになったとの感想が聞かれた。

今回の取り組みはケアプランの作成過程(フロー)の見直しであり、フローに定められた期間に合わせてPDCAをまわすことに取組んだが、アセスメントのあり方、カンファレンスのあり方など、残された課題もある。今後も残された課題に取組んで行きたい。

【部門目標②】 感染予防に関する啓発活動を行なう

【設定理由】

感染症対策として「施設内消毒」「職員・面会者のマスク着用」など実施しているが、入居者一人ひとりの感染症対策は、本人任せになっている。

入居者の健康管理と施設の衛生管理について取組んでいく。

【活動状況】

目標と、設定理由を検討したところである。H29年度も重点課題として取組んでいく。

平成 28 年度 大館市立老人福祉センター 事業報告

平成 28 年度は、6月に施設を利用されている方がレジオネラ菌による肺炎で入院したことから、男女浴室の清掃・消毒・検査のため19日間休業したほか、水道ポンプ増設のため2月末に3日間休業し、開館日数は 322 日であった。

平成27年度とほぼ同日数の休業があったが、来館者数は約 38,000 人で前年比 2,200 人増となり、通年でもほとんどの月で 3,000 人を上回った。

年間を通じて天候が大きく荒れた日が少なくかったことや大きなイベントが複数開催されたことが増員に繋がった要因の一つと分析している。

しかし、温度管理や浴室内の清掃に関する苦情が多数寄せられ、入浴環境についてのニーズの多さを強く感じるとともに、改善の対応の迅速性が求められた一年であった。

平成 29 年 3 月 31 日

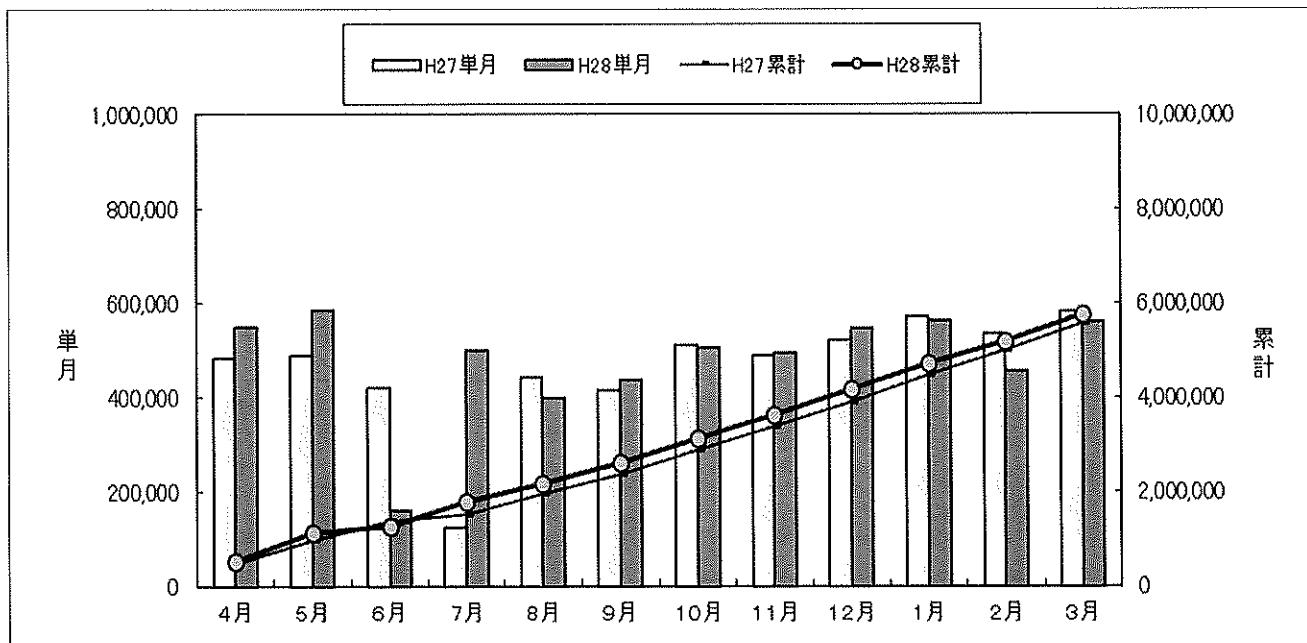
大館市立老人福祉センター
所長 花田 繁盛

1. 月別・利用区分別利用実績表

H28		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年	前差	
入浴	老人	3,277	3,138	1,056	2,799	2,428	2,658	2,887	3,029	3,042	3,172	2,687	3,093	33,266	30,932	2,334	
	一般	230	288	90	182	156	192	225	231	230	255	221	243	2,543	2,179	364	
	子供	17	10	3	11	16	12	9	17	32	26	22	27	202	204	-2	
	計	3,524	3,436	1,149	2,992	2,600	2,862	3,121	3,277	3,304	3,453	2,930	3,363	36,011	33,315	2,696	
ひる	個室	老人	159	162	65	179	55	112	112	131	124	194	108	219	1,620	2,075	-455
		一般	2	4	1	5	0	3	9	6	8	11	6	11	66	101	-35
		子供	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5	6	-1
		計	162	168	66	184	55	115	121	139	132	205	114	230	1,691	2,182	-491
よる	大広間	老人	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	73	-64
		一般	2	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	6	0	6
		子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	11	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	15	73	-58
よる	個室	老人	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	10	12	0	12
		一般	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	0	4
		子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

H28		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年	前差
大 広 間	計	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	0	10	16	0	16
	老人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身障等無料		61	58	46	53	68	216	64	92	71	66	71	70	936	838	98
合計		3,758	3,662	1,261	3,229	2,723	3,197	3,308	3,508	3,511	3,724	3,115	3,673	38,669	36,408	2,261
回数券・老人		1,941	1,838	630	1,684	1,550	1,679	1,755	1,788	1,865	1,898	1,681	1,979	20,288	17,883	2,405
回数券・一般		63	57	15	24	20	35	53	73	63	75	92	121	691	264	427
回数券 1500		13	16	5	11	10	10	12	9	17	13	16	13	145	154	-9
回数券 3000		74	82	16	73	65	65	75	66	82	75	64	79	816	724	92
回数券 2300		6	6	1	2	3	2	6	7	5	8	9	13	68	28	40

2. 売上高、単月・累計(前年比較)

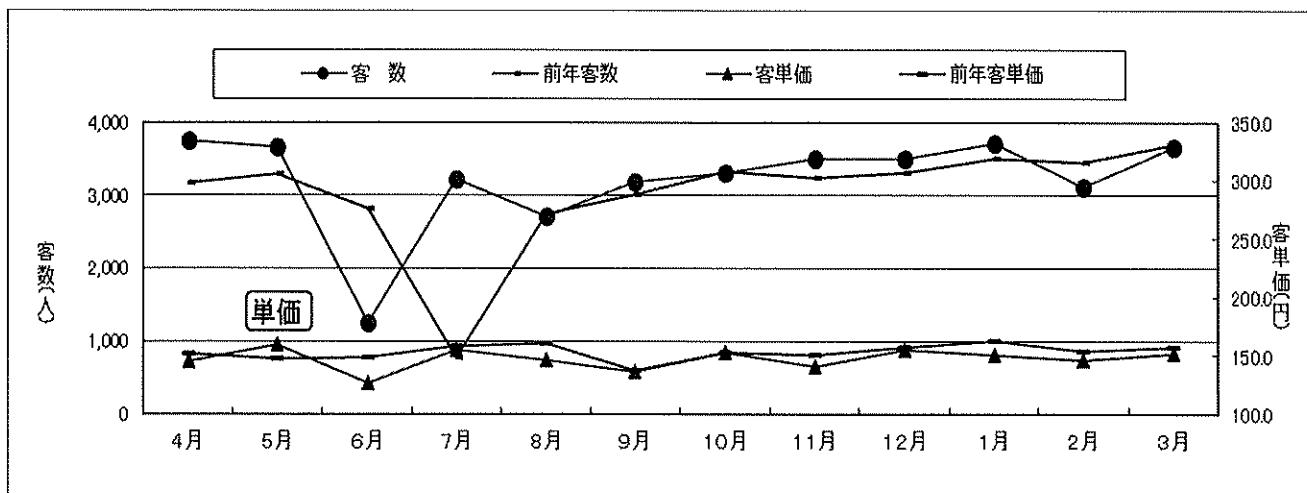


単位:円

	売上高	前年売上高	前年比	累計	前年累計	累計前年比
4月	548,370	483,140	113.5%	548,370	483,140	113.5%
5月	584,430	488,710	119.6%	1,132,800	971,850	116.6%
6月	159,340	419,930	37.9%	1,292,140	1,391,780	92.8%
7月	501,320	124,600	402.3%	1,793,460	1,516,380	118.3%
8月	398,460	441,820	90.2%	2,191,920	1,958,200	111.9%

	売上高	前年売上高	前年比	累計	前年累計	累計前年比
9月	435,820	415,990	104.8%	2,627,740	2,374,190	110.7%
10月	506,230	509,620	99.3%	3,133,970	2,883,810	108.7%
11月	495,200	490,360	101.0%	3,629,170	3,374,170	107.6%
12月	545,720	521,000	104.7%	4,174,890	3,895,170	107.2%
1月	562,480	571,500	98.4%	4,737,370	4,466,670	106.1%
2月	455,530	534,750	85.2%	5,192,900	5,001,420	103.8%
3月	560,270	583,350	96.0%	5,753,170	5,584,770	103.0%

3. 利用者数、客単価(前年比較)



月	客 数	前 年 客 数		客 单 価	前 年 客 单 価		一 日 当 営 業 数	前 年 営 業 日 数	備 考
		客 数	前 年 比		客 单 価	前 年 比			
4月	3,758	3,174	118.4%	145.9	152.2	95.9%	134.2	28	28
5月	3,662	3,300	111.0%	159.6	148.1	107.8%	126.3	29	29
6月	1,261	2,826	44.6%	126.4	148.6	85.1%	114.6	11	26 6/3~21 浴室清掃・消毒・検査のため休館
7月	3,229	784	411.9%	155.3	158.9	97.7%	100.1	29	9
8月	2,723	2,753	98.9%	146.3	160.5	91.2%	93.9	29	29
9月	3,197	3,015	106.0%	136.3	138.0	98.8%	114.2	28	28 9/19 無料日
10月	3,308	3,336	99.2%	153.0	152.8	100.1%	114.1	29	29
11月	3,508	3,249	108.0%	141.2	150.9	93.6%	125.3	28	28
12月	3,511	3,314	105.9%	155.4	157.2	98.9%	121.1	29	29 12/31、1/1 短縮営業
1月	3,724	3,504	106.3%	151.0	163.1	92.6%	128.4	29	29
2月	3,115	3,456	90.1%	146.2	154.7	94.5%	124.6	25	27 2/27~3/1 水道ポンプ工事
3月	3,673	3,697	99.4%	152.5	157.8	96.6%	131.2	28	29
計	38,669	36,408	106.2%	148.8	153.4	97.0%	120.09	322	320

平成 28 年度 大館市ふれあいセンター やまびこ 事業報告

ふれあいセンター やまびこは、保育事業、放課後児童クラブの事業をはじめ、幼児から高齢者までの各年代層が気持ちよく利用できる生きがいづくりや健康づくりの場として、関係各施設や地域と連携を図りながら、利用者の側に立ったサービスに努めてきた。

今年度の利用者数は、23,486 人と昨年度より 3,878 人減少した。屋内の施設では、放課後児童クラブ「にこにこクラブ」が対象児童の拡大により 540 人増加したものの、保育施設「森のおうち」の園児数が減少したことにより 1,163 人の減となったことが大きい。

さらに、屋外の子ども広場の利用についても、28 年度は前年に引き続き、1,654 人の減少となった。

今後は施設設備の点検などの安全を図りながら、交流の場としてのふれあいセンターの機能を一層発揮し、地域や関係各機関との連携を強め、時代の変化に対応しながら、利用者及び市民の要望に応えられるよう、職員一丸となって利用促進や事業展開に努めることを誓い、事業報告とする。

《利用状況》

- (1) 子育て中の親子や、孫を連れての一般の来館者については、例年並みの利用者数となったが、子ども広場等屋外の利用は昨年よりも減少している。
- (2) 幼児から高齢者までの多世代交流事業は、「成章保育ルーム森のおうち」を開園したことにより一層活発になり、成章小学校、十二所保育園や老人福祉施設への働きかけを行い、交流事業を実施してきた。今後は、利用されている幼稚園、保育所等との交流もしていきたい。生きがい・健康づくりの場として実施しているフラワーアレンジメント教室、屋外のグランドゴルフも好評を得ており、引き続き、活動の場を提供していきたい。
- (3) 「森のおうち」、「にこにこクラブ」の行事は、入所者はじめ地域の方々の参加も多く、今後も広報活動も含め、一層充実した活動内容にしていきたい。
- (4) 「にこにこクラブ」については、制度改正により昨年度から対象者を小学校 6 年生までに拡大するとともに、利用時間をこれまでより 30 分延長し、保護者が利用しやすくしたことにより、登録児童数が若干増加した。今後は、活動のメニュー やプログラムを多彩にするなど工夫を凝らし、児童が楽しく過ごせる環境になるよう努め、利用者の増加を図る。

平成 29 年 3 月 31 日

大館市ふれあいセンター やまびこ
管理者 芳賀 利彦

1. 平成 28 年度 ふれあいセンター利用状況調べ

平成 29 年 3 月 31 日現在(月の下段は前年度実績)

月	森のおうち 成章保育ルーム	にこにこクラブ	幼児	小学生	一般・中学生含む	森公園	子ども広場・ふれ	見学	計	主な利用団体及び事業
4	251	593	209	75	336	254		8	1,726	フラワーアレンジメント・十二所グランドゴルフ・宮の杜こども園
	353	605	456	56	390	485		8	2,353	
5	269	648	346	94	352	1,269		10	2,988	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント・城南保育園分園・宮の杜こども園・長木保育所・尾去沢小学校・東館保育園・南ヶ丘子ども園・有浦保育園
	345	567	522	40	476	1,366		4	3,320	
6	326	798	166	68	162	787		20	2,327	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント・比内支援学校・城南保育園子育て相談室・たしろ保育園・綾子保育園・早口小・釧路内保育園
	425	695	308	25	202	817		2	2,474	
7	289	738	283	62	343	562		2	2,279	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント・草刈りボランティア・尾去沢保育園・夕涼み会保護者等
	400	679	356	56	188	937		0	2,616	
8	250	633	210	79	194	481		20	1,867	十二所グランドゴルフ・ホテヤ幼稚園
	350	558	371	63	254	821		2	2,419	
9	275	649	352	171	649	804		14	2,914	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント・第29回ボランティアフェスティバル・天下町児童館・松峰児童館・城南保育園
	365	519	1,006	123	377	1,138		5	3,533	
10	259	652	221	44	346	870		16	2,408	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント・東館小・矢立保育所・山館児童館・川口小・たかのす中央保育園・乳児保育園・城南保育園・十二所保育園・比内支援学校・扇田保育園子育て支援・上川沿小
	399	606	303	35	319	1,206		0	2,868	
11	288	651	166	68	176	147		0	1,496	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント
	381	527	195	60	297	42		0	1,502	
12	283	596	111	75	211	45		0	1,321	フラワーアレンジメント・森のおうちお楽しみ会保護者来賓等・防犯訓練(大館警察署)
	405	720	175	28	204	15		0	1,547	

月	成童保育ルーム 森のおうち	にこにこクラブ	幼児	小学生	一般・中学生含む	森公園 子ども広場・ふれ	見学	計	主な利用団体及び事業
1	277	523	160	46	180	2	0	1,188	フラーーアレンジメント・にこにこクラブ父兄・森のおうち保護者参観
	360	629	217	28	224	0	0	1,458	
2	315	609	121	82	143	0	0	1,270	フラーーアレンジメント
	402	553	186	47	213	20	0	1,421	
3	357	665	231	102	282	65	0	1,702	森のおうち祖父母交流会
	417	557	322	93	353	93	18	1,853	
計	3,439	7,755	2,576	966	3,374	5,286	90	23,486	
昨年	4,602	7,215	4,417	654	3,497	6,940	39	27,364	
前年比	△1,163	540	△1,841	312	△123	△1,654	51	△3,878	

2. 平成 28 年度 にこにこクラブ 事業報告

月	行 事 内 容	参 加 人 数
4	7 (月) にこにこクラブ開講式	38 人、保護者等 17 人
	13 (水) 新入生を迎える会	33 人
	22 (金) 避難訓練	18 人 森 13 人
5	16 (月) ジャガイモ植え	20 人
	27 (水) 野外活動・バス遠足 (北欧の杜)	39 人、保護者等 7 人
6	2 (木) さつまいも植え	36 人
	3 (水) おやつ作り (ホットケーキ)	34 人
	22 (水) 誕生日会 (4・5・6月生まれの人)	34 人
	20 (月) ~ 30 (木) 七夕の飾り作り	
7	7 (木) 七夕集会	36 人
	17 (金) 夏涼み会	40 人、保護者等 62 人
	25 (月) ジャガイモ掘り	32 人
	28 (木) カレーライス クッキング	43 人、保護者 5 人

月	行 事 内 容	参加人数
8	2 (火) 泥団子つくりに挑戦しよう会	37人
	6 (土) 事業団〔夏まつり〕	14人
	9 (火) 流しそうめん大会	40人、保護者1人
	18 (木) 総合避難訓練	30人、森13人
	20 (木) スイカ割り	34人、森14人
9	7 (水) おやつ作り	38人
	30 (水) 誕生日会 (7・8・9月生まれの人)	38人
10	3 (月) さつま芋掘り	25人
	26 (水) 焼いも会	33人
	31 (月) ハロウィンパーティー (ケアハウス、つくし苑訪問)	37人
11	9 (水) おやつ作り	37人
	25 (水) 誕生日会 (10・11・12月生まれ)	38人
12	12 (月) 防犯訓練 (大館警察署)	19人、森13人
	17 (土) クリスマス会	30人
1	4 (水) 平成28年度にこクラブ会員募集開始 (~2月6日まで)	28人、保護者等1人
	6 (金) 作って食べよう会(だまっこ鍋)	28人
	10 (火) 昔遊びの会	
2	3 (金) 節分・大滝町内会どんど祭り参加	30人
	8 (月) 避難訓練 (暴風雪・着衣訓練)	34人、森15人
	22 (木) 誕生日会 (1・2・3月生まれ)	31人
3	3 (金) ひなまつり会	28人
	8 (水) お別れ会	35人
	17 (金) にこにこクラブ閉講式	38人、保護者等6人
	22 (水) 肩たたき会 (ケアハウス訪問、森のおうちと一緒に)	25人、森16人

平成28年度 年間事業報告(成章保育ルーム森のおうち)

月	日(曜)	行 事 名	参 加 者	参 加 人 数
4	5(火)	入園式	入園児15・保護者26・来賓6	47
	22(金)	やまびこ避難訓練	園児13・にこにこクラブ18	31
5	26(木)	さつま芋植え (世代間交流事業) 3・4・5歳児	森のおうち・市内各保育園・各町内寿壮会 (老人クラブ)	15
6	4(土)	運動会	全園児・保護者その他地域の方	62
	14(火)	交通安全教室	園児14・職員・大館警察署	21
	17(金)	歯科検診	全園児	15
	18(土)	成章園地域交流会	園児 (3・4・5歳児) 9・職員	12

月	日(曜)	行 事 名	参 加 者	参 加 人 数
7	23(木)	サッカー教室（十二所保育園 合同）	園児(4・5歳児) 7・職員	9
	24(金)	ピクニック	園児(3・4・5歳児) 12・職員	15
	28(火)	ケアハウス訪問	園児 14	14
8	12(火)	サッカー教室（十二所保育園 合同）	園児(4・5歳児) 7・職員	9
	15(金)	夕涼み会	全園児保護者・にこにこクラブ・ケアハ ウスその他地域の方	117
9	6(土)	事業団夏祭り・年長児お泊ま り保育	園児(4・5歳児) 4・森OB4・職員	10
	10(水)	花輪市民プール	園児(3・4・5歳児) 10・職員	12
	18(木)	総合避難訓練	園児 13・にこにこクラブ 30・来館者	56
	23(火)	スイカ割り	園児 14・にこにこクラブ	48
10	4(土)	第29回ボランティアフェス ティバルお遊戯	3歳児・4歳児・5歳児・職員	14
	10(土)	健康診断	5歳児除く園児	12
	16(金)	つくし苑敬老会お遊戯	園児 12	12
	27(火)	要請訪問（北教育事務所）	全園児	12
	28(水)	さつま芋掘り（世代間交流事 業）2・3・4・5歳児	森のおうち・市内各保育園・各町内寿壯 会（老人クラブ）	14
	30(金)	成章小学校ふれあい交流会	5歳児 2・十二所保育園・成章小1年 生・引率職員	37
11	6(木)	親子遠足	全園児・保護者・職員	34
	7(水)	ディサービス大滝訪問	園児 14	14
	28(金)	サッカー教室（十二所保育園 合同）	園児(4・5歳児) 6・職員	8
	31(月)	ハロウィンパーティー	園児 13・にこにこクラブ	50
12	4(金)	成章小体験入学	5歳児 2・職員	3
	18(金)	親子虫歯予防教室	園児 13・保護者 12	25
1	3(土)	お楽しみ会	園児 15・保護者・祖父母・来賓	65
	6(火)	成章園訪問	全園児・成章園入居者の方	58
	9(金)	ケアハウス訪問	全園児・ケアハウス入居者の方	45
	12(月)	防犯訓練（大館警察署）	全園児・にこにこクラブ会員	32
	15(木)	つくし苑訪問	全園児・つくし苑入居者の方	63
	21(火)	クリスマス会	全園児	15
2	11(水)	OB会（1年生と遊ぼう）	全園児・OB 1年生	21
	26(木)	保育参観	全園児・保護者	31
3	4(木)	節分	全園児	15
	18(木)	H28年度記念写真撮影	全園児・職員	20
	18(土)	H29年度入所児童健康診断	H29年度入所児童 15	15
	3(金)	ひな祭り会	全園児・祖父母	44
	10(金)	お別れ遠足	園児	16

月	日(曜)	行 事 名	参 加 者	参加 人數
	18(土)	卒園式	3. 4. 5歳児保護者・来賓	38
	22(水)	ケアハウス訪問	全園児・にこにこクラブ会員・ケアハウス入居者の方	41

※ 毎月の行事 <交通指導・避難訓練・身体計測> お誕生会(誕生日の子がいる月のみ)

※ 内科検診 年2回、歯科検診 年1回、虫歯予防教室 年1回

■ 保護者参加行事

平成 28 年度 大館市へき地保育所 事業報告

へき地保育所は、大館市の地域の幼児教育施設として、住民から信頼され、地域に根ざした保育所としての役割を果たしてしており、これまで、保護者や地域の皆様のご協力をいただきながら、保育事業を行ってきた。

平成22年度から5年間の指定管理期間が終了し、平成27年度から新たに5年間の指定管理を受託することになった。平成28年度も、社会やご利用者のニーズに対応できる、質の高い保育を目指してきた。特に発達上課題が見られる幼児に対する配慮や、2才児保育への配慮などを重点課題として、保育士の確保に努めた他に保育補助員を配置しながら保育を進めてきた。

また、インターンシップの受け入れや地域の介護保険事業所への訪問、地域の行事への参加など地域とのふれあいの機会を大切にしてきた。

そして、3月の卒園式には5才児合計80名が卒園し、小学校入学に向けて夢と希望をもって卒立っていった。

最後に、今後も質の高い保育を提供できるよう、保育環境の整備、職員の研修の充実を図りながら保育業務を推進してまいることをお誓いし、事業報告とする。

平成 29 年 3 月 31 日

大館市へき地保育所
管理者 芳賀利彦

1. 平成 28 年度保育所児童数

平成 29 年 3 月 31 日現在

単位:名

No.	保育所名	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
1	二井田保育所	3	8	13	16	40
2	真中保育所	1	3	5	8	17
3	下川沿保育所	3	9	11	13	36
4	沼館保育所	5	4	8	9	26
5	花岡保育所	6	5	10	14	35
6	矢立保育所	4	3	6	4	17
7	長木保育所	8	16	26	16	66
	合計	30	48	79	80	237

2. 平成 29 年度保育所児童数

平成 29 年 4 月 1 日現在

単位：名

No.	保育所名	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	増減
1	二井田保育所	3	5	9	13	30	▲ 10
2	真中保育所	2	2	3	5	12	▲ 5
3	下川沿保育所	7	4	9	12	32	▲ 4
4	沼館保育所	2	6	4	8	20	▲ 6
5	花岡保育所	3	7	5	10	25	▲ 10
6	矢立保育所	1	5	3	6	15	▲ 2
7	長木保育所	11	8	16	26	61	▲ 5
合 計		29	37	49	80	195	
増減		▲ 1	▲ 11	▲ 30	0	▲ 42	

平成 28 年度 年間事業報告(二井田保育所)

月	日	曜	行事名	参加人数・内容等
4	5	火	入園式・保護者会総会	児童 38 名 保護者 50 名 来賓 2 名 児童数 38 名
	12	火	新入児歓迎会	児童 37 名 新入児を歓迎して手作りプレゼント
	18	月	鮭の稚魚放流	年長・年中児童 29 名
	25	月	子どもの日祝会	児童 40 名 おやつに柏餅を食べる
5	10	火	交通安全教室(大館市交通指導隊)	児童 37 名 大館市交通指導隊 4 名 市担当者 1 名
	22	日	保護者会主催保護者早朝草取り奉仕	保護者 30 名・保育士 2 名
	25	水	フッ化物洗口巡回指導	年長児童 16 名・保健師 2 名
	26	木	世代間交流事業さつま芋苗植え	年長児 16 名・南中生 1 名・保育士 2 名・エリアバス
	26	木	南中学生職場体験	南中生 1 名
	27	金	保育参観	児童 41 名・保護者 34 名
	30	月	足型とり	児童 39 名
	30	月	南小学校保育所連絡協議会	教師、保育士間で交流の年間計画確認
6	5	日	地区運動会	児童 37 名・保護者 70 名(中台グラウンド)

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	22	水	歯科検診	児童 53名・高橋歯科医師・衛生士 3名
	23	木	南中学生 ふれあい交流学習	南中学 2年生 22名・教諭 3名
	25	土	保育所運動会	児童 38名・保護者祖父母 95名・来賓 2名 二井田公民館 麓西分館
7	7	木	七夕集会	児童 36名
	11	月	個人面談 11日～22日	保護者 33名
	14	木	プール開き	児童 39名
	22	金	交流保育・真中保育所とブルーベリー摘み	年長児 16名・保育士 2名・本宮ブルーベリー園・事業団バス
	25	月	インターナシップ 25日～27日	国際情報学院高校生 2名
8	2	火	南小学校教諭保育体験 2日～3日	南小学校教諭 6名
	9	火	交流保育・真中保育所を訪問	年長児 15名・保育士 2名・事業団バス
9	1	木	歯みがき指導訪問	児童 40名・南小・中学生 19名・教諭 4名・衛生士 1名
	4	日	保護者会主催早朝草取り	保護者 30名・保育士 2名
	9	金	親子レクレーション	児童 38名・保護者 35名・職員 4名
	10	土	二井田地区敬老会参加	年長児 15名・保護者 20名・保育士 2名
	16	金	つくし苑敬老会参加	年長児 16名・保育士 2名
	28	水	北教育事務所 要請訪問	児童 38名・指導員 4人・公立保育所主任 1名
	30	金	健康診断	児童 24名
	30	金	世代間交流事業さつま芋ほり	年長児 16名・保育士 2名・エリアバス
10	4	火	南小学校 1,2 年とふれあい交流会	年長児 16名・保育士 2名・手作りおもちゃ・事業団バス
	6	木	歩き遠足・中台グラウンド、周辺	児童 40名
	13	木	南小学校 学習発表会予行参観	年長児 16名・保育士 2名
	21	金	南小学校 就学時健診	年長児 15名
	24	月	祖父母交流会・焼き芋会	児童 40名・祖父母 28名
	27	木	フッ化物洗口巡回指導	年長児 16名・保健師 2名
11	2	日	親子虫歯予防指導	児童 37名・保護者 30名・たかはし歯科医師 1名・衛生士 4名
	6	日	二井田公民館文化祭	児童 40名・保護者 60名
	11	金	祖父母交流会・おにぎり会食	児童 38名・祖父母 30名

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
12	14	月	総合防犯訓練	児童 37名・大館警察署員 2名・南駐在署員 1名
	15	火	七五三お祝い	児童 37名
	16	水	りんごがり・交流保育・真中保育所を訪問	年長児 16名・保育士 2名・事業団バス
	18	金	総合防災避難消防訓練	児童 37名・大館消防署比内分署消防士 3名
	28	土	だまっこ会食(保護者会主催)	児童 32名・保護者 45名
	10	土	遊戯会	児童 39名・保護者 90名・お客様 2名
	19	火	クリスマス会	児童37名・少年自然の家から2名
	18	水	真中保育所交流(二井田保育所にて)	児童 15名・真中保育所から年長児・雪遊び
	27	金	保育指導(子ども課)	児童 33名・指導員 3名
	30	月	節分集会	児童 38名・少年自然の家から 2名
	31	火	南小学校体験入学	年長児 16名
2	9	木	保育参観	児童 40名・保護者 35名
	16	木	29年度健康診断・新入児面接・説明会	健康診断対象児30名・新入児保護者 6名
	19	金	手形足型とり	児童 40名
3	3	金	ひな祭り会・祖父母地域交流	児童 40名・祖父母 36名・地域老人会 8名・公民館 1名
	9	木	南小学校連絡協議会、引き継ぎ	教師、保育士間で交流について、次年度計画
	10	金	年長児親子お楽しみ会	年長児親子 16組・会食、ゲームなど
	22	水	卒園式予行練習	児童 40名・祖父母 10名
	25	土	卒園式	児童38名・保護者 33名

平成 28 年度 年間事業報告(真中保育所)

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	火	入園式	児童16名 保護者 来賓3名
	15	金	新入児歓迎会	児童 16 名 遊戯披露 手作りプレゼント
5	9	月	子どもの日祝会	児童 14 名 会食
	20	金	保育参観日	児童 14 名 保護者 14 名 参観 ふれあい遊び 制作
	26	木	南中生職場体験	児童 13 名 南中生 1 名 教諭 1 名訪問
	27	金	祖父母交流会	児童 13 名 祖父母 14 名公民館 2 名 さつま芋の苗植え・ ひまわりの種植え・ふれあい遊び・会食

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	30	月	南小学校区連絡協議会	真中・二井田保育士・南小教諭 情報交換 業参観 行事確認 1年生授
6	1	水	歯科検診	児童 16名 戸田歯科医師による
	12	日	真中地区運動会	児童 14名 保護者 祖父母 地域の方々
	18	土	運動会	児童 16名 来賓 2名 保護者 祖父母
7	2	土	真中地区シルバー人材センター会員作業奉仕	会員 15名 草刈り・草取りの早朝奉仕
	4	月	個人面談(4日～8日)	一人 15分位で情報交換
	7	木	七夕集会	児童 15名
	13	水	プール開き	児童 14名
8	1	月	1～2日南小職員施設見学(プール見学)	児童 12名 教諭 3名 2日目児童 14名教諭 3名
	2	火	食育教室(公民館事業)	児童 14名 保健センター長谷川栄養士
	5	水	プール参観日・講話	児童 13名 保護者 12名 講話山本多鶴子氏
	22	月	いきいき学級との交流会(公民館事業)	児童 15名 会員 12名 音楽療法で交流
9	2	金	親子バス遠足(大館能代空港)	児童 17名 保護者 17名 (鷹巣ドリームワールド)
	7	水	ひまわりの花切り	児童 15名 公民館2名
	10	土	敬老会でお遊戯披露	児童 17名 高齢者の方々にお遊戯披露
10	4	火	南小1・2年生とふれあい交流会	年長児 8名 二井田保育所年長児 南小1・2年生
	7	金	祖父母交流会(さつま芋・野菜の収穫)	児童 16名 祖父母 13名 ふれあい遊び 会食
	13	木	学習発表会予行参観(南小学校を訪問)	児童 16名 二井田保年長児 15名と一緒に参観
	18		親子歯科講習会(歯磨き指導・フッ素洗口についてのお話し)(午後)	児童 16名 保護者 14名 大館保健所菅原歯科衛生士による歯磨き指導 大館保健センター職員
	21		南中生紙芝居読み聞かせ(虫歯予防)	児童 16名 南中生 8名 紙芝居持参 15:45頃
	21	火	歩き遠足	児童 15名 高戸谷神社へ
	31	月	就学時健診(南小学校)	年長児 6名 保護者同伴
			ハロウィン仮装行列	児童 17名 公民館→お寺→郵便局→富樫さん宅

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
11	11	金	七五三祝い会	児童16名
	13	日	真中地区文化祭出演	児童 17名 保護者同伴 地域の方々
	15	火	総合避難訓練(消防署職員来所)	児童 15名 地震→火災 煙体験 DVD 視聴
	18	金	防犯訓練	児童 15名 警察官 2名 防犯についてのお話し
	30	水	交通安全教室	児童 17名 警察官 2名 交通安全のお話し
12	10	土	お遊戯会	児童17名 保護者・祖父母多数 来賓 3名
	14	水	いきいき学級・地域の方にお遊戯披露	児童 17名 生き生き学級会員、地域の方 30名
	21	水	クリスマス会	児童 17名 藤田先生 マジックショー
1	16	月	お寺さん見学	児童 17名 掛軸を見てお話を聞く
	25	水	かるた会	児童 16名 クラスごとに競い合う
	27	金	保育参観	児童 16名 保護者 17名 参観 サンドイッチ作り
	30	月	節分集会	児童 16名 少年自然の家職員 2名 豆まき・お話し・記念撮影
	31	火	南小体験入学	年長児 7名 保護者 5名同伴 校内探険 クイズ 給食体験
2	9	木	いきいき学級と交流会	児童 12名 公民館にて 生き生き学級会員 10名と交流 マジックショー くじ引き 公民館 1名
	16	木	健康診断・面接・新入所説明会	児童 9名 新入所予定児 3名 佐々木内科医師・看護師 1名 新入所児保護者 3名同伴
	28	火	卒園・修了記念写真	児童 17名
3	3	金	ひな祭り会	児童 17名 ケーキ会食
	10	金	お別れ会	児童 17名 プレゼント交換 お店屋さんごっこ
	25	土	卒園・修了式	児童 16名 保護者 来賓 4名

毎月の行事：・交通安全指導・避難訓練・防犯訓練・身体測定・誕生会

交流保育：・7/22 ブルーベリー摘み（二井田保育所年長児と）

- ・9/13 花岡・矢立保育所年長児来園
- ・8/9 二井田保育所年長児来園
- ・10/20 年長児沼館保育所を訪問
- ・7/27 沼館保育所来園（年長児）9/12（全園児来園）
- ・1/18 全園児二井田保育所を訪問

その他行事：・歯科検診(6月)・健康診断(9月・2月)・フッ素洗口指導(5月・12月)

・足型取り(5月・2月)・北教育事務所所内支援(9・21)・子ども課所内支援(8/8)

・保護者早朝作業奉仕（5/14・8/27 草取り・草刈り 7/9 プール掃除）

平成 28 年度 年間事業報告(下川沿保育所)

月	日	曜	行 事 名	参 加 者 (人數)・内 容 等
4	4	月	入園式、進級式	児童(35)保護者(39)来賓(4)
	27	水	列車の旅	年長児(13)年中児(11)下川沿駅～大館駅・桂城公園事業団バス
	28	木	子どもの日祝う会	児童(35)なかよし弁当
5	10	火	じやがいも種芋植え	児童(35)祖父母(7)
	11	水	ハチ公ボリスによる交通安全教室	児童(35)大館警察署員(2)小林重信さん
	20	金	保育参観、講演会、PTA総会	児童(36)保護者(36)北教成田葉子家庭教育アドバイザー 佐藤真紀子幼保指導員
	23	月	年長児個人面談始まる	年長児(13)情報交換 保護者の都合に合わせて 6/1まで
	24	火	さつまいも苗植え	児童(35)祖父母(6)
6	3	金	親子バス遠足	児童(35)保護者(44) 大館自然の家
	5	日	地域住民親睦運動会	児童(34)保護者(48) 下川沿中グランド
	7	火	わくわくピクニック	児童(36)石田ローズガーデン・桂城公園事業団・たしろ保バス
	8	水	歯科検診	児童(36)明日実病院水上歯科医師、衛生士(3)
	9	木	祖父母草取り交流会	児童(36)祖父母(26)ロイヤル学級(9)小林重信さん
	21	火	ラベンダー摘み ふれあい交流会	児童(37)川口小4年生(18)立花ファーム田の中公園
	28	火	ふれあい交流会	児童(35)川口小4年生(20)2回目
7	2	土	下川沿地区合同避難訓練	児童(31)川口小体育馆・グランドにて保護者と共に避難所体験・消火体験・非常食試食
	7	木	七夕集会・ふれあい交流会	児童(35)小林重信さん笹竹提供 川口小4年生(20)3回目
	15	木	ブルーベリー狩り PTA作業奉仕	児童(35)本宮ブルーベリー園 PTA役員(10)園庭草取り草刈
	28	木	所内研修支援	北教育事務所 浅野指導主事 沼田 石川 北林 たしろ保主任
	29	金	夏祭り	児童(37)来賓(3)保護者・中学生・小学生(96)地域の方々
8	24	水	じやがいも掘り	児童(34)祖父母(4)
	"	"	総合避難訓練	児童(34)田代分署から(3)想定 地震～火災

月	日	曜	行 事 名	参 加 者 (人數)・内 容 等
9	8	木	健康診断	児童(23)佐々木小児科医師
	18	日	地区敬老会	年長児(13)遊戯でお祝い
	24	土	保育所運動会	児童(35)来賓(4)保護者祖父母(約180)川口小グランド
	28	水	ディサービス”えがお”慰問	児童(13)遊戯 ふれあい遊び プレゼントを渡す
	29	木	なかよし遠足	児童(36)秋田犬会館・桂城公園 事業団・たしろ保バス
10	11	火	ふれあい交流会	児童(33名)下川沿中2年生(13)
	16	日	地区文化祭	児童(34)保護者・祖父母(30)絵画・遊戯で参加
	18	火	さつまいも掘り	児童(36)祖父母(8)
	20	木	防犯パレード	年長児(13)保護者(9)防犯協会の方々(17)駐在さん
	26	水	親子ふれあい体操	児童(11)保護者(10)公民館講師派遣大沢睦子先生
	28	金	焼いもパーティー	児童(33)
11	2	水	親子はみがき講習会	児童(31)保護者(28)水上歯科医師 衛生士(3)
	10	木	防犯訓練	児童(33)大館警察署から(3)不審者役 お話し
	16	水	ふれあい交流会	児童(35)川口小4年生(20)4回目
12	3	土	発表会	児童(36)来賓(3)保護者(130人位)
	20	火	クリスマス会	児童(36)少年自然のから先生(2)サンタ・ゲーム等
1	13	金	保育参観日、クラス懇談	児童(31)保護者(31)講師田口諒也先生
	17	火	子ども課訪問指導	日景先生 北林アドバイザー
	21	土	雪かきボランティア	中学生(47)校長・教頭先生他(5)小林重信さん
	26	木	H29度入所時健康診断・説明会	児童(23)新入園児(9)と保護者 佐々木小児科医師
2	3	金	豆まき	児童(31)小林重信さん(鬼役)
	4	土	保護者除雪作業奉仕	保護者(11)小林重信さん
	7	火	総合避難訓練(通報)	児童(33)
	9	木	お茶と和菓子の会(祖父母交流)	児童(34)保護者(8)祖父母(27)ロイヤル学級(6)小林重信さん
	17	金	にこにこ交流会	年長児(12)川口小にて一年生と交流
3	2	木	ひな祭り会	児童(34)
	7	火	お別れ会	児童(35)お弁当会食 プレゼント交換等
	8	水	川口小情報交換	奥山先生・原田先生
	25	土	卒園式・修了式	児童(36)保護者(58)来賓(5)

平成 28 年度 年間事業報告(沼館保育所)

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	火	平成 28 年度入所式	参加人数:児童26名とその保護者、来賓
	28	木	子どもの日祝会	ゲームや会食で祝う
5	9~	月	第 1 回個人面談	送迎の時間帯を活用し、保護者の希望に合わせ実施
	10	火	ジャガ芋植え	児童・保育士で実施
	12	木	教育専門監による保育指導	比内支援学校より
	19	木	交通安全教室	「クロネコヤマト」交通安全指導教室
	25	水	東中生職場体験	東中生2人による体験学習
	26	木	さつま芋苗植え・草取り(地域交流)	地域の老人会参加
6	8	水	保育参観日・歯科検診	保護者、児童の活動を参観後、親子で歯科検診
	9	木	第 1 回なかよしお風呂(年長児)	沼館温泉で年長児9人が、入浴体験
7	7	木	七夕集会(祖父母交流)	祖父母14人が、笹飾り作りやゲーム等で交流
	21	木	子ども課訪問支援	日景指導員による保育指導
	27	水	真中保育所交流会(年長児)	真中保育所室内にて交流
8	6	土	夏祭り会	保護者他77人の参加
	22	月	ジャガ芋掘り	農作業、収穫の喜びを体験
	26	金	総合避難訓練	消防署員指導により、避難訓練・煙体験
9	2	金	親子遠足	「少年自然の家」で親子で自然体験
	10	土	お神輿練り歩き	町内練り歩き
	12	月	りんご狩り・第 2 回真中保育所交流	真中でリンゴ狩り体験後、全児童が真中保で交流
	15	木	第2回なかよしお風呂(年中児)	年中児8人入浴体験
	16	金	児童健康診断	年中・少・未満児受診
	20 ~	火	デイサービスセンター大滝慰問	20日:年長,21日:年中,23日:年長慰問
10	3~	月 ~	陶芸体験(年長児・保護者)	顧問:田山伸夫先生による指導(食器作り)
	8	土	運動会	保育所園庭にて
	12	水	歩き遠足	雨天の為、所内にて
	13	木	第 3 回なかよしお風呂	沼館温泉で年少児4人入浴体験
			東中生作業奉仕活動	生徒12人が窓ふき等所内を清掃
	14	金	さつま芋掘り(地域交流)	町内老人会の協力を得る
	18	火	北教育事務所による要請訪問指導	各所指導員・保育園主任・地域関係者ら8人を迎えての公開保育指導

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
11	25	火	防犯訓練	警察署防犯課から署員を依頼
	2	水	焼き芋会(祖父母交流)	焼き芋・ゲーム・芋汁会食等で交流
	7	月	大根掘り	近所の方たちの協力で実施
	12	土	釧路内公民館文化祭	釧路内公民館にて児童16人が遊戯披露
	16	水	保育参観・歯科講習	保育参観後、伊藤歯科医による講話
	25	金	町内老人会たんぽ会訪問	沼館温泉にて遊戯披露や手遊びで一緒に楽しんだ
12	3	土	遊戯発表会	日頃の遊びを練習し発表
	16	金	クリスマス会	ワンパーク大館職員2名によるクリスマス会
1	23 ~	月	個人面談	2・3歳児
	25	水	H29 年度入所児健康診断・入所説明会	健診19人、入所説明会3人
	31	火	節分	ワンパーク大館職員2人による節分
2	23	木	お別れ会	一年間の振り返りができた
	28	火	防災避難通報訓練	消防署へ通報
3	3	金	ひな祭お茶会	祖父母、地域老人会5人参加で実施
	25	土	修了式	保護者、来賓4人

・毎月の行事：交通指導・身体測定・避難訓練・防災訓練・誕生会

平成 28 年度 年間事業報告(花岡保育所)

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	火	入所式・保護者会総会	児童 34 名・保護者 28 組
	6	水	交通安全出発式	5歳児 13 名 大館警察署 田代保育園バス 引率 2 名
	27	水	保小連絡協議会	花小職員 10 名・保育所 3 名 H28 年度計画検討(花小)
5	15	日	花岡小学校運動会参加	5歳児 13 名参加 保護者付き添い
	24	火	保育参観・子育て講座	講師小山明子氏 保護者 26 組参加
	27	金	地域交流(野菜苗植え・誕生会)	地域の方 7 名と誕生児の家族 人参・じやが芋・オクラ・ピーマン・ミニトマト・ナス・キュウリ等
	30	月	草取り奉仕開始①	園舎の周囲 保護者都合のつく時間で
6	6	月	石田ローズガーデン見学・矢立保育所交流	5歳児 13 名 田代保育園バス 引率 2 名
	8	水	神山荘シルバーオリンピック参加	3～5歳児 31 名 遊戯・玉入れ・遊競技参加

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	9	木	親子バス遠足	児童 31名・保護者 34名・職員 4名 能代こども館
	22	水	歯科検診	児童 35名 こう歯科医師
7	7	木	保小交流七夕交流会	児童 35名と花小 5年生 8名が笹飾りと一緒に飾り付ける、おやつ・飾りを神山荘などに届ける
	15	金	夕涼み会	児童 35名と家族、地域の方々 夜店の雰囲気を楽しむ
	21	木	国際情報高校インターンシップ	2年生 1名 3日間 保育士体験
	29	金	年長児ブルーベリー摘み取り	5歳児 14名 本宮 事業団バス
8	6	土	北陽中学校窓ふきボランティア	中学生 16名
	23	火	花岡小学校職員保育参観 北教育事務所要請訪問 ミニ公開	花小職員 12名・浅野指導主事・日景指導員・石川、北林アドバイザー・城南主任・第三者評価委員予定者 助言指導
	26	金	総合避難訓練	児童 35名・消防北分署署員 3名 避難・煙体験・ビデオ
	30	火	草取り奉仕開始②	園舎の周囲 保護者都合のつく時間で
9	4	日	敬老会	5歳児 11名 戯遊でお祝い 公民館にて
	6	火	桂桜高校インターンシップ	2年生 4名 3日間 保育士体験
	9	金	クロネコヤマト交通安全教室	車からの死角・横断歩道の渡り方等
	13	火	年長児りんご狩り	5歳児 13名 赤石富樫りんご園へ 真中保育所と交流
	17	土	小中学生子どもハローワーク	小中学生 8名 運動会準備手伝い
	21	水	保小交流 花小學習発表会予行見学	児童 35名 小学校へ
	24	土	運動会	児童 35名・保護者 祖父母 90名位・地域の方 4名・来賓 5名・中学生子どもハローワーク 8名
	26	月	地域交流さつま芋堀	4・5歳児 23名掘る 地域の方 5名
10	5	水	児童健康診断	2・3・4歳児 20名(1名欠席後日) 石田内科
			花岡小学校就学時健診	5歳児 12名(1名欠席後日)
	6	木	歩き遠足	4・5歳児 松峰児童館 2・3歳児 鳥潟会館
	14	金	子ども課訪問指導	日景指導員・石川、北林アドバイザー 助言指導
	31	月	個人面談開始	日程は保護者の希望に合わせ、一人 30分位 情報交換
11	6	日	花岡地区産業文化祭参加	5歳児 13名・4歳児 10名 遊戲参加 保護者付き添い 全員絵出品
	16	水	交通安全母の会交通指導	交通安全母の会から 3名 児童に反射ホルダー
			親子虫歯予防指導	児童 33名・保護者 27名 参加 こう歯科 講話・指導

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
12	17	木	防犯訓練教室	児童 35名 警察官 3名による
	10	土	遊戯会	児童 35名・来賓、保護者家族 90名
	16	金	祖父母交流	児童 33名・祖父母 31名・昔遊び
	21	水	クリスマス会	児童 31名・少年自然の家職員・サンドイッチ会食
	22	木	ショートステイとんぼクリスマス慰問	5歳児 14名・ジャンボタクシー送迎・引率 2名
1	18	水	平成 29 年度健康診断・面接・説明会	対象児童 24名 健診
	24	火	保育所小学校カルタ大会	5歳児 14名・引率 2名 鳥潟会館
	25	水	保育参観日	児童 34名・保護者 27組・比内支援学校畠山佳子先生の運動と講話
2	2	木	豆まき	児童 34名・地域の方 2名が鬼役
	8	水	花岡小学校一日体験入学	5歳児 13名・引率 1名 桂城小学校 1名は後日
	16	木	卒園記念写真撮影	児童 35名
3	2	木	ひなまつりお茶会	児童 28名・地域の方 3名 指南役・来賓 2名・保護者の手伝い・すし会食
	10	金	お別れ会	児童 34名
	25	土	卒園修了式	児童 35名・来賓 5名・保護者 29名

毎月の行事 ・身体測定・交通指導・避難訓練・防犯訓練・誕生会・絵本読み聞かせ(小学校、矢立保育所との交流の月もある)

平成 28 年度 年間事業報告(矢立保育所)

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	火	入所式並びに保護者会	児童 17名 保護者 25名 来賓 5名
	27	水	花岡保育所との交流①(絵本読み聞かせ)	年長児 4名 保育士 1名 保育補助1名 往復バス利用
5	16	月	地区祭典(神社参拝)	児童 13名が参拝 お菓子をいただく
	17	火	交通安全教室	児童 15名 クロネコヤマトの方4名
	20	金	保育参観(矢立小学校体育館にて運動遊び)	児童 17名 保護者 15名 講師…大澤睦子先生
	25	月	じゃが芋・さつまいも苗・夏野菜植え	児童 17名
6	6	月	花岡保育所との交流②(ばら園見学)	年長児 4名 保育士 1名 往復たしろ保育園のバス利用
	15	水	花岡保育所との交流③(絵本読み	年長児 4名 保育士 1名 保育補助1名 往復バス利用

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
7			聞かせ)	
	17	金	親子バス遠足(浅虫水族館)	児童 17名 保護者 17名
	15 日～ 24 日		個人面談	
	21	火	歯科検診 矢立小避難訓練に参加	児童 17名 神成歯科医 児童 17名 保育士 3名
	22	水	デイサービス・ニチイ慰問	児童 17名 保育士 3名 保育補助 1名
	5	火	矢立小学校 2・3 年生との交流	児童 17名 小学 2・3 年生と教諭
9	9	土	夕涼み会	児童 17名 来賓 5名 北陽中生ボランティア 12名 保護者・地域の方多数
	25	木	要請訪問	児童 15名 保育士 3名 浅野先生他 8名
	29	月	じやが芋掘り	児童 13名
	6	火	健康診断	児童 13名(2～4歳児) 梅内小児科
10	12	月	音楽療法教室に参加(公民館主催)	児童 16名 保育士 3名 講師…田口諒也
	13	火	りんご狩り(花岡保育所との交流 ④) (真中保育所との交流)	年長児 4名 保育士 1名 保育補助 1名 りんご狩り後、真中保育所で交流 往復事業団のバス利用
	17	土	矢立地区敬老会	3～5歳児 12名 保育士 3名
	1	土	運動会(矢立小グラウンドにて)	児童 17名 保育士 3名 保育補助 1名 来賓 2名 保護者多数 きらきらクラブの小学生 6名と指導員 1名
11	5	水	秋の遠足(福祉エリア)	児童 17名 保育士 3名 補助 1名 行きは電車、帰りは事業団のバス利用
	12	水	花岡保育所との交流⑤(絵本読み聞かせ)	年長児 4名 保育士 1名 保育補助 1名 往復バス利用
	14	金	さつま芋掘り	児童 17名
	24	月	所内支援	児童 16名 保育士 3名 日景先生他 1名
	26	月	就学時健診	年長児 4名
	2	水	焼き芋会	児童 15名
	6	日	矢立公民館祭り	児童 13名(3～5歳児) 保育士 3名
	9	水	七五三参り	児童 15名
	10	木	歯科講習会	児童 15名 保護者 13名 神成歯科
	16	水	育成園にて移動水族館見学	児童 16名 保育士 3名
	19	土	餅つき会(公民館子育て支援)	児童 17名 保育士 3名 公民館長・主事

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
			※音楽レクリエーションあり	婦人会のお手伝い 3名 保護者多数 講師…田口諒也
12	3	土	おゆうぎ会	児童 17名 保護者多数 来賓 1名 育成園の方 10名
	9	金	防犯訓練	児童 14名 大館警察署の方 4名
	14	水	花岡保育所との交流⑥(絵本読み聞かせ)	児童 14名 保育士 3名 往復事業団のバス利用
	21	水	クリスマス会	児童 17名 少年自然の家の方 2名
	22	木	矢立公民館竣工式に参加	児童 16名 保育士 2名 保育補助 1名
1	25	水	保育参観 (フッ素洗口説明会あり)	児童 17名 保護者 18名
	25~2/10		個人面談	
2	1	水	豆まき	児童 17名 育成園の方 3名
	7	火	1日体験入学	年長児 4名 保育士 1名 保護者 3名
	17	金	平成29年度入所児健康診断	2~4歳児 8名 入所児 2名 花保の入所児 1名 梅内小児科
	22	水	祖父母交流お茶会	児童 15名 祖父母 14名 お手伝いの保護者5名
3	3	金	ひな祭り会	児童 17名
	8	水	お別れ会	児童 17名
	10	金	佐伯モリヤスさんの太鼓演奏(公民館主催)	児童 17名 保育士 3名
	25	土	卒園式・修了式	卒園児 4名 修了児 13名 保護者多数 来賓 5名

・毎月の行事 避難消火訓練、防犯訓練、交通指導、身体測定、お誕生会

平成 28 年度 年間事業報告(長木保育所)

月	日	曜	行 事 名	参 加 者 ・ 備 考
4	5	火	入所式	全児童・保護者・来賓 約 155名 在籍 67名
	24	日	水交苑お花見会慰問	年長児・保護者 年長児遊戯披露(17名)
5	13	金	じゃがいも種芋植え	3・4・5歳児 59名・祖父母 10名 祖父母にお手伝いしてもらう。
	20	金	保育参観日	全児童 61名・保護者 60名 フォークダンス・虫かごづくり・懇談会
	23	月	5歳児個人面談(～6/3)	5歳児保護者 18名 保護者の希望を取り実施
	24	火	わくわくピクニック	5歳児・職員 2名 5歳児がスクールバスに乗りふれあいセンターやまびこに行く。

月	日	曜	行 事 名	参 加 者 ・ 備 考
6	25	水	チャレンジディ in 大館	全児童 67名参加 樹海ドームで行われたものに参加
	3	金	さつま芋苗植え・祖父母交流会	全児童 6名・祖父母 17名 苗植え後一緒に遊び交流
	17	金	親子バス遠足	全園児 61名・保護者 能代エナジアムパーク
	12	日	地区運動会	全児童 59名・保護者 親子競技、フォークダンス参加
	20	月	4歳児個人面談(～6/30)	4歳児保護者 保護者の希望を取り実施
	23	木	歯科検診	全園児 63名 嘴託医:大館市立総合病院歯科医
7	1	金	年長児お泊り保育	5歳児 17名・職員 7名(宿泊 3名) 大館少年自然の家で行う(ゲーム・制作)～2日(土)
	5	火	保・小・児童館交流会打ち合わせ	1年生担任+5歳児担任+所長 長木小学校で日程・内容の打ち合わせ
	7	火	七夕集会	全児童 64名 歌や由来のお話
	11	月	親の会草取り週間(～16日)	保護者 都合の良い時間に1時間程度草取り
	20	水	保・小交流会	5歳児 16名・1年生・児童館 5歳児 自己紹介・樹海体育馆広場で交流
	21	木	インターンシップ生来所	国情 2年生 1名 保育手伝い(～25日)かき氷屋さんごっこ・夕涼み会
	22	金	夕涼み会	全園児・保護者・卒園児・他 18時～20時実施(総勢300人程度)
	25	月	2.3歳児個人面談(～8/5)	2.3歳児保護者 保護者の希望を取り実施
	27	水	保育見学	5歳児 15名・就学支援員仲谷先生 就学前の児童の様子を見学
	29	金	所内研究会・保育指導日	子ども課 1名・教育アドバイザー1名 保育見学・協議
8	1	月	自由保育参観(～5日)	保護者(期間中 20名) 参観希望保護者来所
	2	火	じゃがいも掘り	3・4・5歳児 56名・祖父母 9名 2歳児見学、祖父母お手伝いのみ
	4	金	総合避難訓練	全児童 62名・大館消防署北分署消防士 3名 地震後火災発生・煙体験
	25	木	公民館高齢者学級交流会	全児童 65名・公民館高齢者 保育所で歌や盆踊り、肩たたき交流
9	6	火	北教育事務所要請訪問	指導主事、指導員、保育・教育アドバイザー、公立主任2名 長木小校長・田中連携委員来所。保育参観・協議
	14	水	水交苑敬老会慰問	5歳児 17名 敬老会に遊戯を披露する

月	日	曜	行 事 名	参 加 者 ・ 備 考
	24	土	運動会	全児童 66名・保護者・卒園児・長木小校長・公民館長・連携委員 長木小学校グラウンド使用
	28	水	健康診断	2・3・4歳児 52名 児童のみ健診、年長児は就学時健診受診
10	4	火	歩き遠足	全児童 66名 目的地…郷土博物館(館内見学)
	5	水	保・小交流会	5歳児 16名・長木小1年生・天下町児童館 ドーム森で交流(自然物探し)
	7	金	さつまいも掘り・祖父母交流会	全児童 64名・祖父母 17名 収穫後、交流会(肩たたき遊び)
	19	水	防犯避難訓練・防犯教室	全児童 62名・大館警察署員 3名 防犯訓練と教室
	21	金	やきいも会	全児童 64名 収穫したさつま芋を焼き、食す。地域の方に届ける(8ヶ所)
	30	金	ハロウィンごっこ	全児童 65名・地域 7か所 仮装して地域に出かけ、お菓子をいただく
11	11	金	長木小タンポポ委員会訪問	3・4・5歳児 54名・タンポポ委員会 11名・教諭 2名 長木小作成「エゾタンポポ」の紙芝居「またあえたね」の読み聞かせ
12	10	土	発表会	全児童 65名・来賓・家族 遊戯・歌披露
	20	火	クリスマス会	全児童 62名・少年自然の家 サンタクロースヒゲーと歌を歌う。プレゼントをもらう。
	29	木	年末年始休み(~1/3)	
1	16	月	年長組個人面談開始(~28日)	一日 3~4人 保護者の希望を取り実施
	19	木	保育参観日・クラス懇談	全児童 66名・保護者 60名・ケーブルテレビ 保護者と一緒に鬼のお面づくりをする。
2	2	木	豆まき会	全児童 61名参加・少年自然の家 鬼と一緒に豆まき・ゲーム
	8	水	卒園記念写真撮影	全児童 63名 欠席 3名 全職員と一緒に記念写真撮影
	9	木	交通安全教室	全児童 57名参加・大館警察署員 警察署員からお話を聞く。着ぐるみと一緒に道路の渡り方を練習をする。
	9	木	親子歯磨き教室	全児童 57名・保護者 43名・歯科医 歯科医の講話と児童へ歯磨き指導
	15	水	平成29年度健康診断・面接	児童 50名・新入所児童(保護者)11名 2・3・4歳児と新入所児童が健診を受ける。

月	日	曜	行 事 名	参 加 者 ・ 備 考
3	16	木	長木小ジャンプフェスティバル参加	年長児 16名と長木小 1年生の交流 小学校の紹介とゲームをして交流する。
	22	水	年長組ドッジボール参観	年長組・年長保護者 ドッジボールの様子を参観したり、保護者と一緒に行う。(～24日)
3	3	金	ひな祭り会	全園児 64名 お話と写真撮影。桜餅を味わう。
	4	土	平成 29 年度入所説明会	新入所保護者 11名・2歳児保護者 5名 保育過程・保育目標、持ち物について説明。
	7	火	年長組お別れ遠足	年長組 15名 消防署見学・いとくショッピングセンターで昼食を食べてくる。
	21	火	お別れ会	全児童 62名参加 プレゼント交換。
	25	土	卒園式・修了式	全園児 58名・来賓・卒園児保護者 2歳児はクラスで修了式を、3歳以上児はホールで一緒に卒園式・修了式を行う。